

聴覚障害者への情報保障のあり方調査

2005年5月26日
国際ユニヴァーサルデザイン協議会
情報保障委員会

目次

はじめに

調査実施にあたり

調査の概要

- 1 調査の目的
- 2 調査の背景
- 3 本調査のフォーメーション
- 4 調査の設計・調査方法・回収結果
- 5 障害者の現状

調査結果の詳細

(A) アンケート調査

- 1 プロフィール
- 2 日常のコミュニケーションについて
 - 2 - 1 家族とのコミュニケーション
 - 2 - 2 仕事関連のコミュニケーション
 - 2 - 3 その他の関係のコミュニケーション
- 3 イベント参加について
 - 3 - 1 情報の取得方法
 - 3 - 2 イベントの形態による参加傾向
 - 3 - 2 - (イ) 少人数型の場合
 - 3 - 2 - (ロ) 教室型セミナーの場合
 - 3 - 2 - (ハ) 講演会の場合
 - 3 - 2 - (ニ) 映画・演劇・コンサートの場合
 - 3 - 2 - (ホ) その他
- 4 情報保障の現状
 - 4 - 1 情報保障依頼の現状と希望
- 5 講演会での情報保障(手話通訳)について
 - 5 - 1 講演会での座る位置
 - 5 - 2 講演会において通訳者をつける場合の希望位置
 - 5 - 3 手話通訳の席がある場合の積極的利用度
- 6 講演会での情報保障(文字保障)について

7 他施設の情報

7 - 1 被験者から見て良かったところ

7 - 2 これから出かけたがたい又は出かけようと思っているイベント

8 アンケート自由記載

(B)ストーリー調査

(B - 1)講演会参加のストーリー調査

1 概要

2 キーワード・まとめ

3 ヒアリング記録

(B - 2)映画鑑賞のストーリー調査

1 概要

2 キーワード・まとめ

3 ヒアリング記録

(C)講演会の実施

1 写真・実施日

2 アンケート集計

(D)調査のまとめ

これからの方向性

1 コミュニケーション手段の現状と可能性

2 情報保障の方向性

3 今後の課題

参考資料

1 アンケート用紙

2 アンケートに使用した用語について

3 調査写真

4 事例調査

5 資料

6 障害の区分・程度

はじめに

IAUD 情報保障委員会では、IAUD 主催の各種イベント(講演会、セミナー、会議等)の情報保障を適切に行うため、2006 年の国際会議からの適用を目指し、3 ヶ年の予定でガイドラインの作成に取り組んでいます。

今回の調査は、ガイドライン作成のための基礎調査の一環として、ユーザーのニーズの的確な把握を目的としています。初回の 2004 年度は、聴覚障害者にフォーカスを当て調査を実施しました。調査にあたっては委員の皆さんの知見をもとに基本的な仕様を検討し、調査会社5社に詳細な調査計画のプロポーザルをお願いしました。最終的には5社のうち3社から提案をいただき、委員会にて比較検討の結果、今回は調査内容、費用などを総合的に評価し(株)アルモ設計様に依頼いたしました。

この報告書はその調査結果をまとめたものですが、内容的にはユーザーのヒアリングやモニター調査にとどまらず、障害についての理解を深めるための情報や解説を含んでおり、IAUDのイベント企画・運営に関わる方だけでなく、IAUD会員の皆さまにも幅広くご活用いただけるものと自負しております。とはいえ、まだまだ不足を感じる部分も多く、また、会員の皆さまの中には、もっと幅広いニーズとノウハウの両方があるのではと推察しております。

今後、会員の皆さまのご意見・ノウハウをフィードバックし、さらに実用に耐えるものに内容を強化していきたいと考えております。また、調査対象者を視覚障害や肢体障害へ広げ、調査結果を実際のイベントの企画・運営に活用しやすいかたちにまとめていくことが重要と考えています。本書をUD活動の一助としてご活用いただくとともに、情報保障に対する皆さまのご理解と、浸透・運用へのご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

最後に、本書完成が予定からかなり遅れ、事務局を始め関係者の皆さまにはご迷惑をおかけしましたこととお詫び申し上げますとともに、当初の期待を上回る内容に仕上げていただいた(株)アルモ設計の森本八月喜様をはじめ、調査にご協力いただいた多くの方々、および委員の皆さまのご尽力に敬意を表し、深く感謝申し上げます。

国際ユニヴァーサルデザイン協議会
情報保障委員会 委員長 蔦谷邦夫

調査実施にあたり

聴覚に障害を持つ人の日常生活での自立を支援し、幅広く社会活動で活躍していただくため、広範囲な「情報保障」の実現が現下の重要課題であると考えます。

このたび国際ユニヴァーサルデザイン協議会情報保障委員会が実施される聴覚障害者のイベント参加に係る「ユーザー調査」に、ユニヴァーサルデザインへの取組みを進めているアルモ設計が調査担当企業として関わったことは大変意義深いことと存じます。

今回の調査では、多様な障害と生活経験をもった方からご意見を集めるとともに、可能な限り生活者の視点から「情報保障」を実現するための課題を抽出することに努めました。

また、聴覚障害をもった方だけでなく健常者もふくめた社会活動での情報保障のあり方についても、広くご意見をいただくよう努めました。

本報告書は、今回の調査を通して入手した情報をできるだけ生の形でまとめることで、今後の情報保障の実現に向けての議論と研究に役立つことを心がけました。

最後に本調査の企画並びに被験者のご紹介など、鹿島建設株式会社塩野谷富彦様、言語聴覚士草野久美栄様・田中紘美様、横浜国立大学大学院木下知威様に多大なご協力を頂きました。ここに深くお礼を申し上げます。

株式会社 アルモ設計
西本 和彦

調査の概要

1 調査の目的

本調査は、情報障害者に対して、各種イベント(講演会、セミナー、会議 等)の場所において情報保障を適切に行うために、その情報保障ガイドラインを作成するための基礎調査である。

情報障害者のなかでも今回は聴覚障害者に絞り込み、基本的なコミュニケーションの現状に加えて、イベントについて開催会場だけに限定せず、イベント参加へのきっかけ・情報収集、会場までの行程、イベント前後の会場対応・そこでのやりとり、イベントへの理解度、情報保障の満足度等、一連行動の流れの中での情報保障に視点を置いた。これらは、おしなべて本人のコミュニケーション能力、コミュニケーション手段だけでなく、コミュニケーション環境の整備につながると考える。これをキーワードに、ユーザーのニーズの的確な把握と、その情報保障の環境整備への解決策を導くための第一歩として実施した。

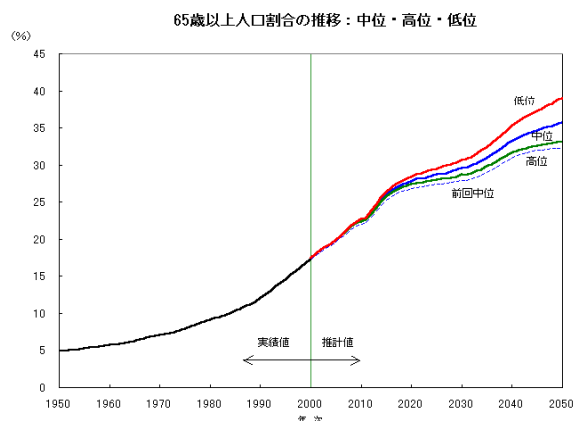
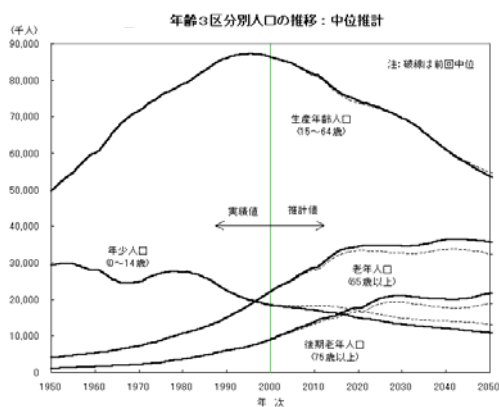


2 調査の背景

わが国では、急速に「高齢化」と「情報化」という二つの大きな変化が進行している。

「高齢化」については、厚生省国立社会保障・人口問題研究所が発表した「日本の将来推計人口(2002年1月推計)」では、老年(65歳以上)人口はおよそ現在の2,200万人から平成25(2013)年に3,000万人を突破し、平成30(2018)年の3,417万人へと急速な増加を続ける。65歳以上の高齢化が全人口に占める割合は、2025年には約27%になることが予測され、いわば国民の4人に一人以上が65歳以上であるという高齢化社会を迎える。また、身体障害者(身体障害児を含む)の総数は、約350万人、精神障害者及び知的障害者・知的障害者の総数は約300万人と推計されている(出展:総理府「障害者白書」2004年版)。こうした中で、障害者の高齢化・高齢による障害も顕著になり、聴覚障害(難聴)も増加傾向にあるといえる。

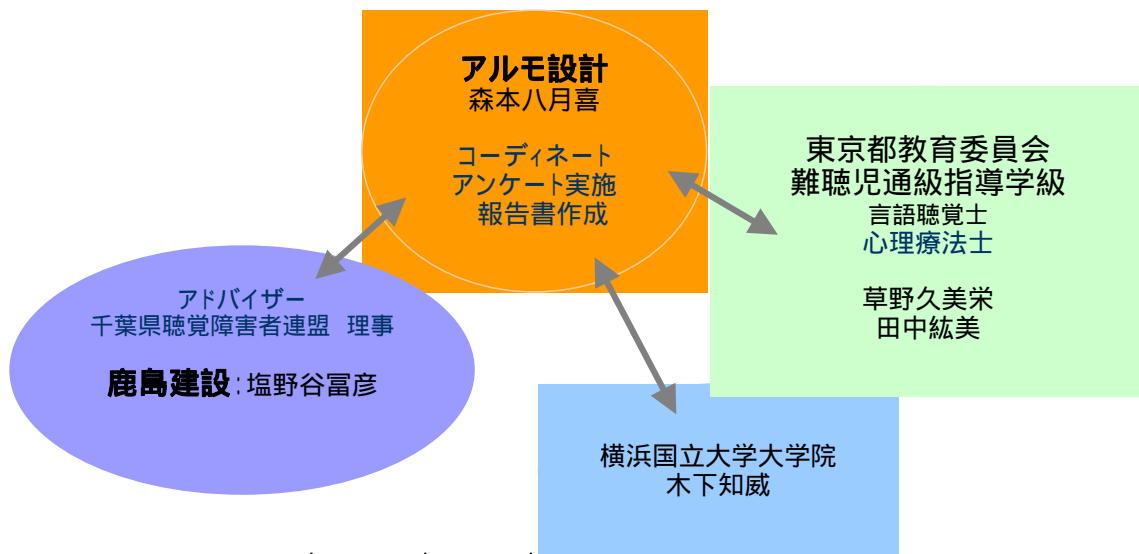
「情報化」については、近年の情報技術の進歩により、携帯電話等の移动通信やインターネット等のコンピュータ通信の急速な普及、デジタル衛星放送の登場等、急激な変化が生じている。情報通信機器・システムは、障害者・高齢者のコミュニケーションの範囲を拡大し、日常生活や職場活動を行う上で有効なツールであると考えられる。今後これらの社会環境の変化を見据えた上で、今日的なイベント等の情報保障を考えていくことが必要であろう。



調査の概要

3 本調査のフォーメーション

今回の調査においては、聴覚障害者の指導にあたっては心理療法士の方々、また、自身が聴覚障害者であり建築に携わっている方々との協力体制の中で、アンケートの設計・調査を実施した。



4 調査の設計・調査方法・回収結果

調査の設計主旨

(A) アンケート調査

聴覚障害者をサンプリングし、日常生活でのコミュニケーション、各種イベントの参加について、イベントの情報保障について、紙ベースでの記述式とインターネットでの回答両方で実施する。

(B) ストーリー調査 (2回)

サンプルのイベントを抽出して、あらかじめ行動の物語(シナリオ)をつくり、そのストーリーにそって行動してもらう。今回は、イベント情報の収集、参加するための意思決定、具体的情報収集の方法、当日の準備、待ち合わせ、会場までの道のり、会場でのやりとり、イベント内容、打ち合わせ、帰路という一連の流れのなかで、調査員がつきっきりでヒアリングする。

(B-1) 講演会参加のストーリー調査 サンプル: パトリシア・ムーア氏の講演会

(B-2) 映画鑑賞のストーリー調査 サンプル: 東宝映画「ローレライ」

(C) 講演会のテスト実施

教室型セミナーの規模で、聴覚障害者の講演を、障害者・聴者が聴衆となる。

調査方法・回収結果

(A) アンケート調査

アンケート用紙は、資料編に添付

a) 調査対象

本アンケート回答は、以下の依頼先から回収した。

- 1) 言語聴覚士からの紹介機関や学校
- 2) 耳の日(2005年3月5日)の聴覚障害者祭りへの参加者
- 3) 聴覚障害者自身からの紹介
- 4) 聴覚障害者WEBサイト(DEAF-UNION)への掲載

b) 調査の時期

紙ベースアンケート 2005年2月23日(水)配布開始

第一次回収 2005年3月14日(月)締め切り

第二次回収 2005年4月11日(月)締め切り

インターネットアンケート 2005年3月14日(月)～3月31日(木)

調査の概要

c)回収結果

| | 配布 | 回収 |
|----------|-----|----------|
| 紙ベース 第一次 | 180 | 82 |
| 第二次 | 20 | 7 |
| インターネット | | 50 |
| | | 139 (合計) |

(B)ストーリー調査 (2回)

(B - 1)講演会参加のストーリー調査 サンプル:パトリシア・ムーア氏の講演会

a)調査対象

アンケート調査の中から、被験者をサンプリングした。

参加者 4名

b)調査の実施日

2005年 3月28日(月) 12:00 ~ 18:00

(B - 2)映画鑑賞のストーリー調査 サンプル:東宝映画「ローレライ」

a)調査対象

アンケート調査の中から、被験者をサンプリングした。

参加者 7名

b)調査の実施日

2005年 4月 9日(土) 14:30 ~ 19:30

(C)講演会のテスト実施

a)実施

開催日:2005年4月6日(水)18:30~

場 所:株式会社アルモ設計 セミナールーム

講 師:塩野谷富彦(鹿島建設株式会社)

演 題:『聴覚障害者とは何か』 - 海外から見た日本観 -

b)参加者 約40名

5 障害者の現状

障害者白書(2001年度)によると、障害者の数は、身体障害者が約350万人、知的・精神障害者が約300万人である。しかし、年齢別に見ると、39歳以下の障害者はここ30年で減少傾向にあるが、40歳から64歳で約2倍、65歳以上で約5倍と、高齢になるに従いその人口増加以上に障害者の数が増加傾向にある。

障害児・者の状況

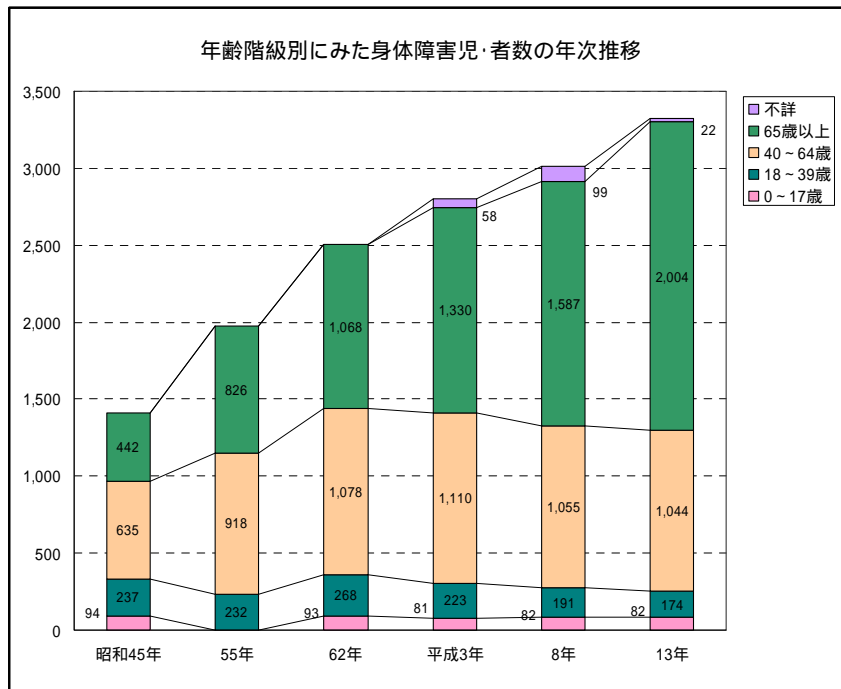
(単位:万人)

| 区分 | 総数 | 在宅者 | 施設入所者数 |
|--------------|-------|-------|--------|
| 身体障害児・者 | 351.6 | 332.7 | 18.9 |
| 身体障害児(18歳未満) | 9.0 | 8.2 | 0.8 |
| 身体障害者(18歳以上) | 342.6 | 324.5 | 18.1 |
| 知的障害児・者 | 45.9 | 32.9 | 13.0 |
| 知的障害児(18歳未満) | 10.3 | 9.4 | 0.9 |
| 知的障害者(18歳以上) | 34.2 | 22.1 | 12.1 |
| 年齢不詳 | 1.4 | 1.4 | 0 |
| 精神障害者 | 258.4 | 223.9 | 34.5 |
| 合計 | 655.9 | 589.5 | 66.4 |

資料:厚生労働省「平成13年身体障害児・者実態調査」等

年齢階級別にみた身体障害児・者数の年次推移

| | 0～17歳 | 18～39歳 | 40～64歳 | 65歳以上 | 不詳 |
|-------|-------|--------|--------|-------|----|
| 昭和45年 | 94 | 237 | 635 | 442 | 0 |
| 55年 | 0 | 232 | 918 | 826 | 1 |
| 62年 | 93 | 268 | 1,078 | 1,068 | 0 |
| 平成3年 | 81 | 223 | 1,110 | 1,330 | 58 |
| 8年 | 82 | 191 | 1,055 | 1,587 | 99 |
| 13年 | 82 | 174 | 1,044 | 2,004 | 22 |



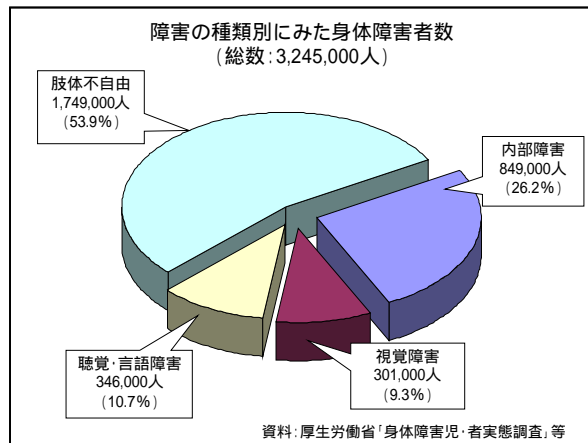
調査の概要

聴覚障害者は、約 35 万人(約 10%)であるが、これは身体障害者福祉法で、聴力レベルが両耳とも 70dB 以上の人()が対象になる。しかし、実生活上は 40dB から 50dB で支障が出てくる。何らかの聴覚の低下が見られる人は約 600 万人といわれている。この大部分は難聴者であり、35 万人のうち 60 歳以上が 72%を占めるのは、高齢化社会を反映した結果と言える。

片耳が 90dB 以上でもう一方が 50dB 以上、あるいは両耳の言音明瞭度が 50%以下でも該当する。

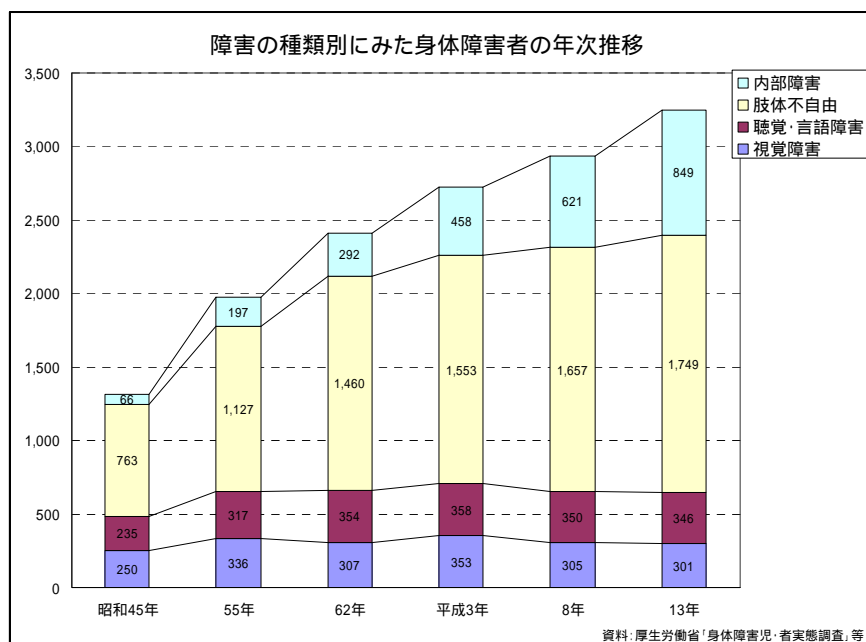
障害の種類別にみた身体障害者数(総数:3,245,000人)

| | % | 人 |
|---------|------|-----------|
| 内部障害 | 26.2 | 849,000 |
| 視覚障害 | 9.3 | 301,000 |
| 聴覚・言語障害 | 10.7 | 346,000 |
| 肢体不自由 | 53.9 | 1,749,000 |



障害の種類別にみた身体障害者の年次推移

| | 視覚障害 | 聴覚・言語障害 | 肢体不自由 | 内部障害 |
|-------|------|---------|-------|------|
| 昭和45年 | 250 | 235 | 763 | 66 |
| 55年 | 336 | 317 | 1,127 | 197 |
| 62年 | 307 | 354 | 1,460 | 292 |
| 平成3年 | 353 | 358 | 1,553 | 458 |
| 8年 | 305 | 350 | 1,657 | 621 |
| 13年 | 301 | 346 | 1,749 | 849 |

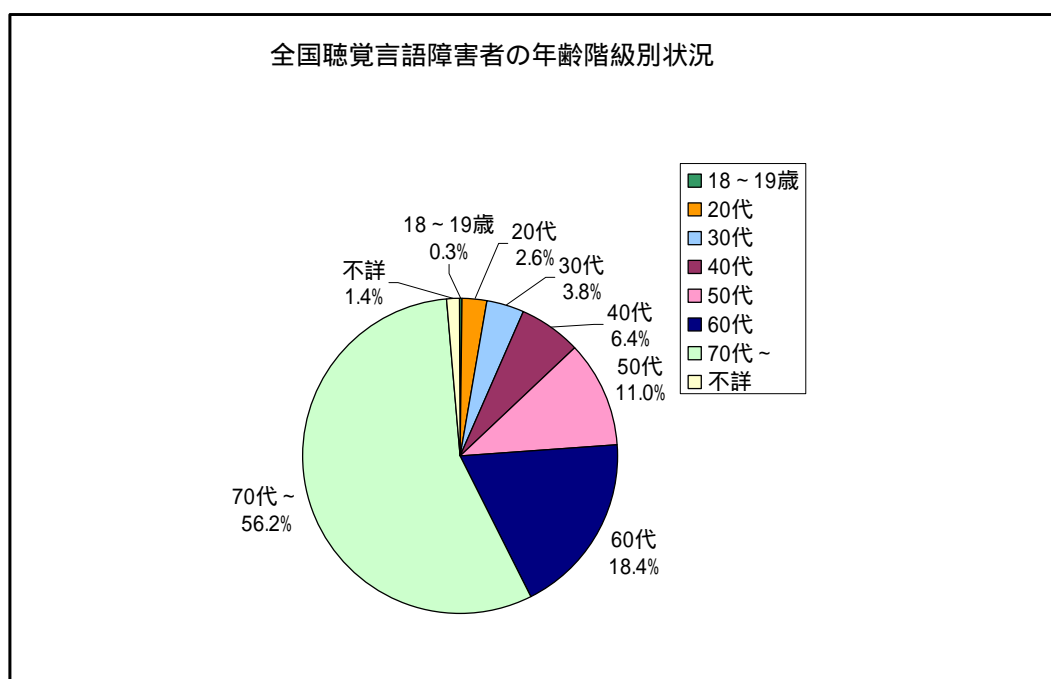


調査の概要

身体障害者の年齢階級別状況

| | 総数 | 18～19歳 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代～ | 不詳 |
|--------------|-----------|--------|--------|--------|---------|---------|---------|-----------|--------|
| 障害者全体 | 3,245,000 | 11,000 | 70,000 | 93,000 | 213,000 | 468,000 | 885,000 | 1,482,000 | 22,000 |
| | 100% | 0.3% | 2.2% | 2.9% | 6.6% | 14.4% | 27.3% | 45.7% | 0.7% |
| 視覚障害者 | 310,000 | 不明 | 7,000 | 8,000 | 16,000 | 47,000 | 66,000 | 155,000 | 2,000 |
| | 100% | | 2.3% | 2.7% | 5.3% | 15.6% | 22.9% | 51.5% | 0.7% |
| 聴覚言語障害 | 346,000 | 1,000 | 9,000 | 13,000 | 22,000 | 33,000 | 64,000 | 195,000 | 5,000 |
| | 100% | 0.3% | 2.6% | 3.8% | 6.4% | 11.0% | 18.5% | 56.4% | 1.4% |
| 肢体不自由 | 1,749,000 | 8,000 | 45,000 | 59,000 | 130,000 | 271,000 | 488,000 | 739,000 | 9,000 |
| | 100% | 0.5% | 2.6% | 3.4% | 7.4% | 15.5% | 27.9% | 42.3% | 0.5% |
| 内部障害 | 849,000 | 2,000 | 9,000 | 13,000 | 45,000 | 113,000 | 266,000 | 394,000 | 6,000 |
| | 100% | 0.2% | 1.1% | 1.5% | 5.3% | 13.3% | 31.3% | 46.4% | 0.7% |
| 重複障害 (再掲) | 175,000 | 1,000 | 3,000 | 6,000 | 11,000 | 10,000 | 57,000 | 86,000 | 1,000 |
| | 100% | 0.6% | 1.7% | 3.4% | 6.3% | 5.7% | 32.5% | 49.1% | 0.6% |

全国聴覚言語障害者の年齢階級別状況

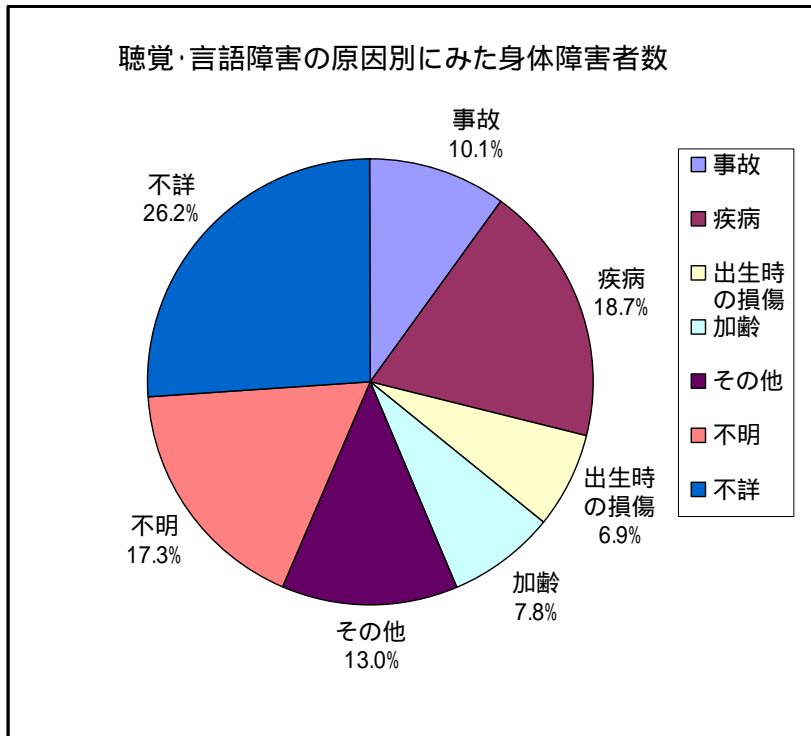


調査の概要

障害の種類別・障害の原因別にみた身体障害者数

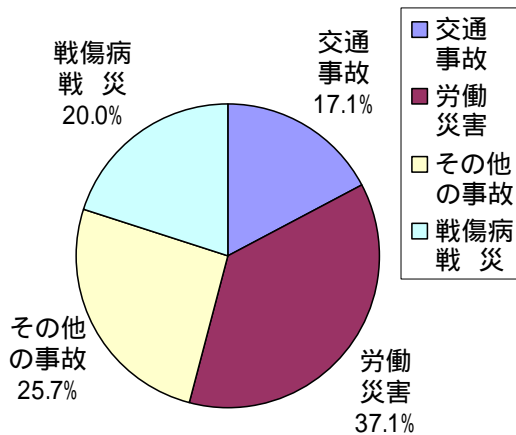
(単位:千人,%)

| | 総数 | 事 故 | | | | | 疾 病 | | | | 出生時の損傷 | 加齢 | その他 | 不明 | 不詳 |
|----------|---------|-------|-------|--------|-------|--------|-------|-------|--------|--------|--------|-------|--------|--------|--------|
| | | 交通事故 | 労働災害 | その他の事故 | 戦傷病戦災 | 小計 | 感染症 | 中毒性疾患 | その他の疾患 | 小計 | | | | | |
| 総数 | 3,245 | 144 | 204 | 150 | 55 | 553 | 76 | 13 | 760 | 849 | 145 | 154 | 349 | 461 | 734 |
| | (100.0) | (4.4) | (6.3) | (4.6) | (1.7) | (17.0) | (2.3) | (0.4) | (23.4) | (26.2) | (4.5) | (4.7) | (10.8) | (14.2) | (22.6) |
| 視覚障害 | 302 | 6 | 10 | 13 | 4 | 33 | 3 | 2 | 72 | 77 | 16 | 14 | 47 | 58 | |
| | (100.0) | (2.0) | (3.3) | (4.3) | (1.3) | (10.9) | (1.0) | (0.7) | (23.8) | (25.5) | (5.3) | (4.6) | (15.6) | (19.2) | |
| 聴覚・言語障害 | 347 | 6 | 13 | 9 | 7 | 35 | 6 | 2 | 57 | 65 | 24 | 27 | 45 | 60 | |
| | (100.0) | (1.7) | (3.7) | (2.6) | (2.0) | (10.1) | (1.7) | (0.6) | (16.4) | (18.7) | (6.9) | (7.8) | (13.0) | (17.3) | |
| 肢体不自由 | 1,749 | 131 | 164 | 126 | 39 | 460 | 47 | 6 | 421 | 474 | 91 | 70 | 149 | 173 | |
| | (100.0) | (7.5) | (9.4) | (7.2) | (2.2) | (26.3) | (2.7) | (0.3) | (24.1) | (27.1) | (5.2) | (4.0) | (8.5) | (9.9) | |
| 内部障害 | 849 | 1 | 17 | 3 | 6 | 27 | 19 | 3 | 211 | 233 | 14 | 44 | 108 | 170 | |
| | (100.0) | (0.1) | (2.0) | (0.4) | (0.7) | (3.2) | (2.2) | (0.4) | (24.9) | (27.4) | (1.6) | (5.2) | (12.7) | (20.0) | |
| 重複障害(再掲) | 174 | 6 | 10 | 6 | 5 | 27 | 4 | 2 | 51 | 57 | 9 | 11 | 12 | 18 | |
| | (100.0) | (3.4) | (5.7) | (3.4) | (2.9) | (15.5) | (2.3) | (1.1) | (29.3) | (32.8) | (5.2) | (6.3) | (6.9) | (10.3) | |



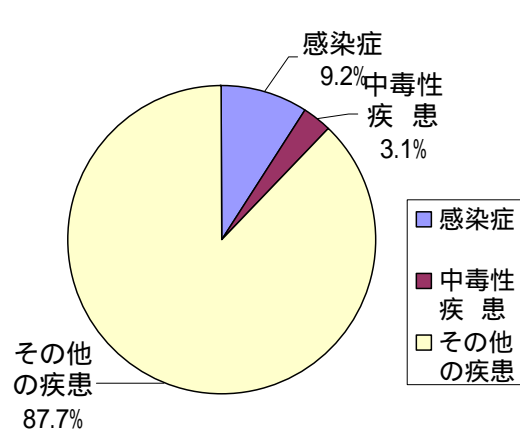
内訳

聴覚・言語障害の事故原因の詳細内訳



内訳

聴覚・言語障害の疾病原因の詳細内訳

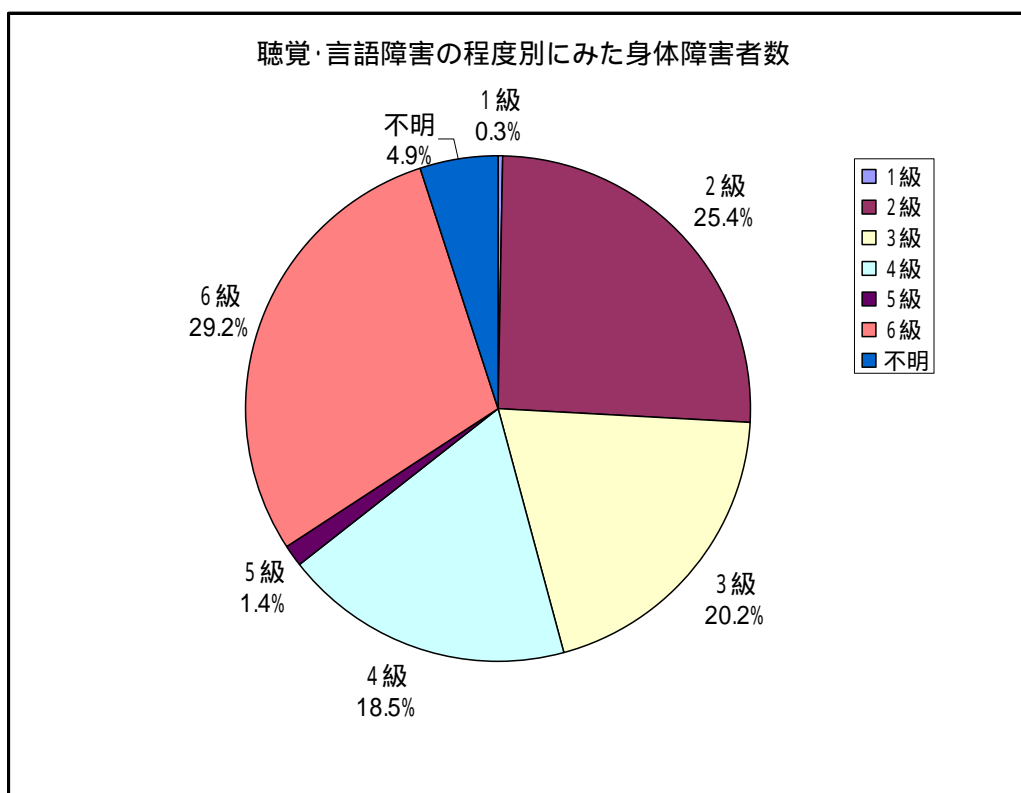


調査の概要

障害の種類別・障害の程度別にみた身体障害者数

(単位:千人,%)

| | 総数 | 1級 | 2級 | 3級 | 4級 | 5級 | 6級 | 不明 |
|--------------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 総数 | 3247 | 850 | 614 | 602 | 660 | 260 | 216 | 45 |
| | (100.0) | (26.2) | (18.9) | (18.5) | (20.3) | (8.0) | (6.7) | (1.4) |
| 視覚障害 | 301 | 105 | 74 | 27 | 28 | 34 | 32 | 1 |
| | (100.0) | (34.9) | (24.6) | (9.0) | (9.3) | (11.3) | (10.6) | (0.3) |
| 聴覚・言語障害 | 346 | 1 | 88 | 70 | 64 | 5 | 101 | 17 |
| | (100.0) | (0.3) | (25.4) | (20.2) | (18.5) | (1.4) | (29.2) | (4.9) |
| 肢体不自由 | 1749 | 243 | 445 | 341 | 397 | 221 | 83 | 19 |
| | (100.0) | (13.9) | (25.4) | (19.5) | (22.7) | (12.6) | (4.7) | (1.1) |
| 内部障害 | 849 | 501 | 6 | 165 | 170 | | | 7 |
| | (100.0) | (59.0) | (0.7) | (19.4) | (20.0) | (0.0) | (0.0) | (0.8) |
| 重複障害 (再掲) | 176 | 88 | 47 | 22 | 8 | 4 | 1 | 6 |
| | (100.0) | (50.0) | (26.7) | (12.5) | (4.5) | (2.3) | (0.6) | (3.4) |



等級の分布は全く聞こえない1、2級が25.7%、3～5級が40.1%、補聴器で会話が可能なレベルの6級が29.2%である。それ以外に、約600万人の聴力による生活障害者がいると言われている。

調査の概要

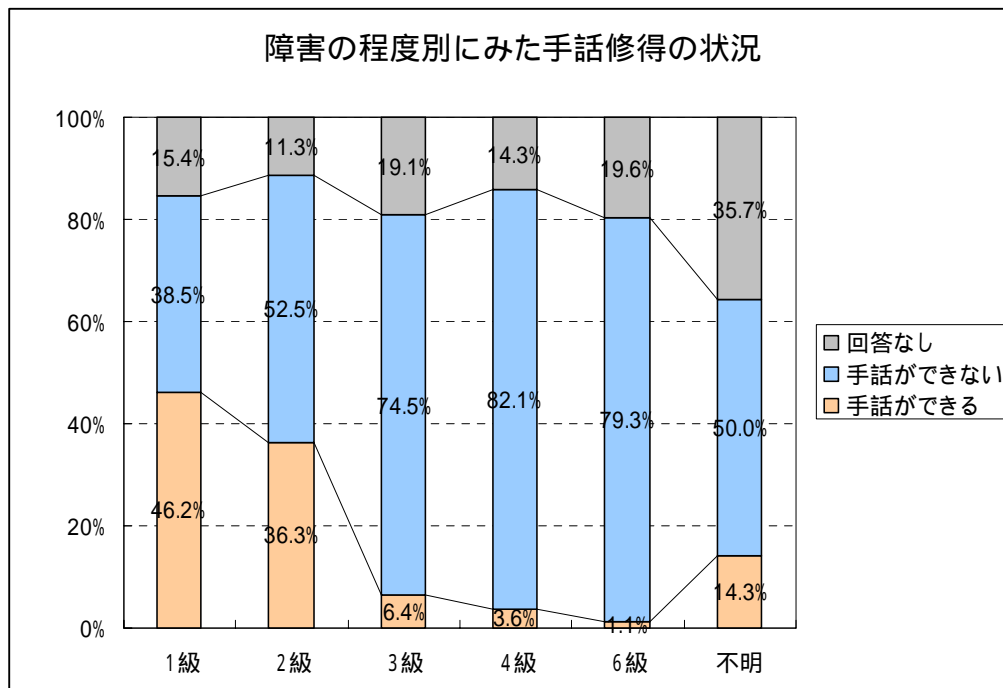
聴覚障害者のコミュニケーション手段

失聴時期や原因、受けた教育によって、聴覚障害者のコミュニケーション手段は多様である。聴覚障害者のコミュニケーションは、補聴器や補聴援助システムによる音声の聴取、筆記やテキストなどの文字、口唇の動きを読みとる読話、手話、身ぶり、表情などが用いられている。

これらは、音声を伴うかどうかによらず、音声言語と非音声言語(手話等)に分かれる。手話の習得状況は約14%であるが、年齢別に見ると60歳から69歳までは手話のできない人は71.9%、70歳以上になると81.3%が、手話ができなくなっており、高齢になるにしたがって、手話を使う人は少なくなる。障害程度別に見ると、3級の72.9%、4級の82.1%、6級の79.3%が、手話ができなくなっており、明らかに難聴者で手話の習得している人は少なく、それに替わるコミュニケーション手段が重要になる。大部分の難聴者は音声言語を用いるため、補聴器が重要な補聴手段である。

障害の程度別にみた手話修得の状況

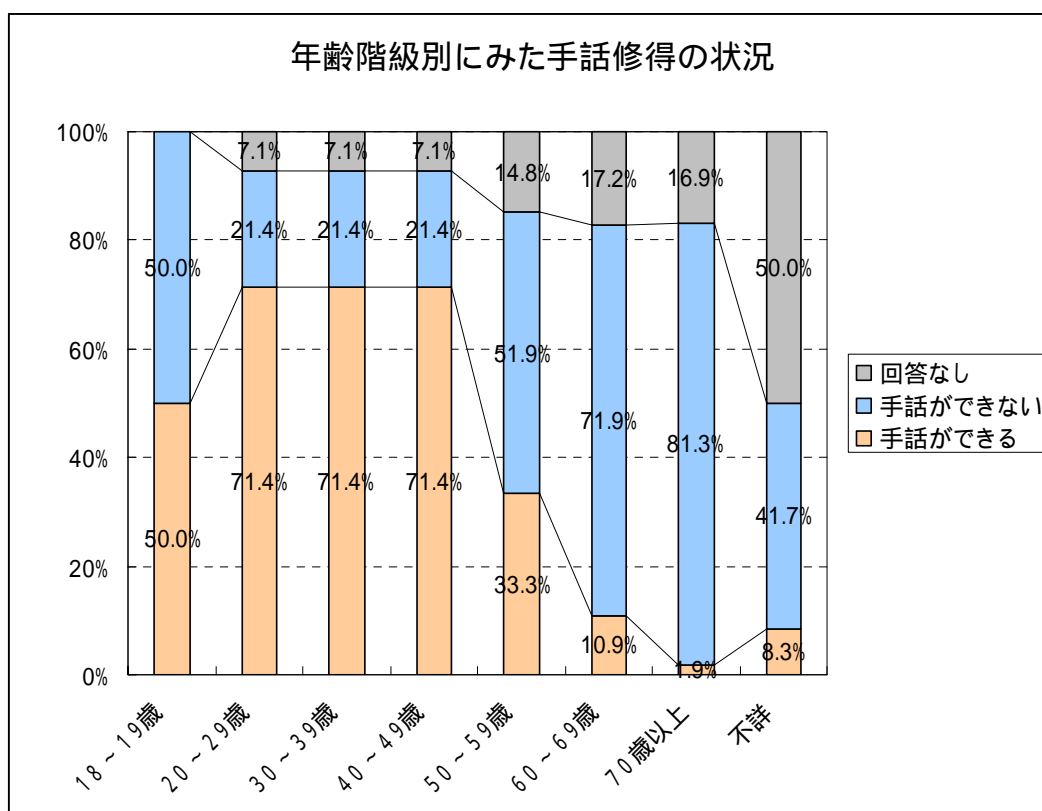
| 障害の程度 | 総数 | 手話ができる | 手話ができない | 回答なし |
|-------|------|--------|---------|-------|
| 総数 | 304 | 43 | 209 | 52 |
| | 100% | 14.1% | 68.8% | 17.1% |
| 1級 | 13 | 6 | 5 | 2 |
| | 100% | 46.2% | 38.5% | 15.4% |
| 2級 | 80 | 29 | 42 | 9 |
| | 100% | 36.3% | 52.5% | 11.3% |
| 3級 | 47 | 3 | 35 | 9 |
| | 100% | 6.4% | 74.5% | 19.1% |
| 4級 | 56 | 2 | 46 | 8 |
| | 100% | 3.6% | 82.1% | 14.3% |
| 6級 | 92 | 1 | 73 | 18 |
| | 100% | 1.1% | 79.3% | 19.6% |
| 不明 | 14 | 2 | 7 | 5 |
| | 100% | 14.3% | 50.0% | 35.7% |



調査の概要

年齢階級別にみた手話修得の状況

| 年齢階級 | 総数 | 手話ができる | 手話ができない | 回答なし |
|--------|------|--------|---------|-------|
| 総数 | 304 | 43 | 209 | 52 |
| | 100% | 14.1% | 68.8% | 17.1% |
| 18～19歳 | 2 | 1 | 1 | |
| | 100% | 50.0% | 50.0% | |
| 20～29歳 | 14 | 10 | 3 | 1 |
| | 100% | 71.4% | 21.4% | 7.1% |
| 30～39歳 | 8 | 5 | 2 | 1 |
| | 100% | 62.5% | 25.0% | 12.5% |
| 40～49歳 | 17 | 7 | 8 | 2 |
| | 100% | 41.2% | 47.1% | 11.8% |
| 50～59歳 | 27 | 9 | 14 | 4 |
| | 100% | 33.3% | 51.9% | 14.8% |
| 60～69歳 | 64 | 7 | 46 | 11 |
| | 100% | 10.9% | 71.9% | 17.2% |
| 70歳以上 | 160 | 3 | 130 | 27 |
| | 100% | 1.9% | 81.3% | 16.9% |
| 不詳 | 12 | 1 | 5 | 6 |
| | 100% | 8.3% | 41.7% | 50.0% |



調査の概要

高齢難聴者

平成 6 年の全国社会福祉協議会の「補聴器普及および音環境に関する調査研究報告書」によると、65 歳以上のデイサービス利用者が、日常生活の中で聞こえに不自由を感じる音は電話が一番高く、補聴器使用者の 55.4%、補聴器非使用者の 32.2%になっている。2 番目に家族との対話が補聴器使用者で 53.5%、補聴器非使用者で 44.6%になる。3 番目がテレビ・ラジオで補聴器使用者の 49.0%、補聴器非使用者で 37.2%にもものぼる。全国老人クラブ連合会の会員に対する調査では、家族との対話が 58.5%、電話が 52.3%、病院での呼び出し・問診が 51.1%、テレビやラジオが 44.3%になり、日常生活に大きな支障を来していることが分かる。

補聴器普及および音環境に関する調査

65歳以上のデイサービス利用者

| 順位 | 不自由を感じる音 | 補聴器使用者 | 補聴器非使用者 | 回答なし |
|----|----------|--------|---------|-------|
| 1 | 電話 | 55.4% | 32.2% | 12.4% |
| 2 | 家族との対話 | 53.5% | 44.6% | 1.9% |
| 3 | テレビ・ラジオ | 49.0% | 37.2% | 13.8% |

平成6年の全国社会福祉協議会の「補聴器普及および音環境に関する調査研究報告書」による

全国老人クラブ連合会の会員

| 順位 | 不自由を感じる音 | 支障あり | 支障なし |
|----|-------------|--------|--------|
| 1 | 家族との対話 | 58.50% | 41.50% |
| 2 | 電話 | 52.30% | 47.70% |
| 3 | 病院での呼び出し・問診 | 51.10% | 48.90% |
| 4 | テレビ・ラジオ | 44.30% | 55.70% |

全国老人クラブ連合会の会員に対する調査による

調査結果の詳細

(A) アンケート調査

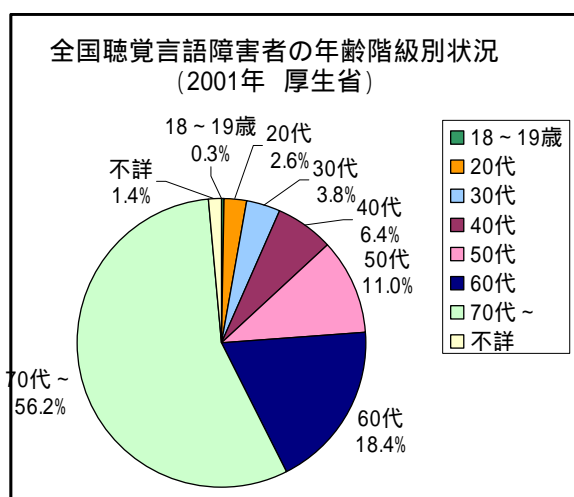
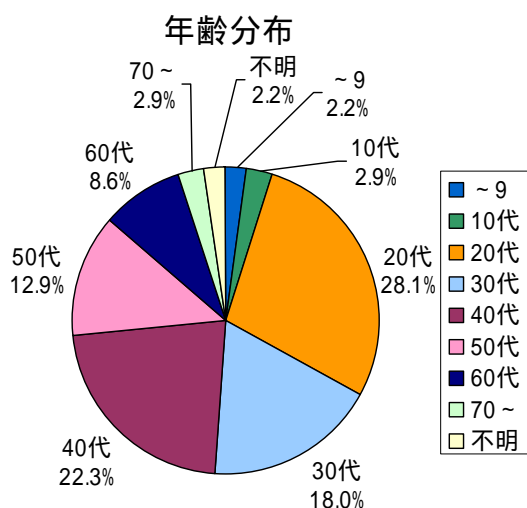
1 プロフィール 個人データ

本アンケートは、以下の要領で依頼先を決定した。

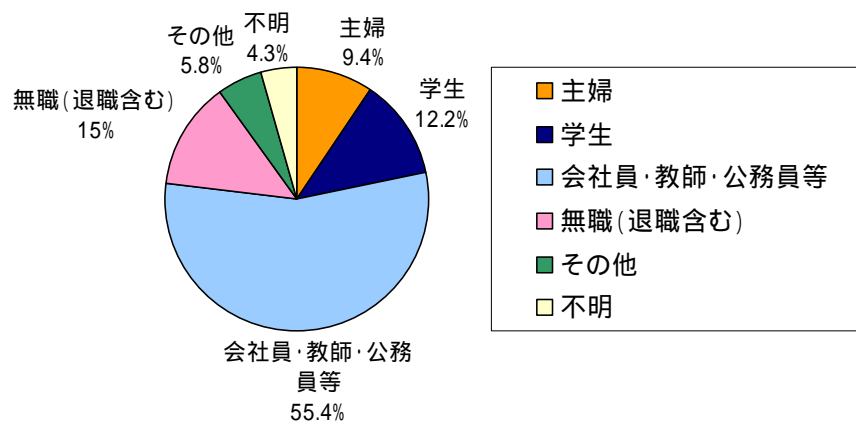
- 1) 言語聴覚士からの紹介機関や学校
- 2) 耳の日(2005年3月5日)の聴覚障害者祭りへの参加者
- 3) 聴覚障害者自身からの紹介
- 4) 聴覚障害者WEBサイト(DEAF-UNION)への掲載

回収総数は139件であるが、大学関係や、インターネットでの回答者が多いことから、実際の障害者年齢より比較的若い、20歳～40歳の割合が高くなっている。

現在の年齢



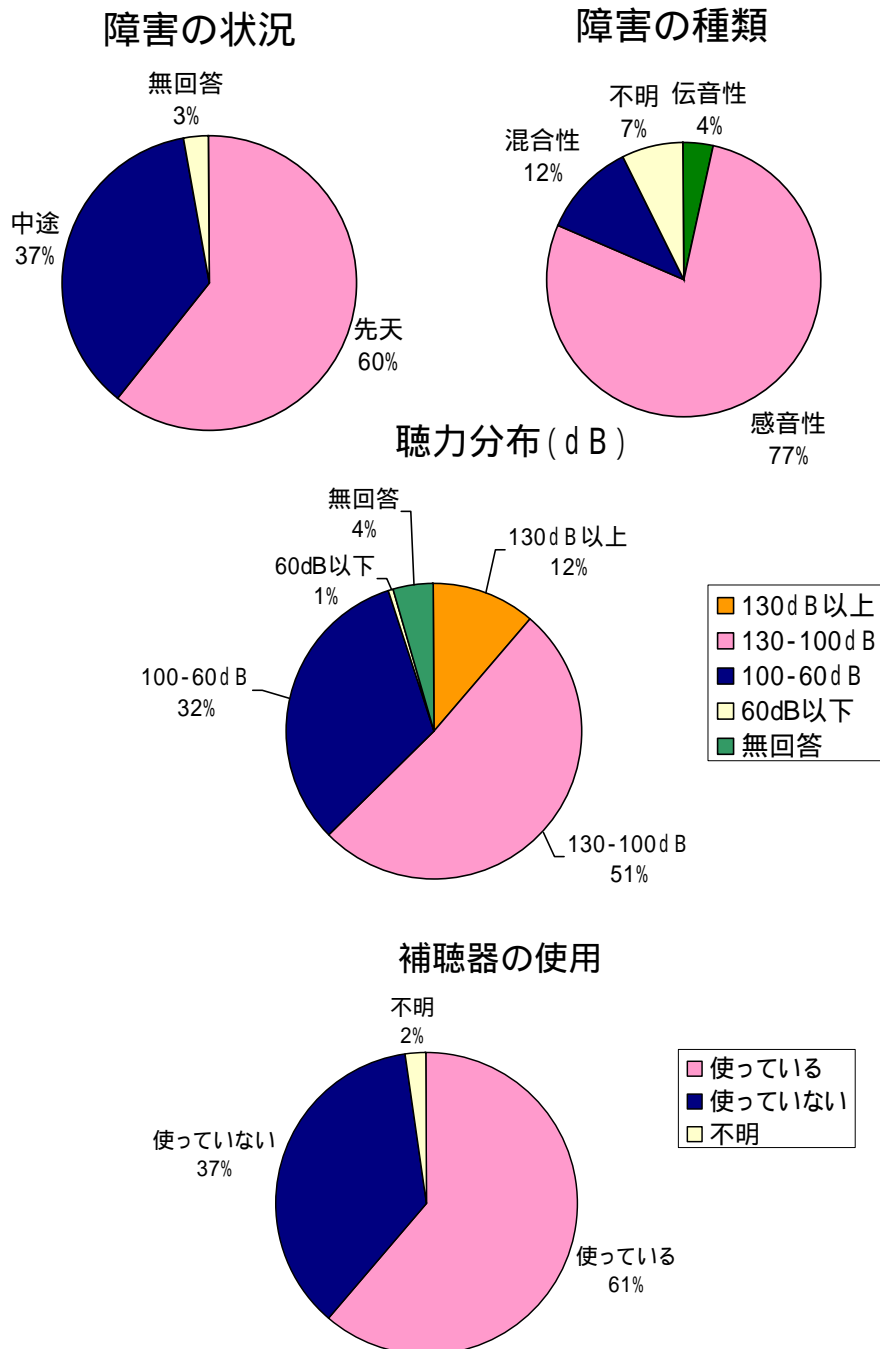
職業



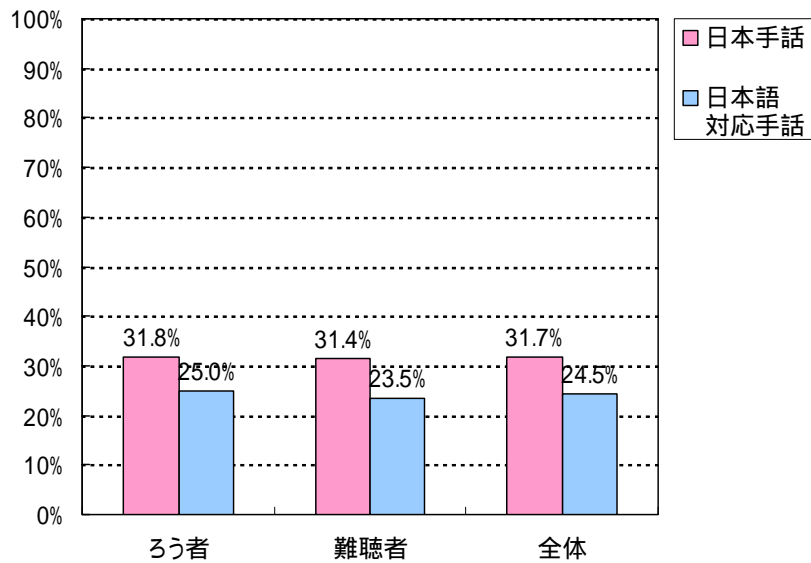
調査結果の詳細

ただ、今回の調査の目的である、講演会等のイベント参加における情報保障ということを考えると、適切であると思われる。

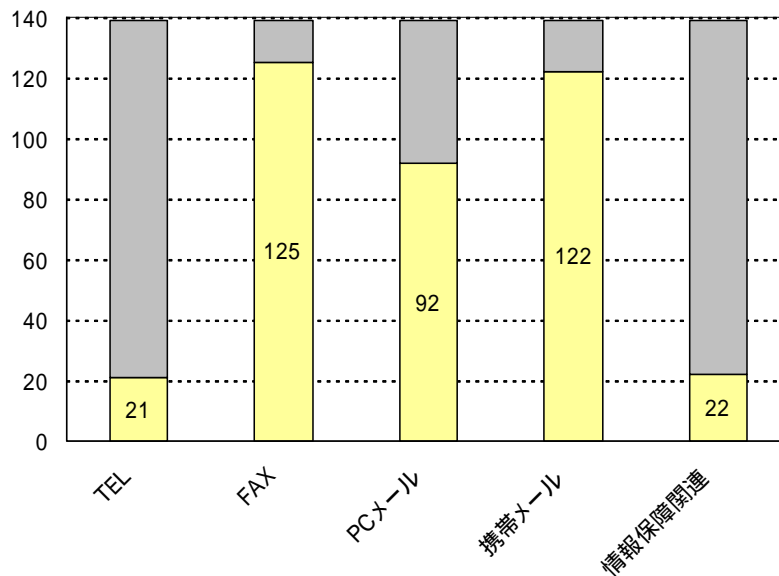
生まれたときからの先天性の障害者が回答者の 2/3 となっている。これは回答者の年齢分布において高齢者が少ない為、加齢による難聴者がほとんどいない結果といえる。聴力は、ほとんど聞き取ることの出来ない者が 2/3 程度、難聴者が 1/3 となっている。



手話比率



使っている機器



本調査の被験者は、先天的なろう者の割合が高い。そのため、手話(日本手話)の取得率が14.1%(全国調査)よりも2倍の31.8%となっている。また、日常会話が第一手話としての手話ではなく、コミュニケーションツールのひとつとして手話(日本語対应手話)を理解できる割合は、もっと高くなる。

使っている機器は、FAX・PCメール・携帯メール等の電子通信機器の利用が非常に高い。これらは、健常者にとっても便利であるが、障害者が同等に利用できるという点において、ユニヴァーサルな機器である。しかし、FAXにおいては相互コミュニケーションがスムーズにいかず長時間有するという点で、最近の通信機器よりも不便になってきている。また、携帯メールについては、緊急時の連絡が相手に届いたかどうかの確認が出来ないというデメリットを抱えている。

調査結果の詳細

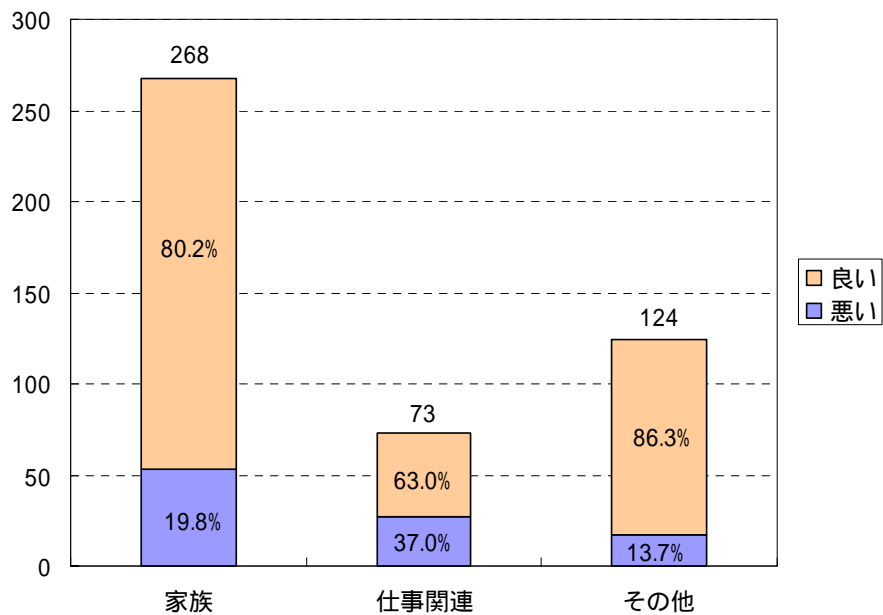
2 日常のコミュニケーションについて

日常生活のなかでコミュニケーションをとる相手は、やはり家族が一番高い。これは、一日のなかで家での生活時間が長く、生活に直接関わってくるため接触時間が長いということがいえる。

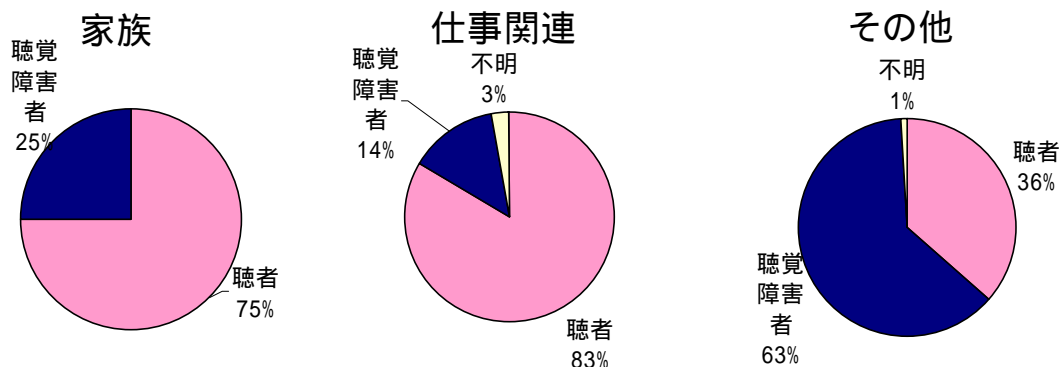
仕事関連の相手は、社会的な関係性である。業務の推進上コミュニケーションをとる必要がある機会が多い仕事に就いている場合において意思の疎通が必須となるが、その必要のない仕事に就いているケースも多い。このためコミュニケーションをとる相手としての比率は低くなる。

その他は、自分の趣味のつながりや好意をもった相手(友人・彼・彼女)であり、積極的選択的關係であるといえる。

日常よく会話をする人 & コミュニケーションの状態



会話する人の聴力の程度

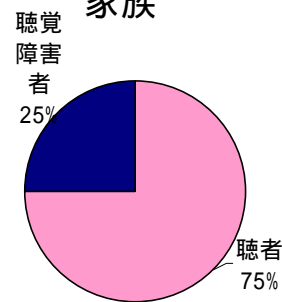


調査結果の詳細

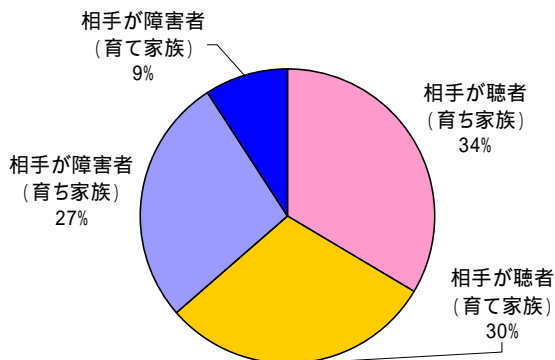
2-1 家族とのコミュニケーション

家族

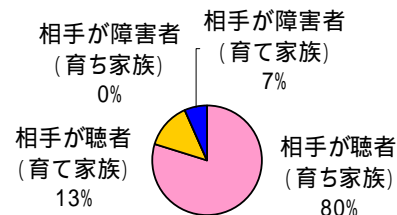
家族



コミュニケーションが良い



コミュニケーションが悪い



「育て家族」…自分自身が創った積極的家族(結婚によって)のこと

「育ち家族」…自分が生まれたときから関わっている必然的家族のこと

家族とのコミュニケーションの質は、自分が生まれたときから関わっている必然的家族と、自分自身が創った積極的家族(結婚によって)とでは、異なった結果が見られる。自分が育った家族とは、相手が聴者であるなしに関わらずやりとりが頻繁に行われているが、かえって両親よりも兄弟のほうが、コミュニケーション度が高い傾向がある。また、聴者の父親との意思の疎通が芳しくないケースが多い。

結婚して自分で獲得した家族については、ろう者の場合、相手と同じ聴覚障害者というケースが多いので、非常にコミュニケーション度が高い。

コミュニケーション手段は、聴者・障害者に関わらず、ろう者の場合は手話、難聴者の場合は手話・口話・読話に拠るところが多い。

自由記載

母親と話をすることが多い。いろいろわかってきているので、本人が勘違いしていてもそれは聞こえにくいせいだとわかってきている。

家族とは口話。両親とは通じない事もあるので弟妹が通訳をしてくれる。

調査結果の詳細

兄弟間では手話なしでも、感覚(表情・リアクション・ジェスチャー)で十分伝わるが、祖父母・母親は時々難しい。

家では家族が手話で話をしているので、普通の家族とあまり大差はありません。(第一言語が手話 親も耳が聞こえず、手話では話をしているため、生まれてから手話の言葉を使って育つ。)

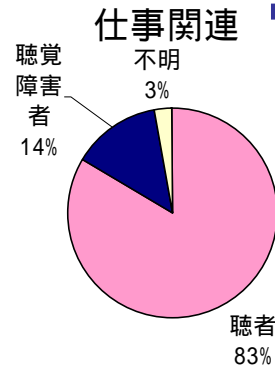
両親・姉は健聴者。自分が幼い頃発音訓練していたときに、両親はキュードを習っていたようで、始めはそれと口語でコミュニケーションをとっていた。今でも両親・姉は手話が出来ないので、普段は離れて暮らしていることもあって、携帯メールでやり取りしている。

同居している妻と妻の両親はろう者なので、手話で会話。息子はまだ幼いので、ジェスチャーや簡単な手話。

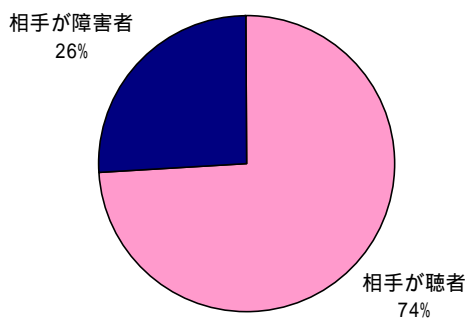
調査結果の詳細

2 - 2 仕事関連のコミュニケーション

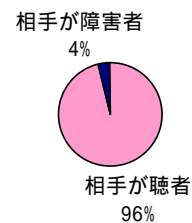
仕事関連



コミュニケーションが良い



コミュニケーションが悪い



仕事関係の相手とは、業務を遂行するために正確な伝達が必要である。そのため、メールでやり取りをしているケースが多く、その場合大きな支障はない。しかし、直接打ち合わせが必要な場合、筆談となり、スピードにおいて意思疎通が悪くなる傾向がある。

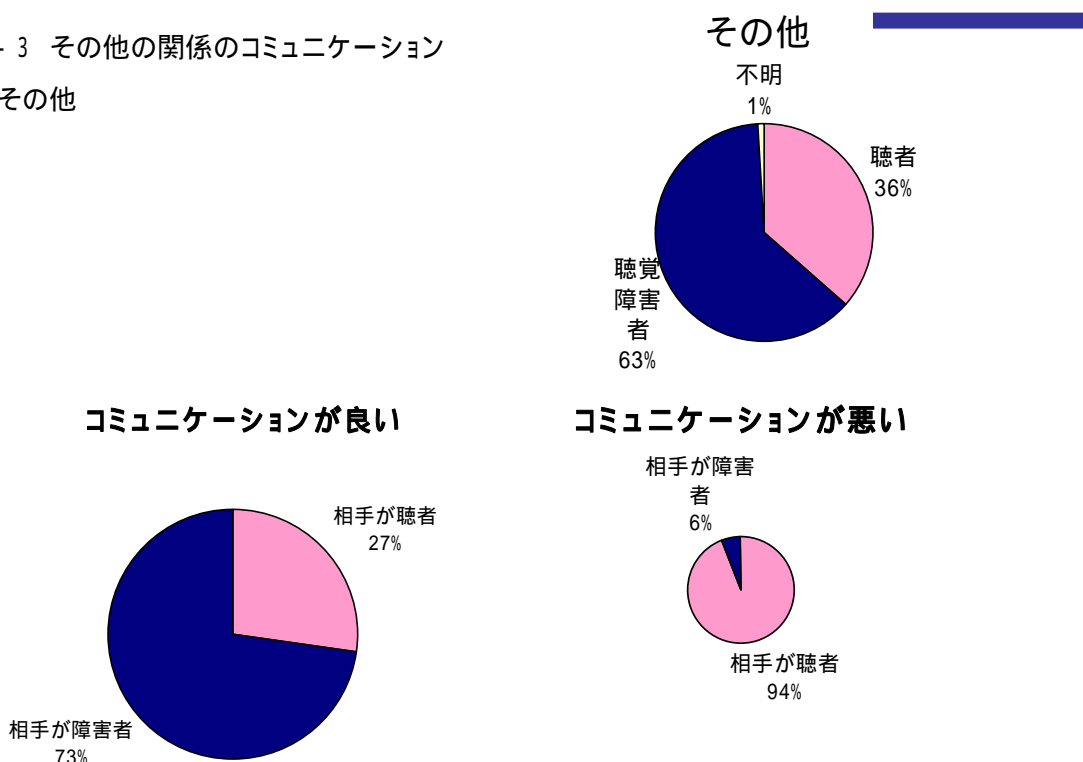
自由記載

仕事関係の連絡は FAX でとることが多い。もし会って話をする場合は静かな場所を選んでもらう。(静かな場所で無いと聞き取りにくい。)

会社では同僚と筆談でコミュニケーションをとる。会議とかも同僚に筆談をしてもらって参加する。

ろう学校の場合は手話のみ。スピードは速く言葉の使い方は簡単な言葉で。普通学校は口を付けて手話。スピードはゆっくりで難しい言葉も使う。

2 - 3 その他の関係のコミュニケーション
その他



その他の積極的選択的人間関係の場合、聴覚障害者同士というケースが高くなるが、相手が聴者であっても、コミュニケーション手段が手話である

自由記載

高校時代、友達と話をしても内容が全部わからず曖昧な返事をするしかなかったり、みんなが話している言葉がよく聞こえないのでただうさく感じるだけだったりして寂しい部分もあった。

中学までは口話のみで、高校から手話も使えた。(複雑な内容になると、口話だけでは難しい)学校時代の友達とは、今はメールでやりとりをしている。プライベートの仲間とは手話で会話をすることが多い。

友達とは、それぞれが車に乗り止められる所しか行かない。

短大時代(障害者専用短大)の友人がお互いの境遇も同じな為、コミュニケーションが取り易い。

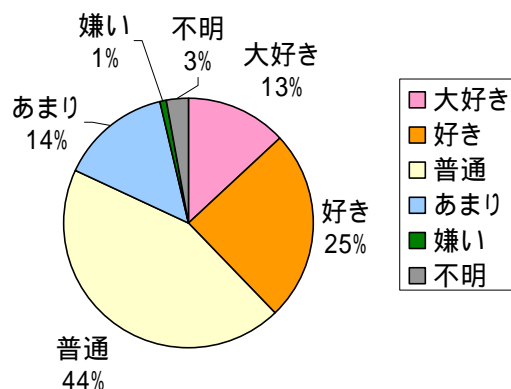
第一はやはり、友達で同じ映画の趣味を持った人などよくいます。映画の話は盛りあがるので映画を見たあとも、2～3時間も喫茶店で、手話で話をしたりする事もあり。またインターネットで作られているオフ会などの趣味の集まりでは、顔を会わずにチャットなどができるので、ネット上にもたくさんの映画仲間がいる。

ろう同志のほうが気がねなく何でも気軽に話せる場合が多い。健常者で手話ができる人などには丁寧に話さなければと気兼ねしてしまうことが多い。健常者とつきあうことにおいては、聞こえないことに対する理解が重要である。

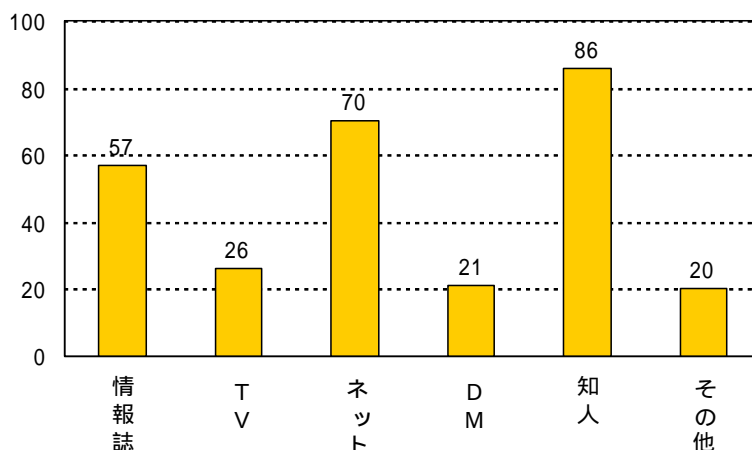
3 イベント参加について

3 - 1 情報の取得方法

～各種イベント(講演会、演劇、シンポジウム等)や
趣味の集まりなどに参加するのは、好きですか?～



～各種イベント(講演会、演劇、シンポジウム等)や趣味の集まり
などの情報は、どのような方法で入手しますか?(複数回答)～

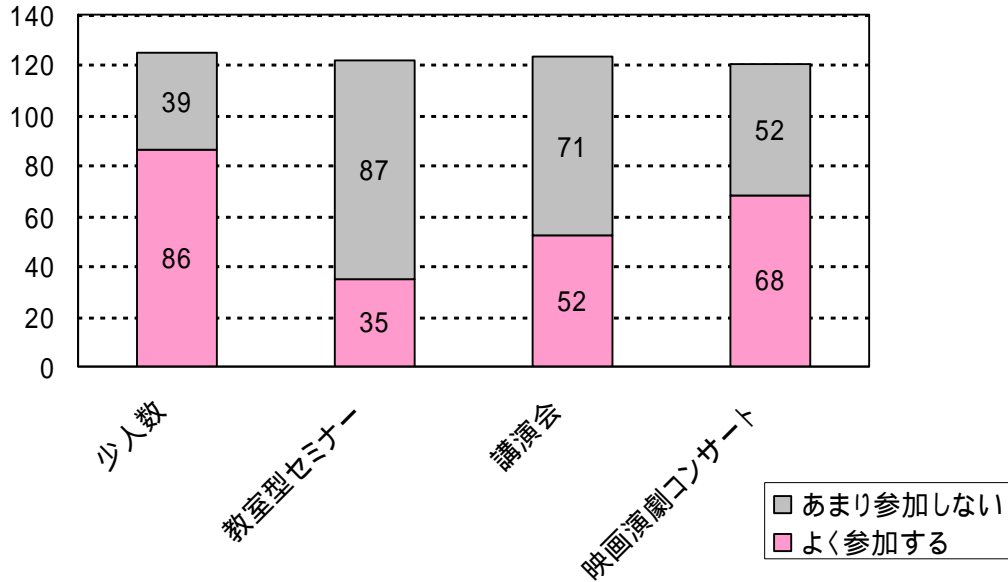


その他

- 4 ぴあで買うか、健聴者の友人に頼んでチケット購入しています。
- 8 手話サークル
- 15 中難協手話サークル
- 22 特にそういったイベントに参加しようと思ったことが無い為自ら入手した経験がない
- 25 和太鼓クラブの人たちから
- 27 学校(聾学校)
- 31 手話の会例会
- 34 ポスター
- 56 FAXなどで聞く
- 58 次女の手話教室
- 60 みみより会より
- 61 同好団体の役員をしている
- 65 東(?)聴連新聞
- 101 ML
- 218 機関紙
- 232 聴覚障害者団体から案内
- 233 特に、聴覚障害関係は、デフユニオンから集めています。
- 236 職場

調査結果の詳細

3 - 2 イベントの形態による参加傾向



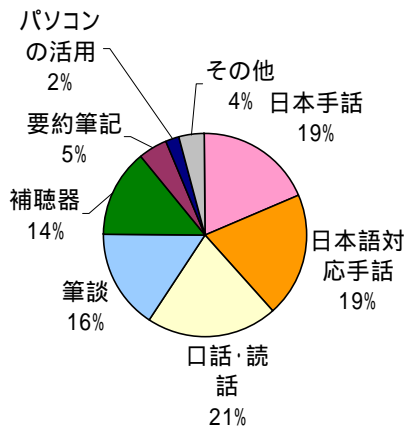
イベントへの参加意欲や情報の入手方法は、聴者の一般的な傾向とそれ程大差ないと思われる。しかし、情報収集時に情報保障があるものの中から選ぶ傾向が強く、最初の入口で情報のバリアがあるのかもしれない。被験者の中には、情報保障をつけてもらうよう主催者側に依頼交渉したり、それに応じてもらえない場合には、自分で通訳を連れていくという積極派もいる。

イベントの形態別を見ると、教室型セミナー等への積極的参加意向が低い。教室型セミナーの情報保障整備の遅れなのか、教室型セミナーの性質の問題なのか今後の課題といえる。

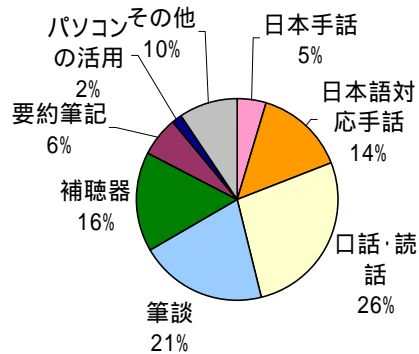
3 - 2 - (イ) 少人数型の場合

～自分の意思・意見を伝える方法、相手の意見や周りの話を理解する方法はどのようにしていますか？～

少人数での話し合い
<よく参加する>



少人数の話し合い
<あまり参加しない>

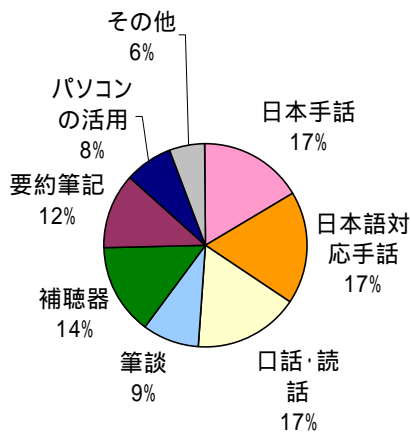


少人数での話し合いは、参加の機会が多く、参加する時の心理的負担が少ない。コミュニケーション手段は、全員で手話利用というケースの場合、日本語手話を使ってのコミュニケーションとなるため参加意向が高くなる。手話のわからない相手がいる場合、通訳者を依頼すると費用的負担が大きくなり、そのため筆談という状況になるとコミュニケーション度が低くなるので、おのずと参加意向が低くなる。しかし、少人数のため、筆談や読話でもそれ程問題にならないようである。

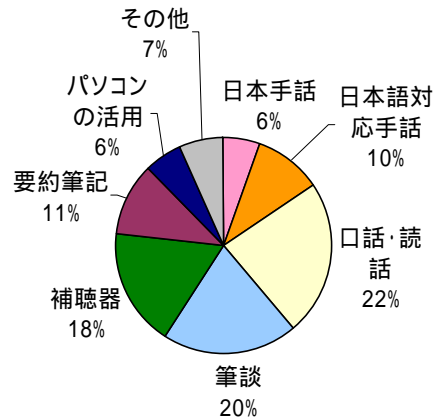
3 - 2 - (口) 教室型セミナーの場合

～自分の意思・意見を伝える方法、相手の意見や周りの話を理解する方法はどのようにしていますか？～

教室型セミナー
＜よく参加する＞



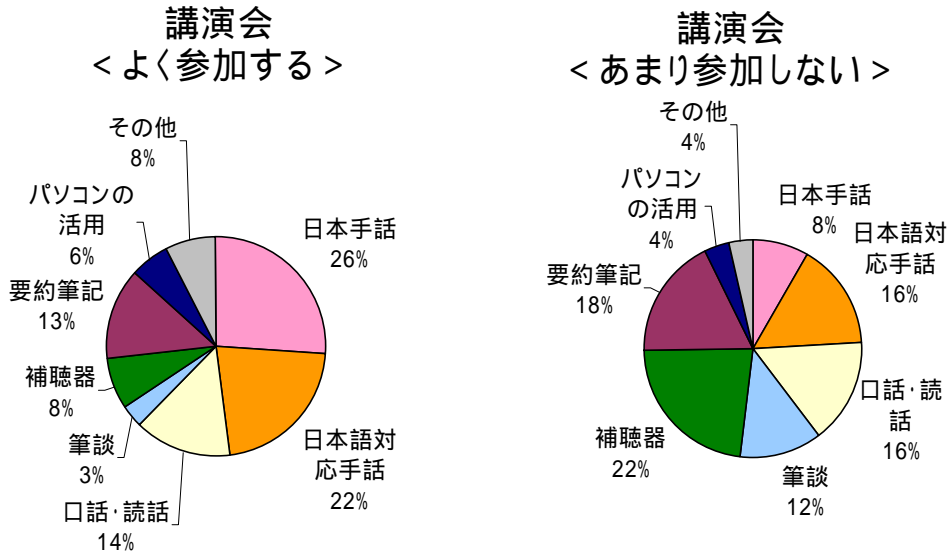
教室型セミナー
＜あまり参加しない＞



教室型セミナーの場合、手話通訳があるものだけに参加する傾向が見られる。手段としての筆談の利用が減ってくる理由は、講師一人に参加者数十名という状況において、筆談という手段が適切ではないからであろう。要約筆記、PC利用は障害者の個人的ツールとしては利用度が高いが、公的場面での情報保障の道具としての利用は、手話に比べて低いと思われる。

3 - 2 - (八) 講演会の場合

～自分の意思・意見を伝える方法、相手の意見や周りの話を理解する方法はどのようにしていますか？～

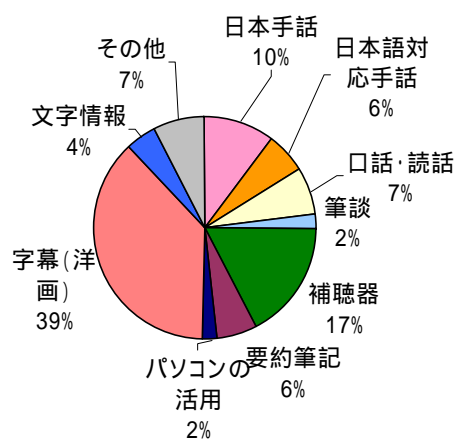


講演会の場合、手話通訳による情報保障がついているイベントへの参加傾向が高い。それらの講演会を選んで参加しているため、参加意向も高く、満足度も高い。要約筆記での情報保障も、イベントの形態の中では一番高い。主催者にとっても、情報保障をつけるということが教室型セミナーに比較して規模が大きいため、費用的な面での負担感が低いと思われる。

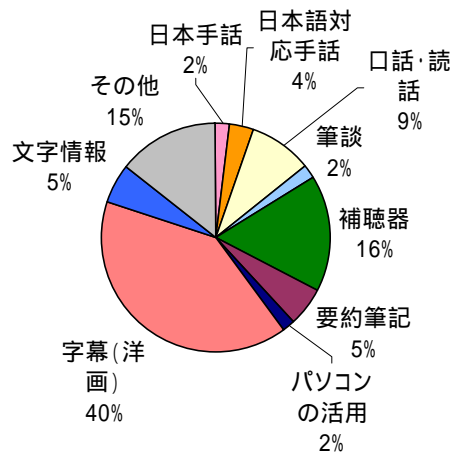
3 - 2 - (二) 映画・演劇・コンサートの場合

～自分の意思・意見を伝える方法、相手の意見や周りの話を理解する方法はどのようにしていますか？～

映画、演劇、コンサート
＜よく参加する＞



映画、演劇、コンサート
＜あまり参加しない＞



娯楽的なイベントの参加については、そのイベントの質や情報保障の有無に関係なく参加するケース、障害者のためのイベント、邦画の字幕といった多様なケースがある。音声の発する位置、音の種類・音楽等、情緒性に関わる音を文字で保障することは難しい。また、芸術性が高くなると、情報保障が邪魔になるのはあまり好ましくない、といった建設的な意見も障害者自身から聞かれる。

3 - 2 - (ホ) その他

～その他(よく出かける場所)～

- | | |
|-------------------------------------|----------------------------------|
| 1 美術館、展覧会等 | 85 いろんなところ |
| 3 手話サークル | 92 手話会 |
| 4 川崎、横浜、銀座 | 93 アミューズメント系 |
| 5 アウトドア、野球 | 95 温泉、ラーメン |
| 14 友人達との集い | 96 温泉 |
| 15 博物館、美術館 | 98 娯楽施設 |
| 22 仕事関係のみ | 100 友人のアルバイト、東京 |
| 23 サークル | 101 図書館などライブラリー的なもの |
| 24 ない | 102 美術館・博物館 |
| 25 イベントのあるところ 遊園地など | 104 美術館、博物館 |
| 26 バレー練習 | 205 いろいろと |
| 31 手話の会 | 207 横浜聾学校 |
| 32 スポーツサークル | 212 会議 |
| 34 キリスト教会 | 213 手話に関する研究会 ろう者協会 |
| 41 会議 | 217 デパート、展覧会 |
| 45 居酒屋 | 218 福祉施設 |
| 47 買い物 | 223 テーマパーク、美術館 |
| 48 なし | 230 アニメや声優関係のイベント |
| 50 どこでも出る！ | 232 聴覚障害者団体関係の会合 |
| 52 渋谷、新宿 | 233 美術館 |
| 55 あちこちの飲み会 | 234 ろうあに関する行事 |
| 56 パナソニック[1月] | 236 会議 |
| 60 講習会 | 238 会合 |
| 61 講習会(健聴者達と) 情報保証があれば。 | 240 デパートやスーパー |
| 63 三田障害福祉会館講習会等で 都合がつくときは参加している。 | 242 研修 |
| 66 サークル | 243 図書館 |
| 73 レジャー | 246 保健所(今妊娠しているので 母親学級に通っている) |
| 76 横浜 | 247 都内 |
| 80 新宿、渋谷 | 248 少人数型セミナー |

4 情報保障の現状

4 - 1 情報保障依頼の現状と希望

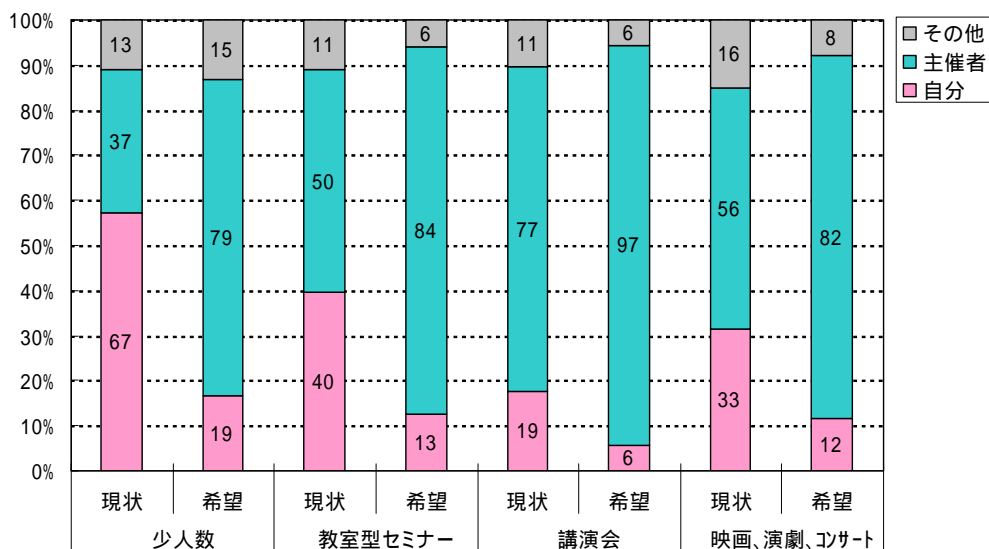
手話通訳や要約筆記等、情報保障が必要な場合、イベントの規模が小さくなるほど自分で依頼している場合が多い。しかし、講演会や映画・コンサート等規模の大きなケースの場合は、最初から情報保障のされているものを選択する傾向にある。

金額については、主催者側が依頼する場合のほうが、当事者自身が依頼するよりも、金額的には高くなる。しかし、当事者が依頼する場合、訪問先の場所や時間帯・イベントの内容によって制約を受けることも多い。

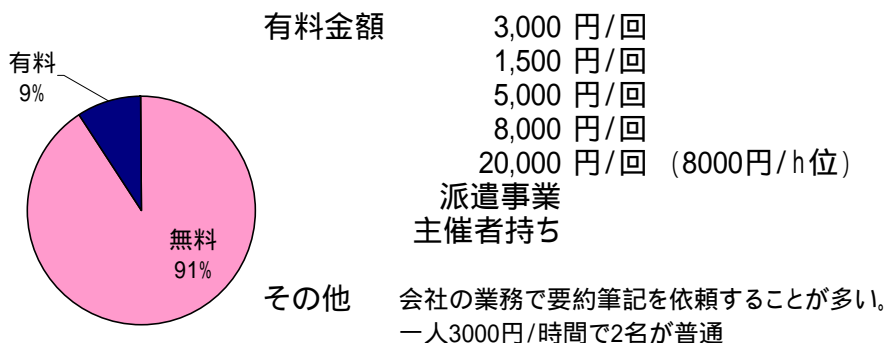
主催者側が最初から情報保障をつけるというより、そのような依頼があった場合、速やかに対応できる情報を準備しておくことも必要と思われる。

～手話通訳や要約筆記を使う場合誰が現状手配していますか？

また、誰が準備することが妥当だと考えますか？～



～個人的に手話通訳をお願いする場合、費用はどうしていますか？～



個人ならお茶とか食事をおごる。または後でお礼を差し上げることもある。友人の間柄でもケジメは必要かも。

5 講演会での情報保障(手話通訳)について

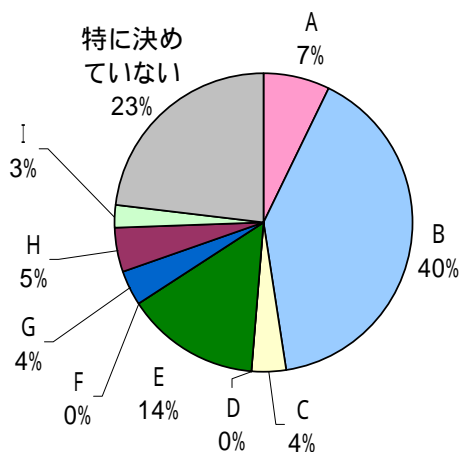
5 - 1 講演会での座る位置

講演会等に出かけた場合、手話通訳がない場合口話で理解するというケースと、難聴者の場合、近くで出来るだけ音を聞き取るという点で、講演者の正面(B)を希望する。

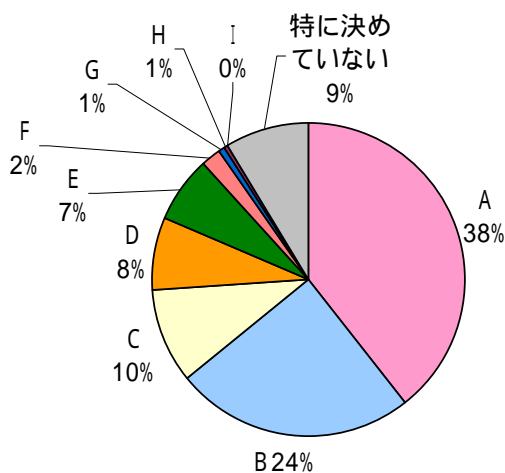
しかし、現状手話通訳者が見つかる場合、ステージ左側のケースが多く、通訳者前の(A)を選択する割合が増える。しかし、この場合、講演者の姿も見たいとの思いから、あっちみたりこっち見たりという状態になり、首が疲れるとか、話の理解が途切れてしまうといった不満も残る。



通訳者がない場合



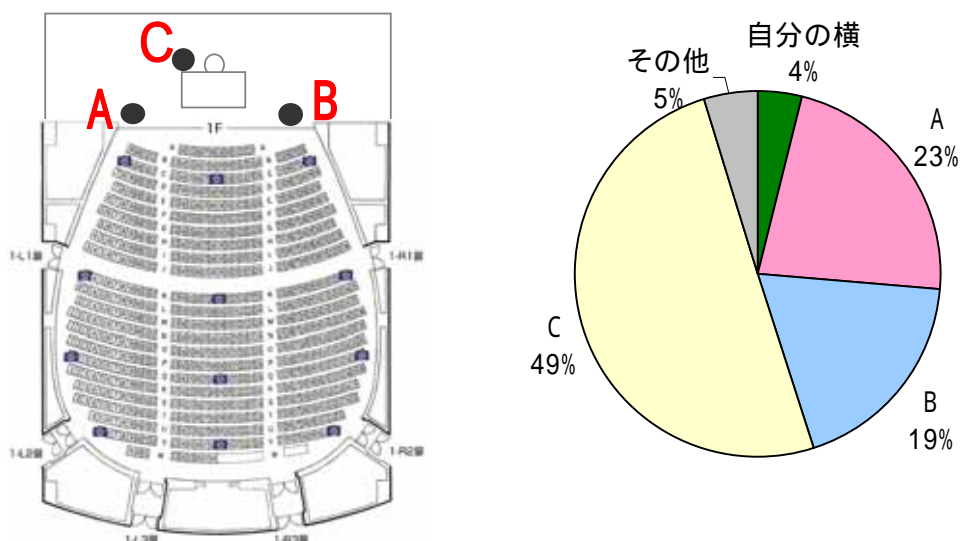
通訳者がいる場合



調査結果の詳細

5 - 2 講演会において通訳者をつける場合の希望位置

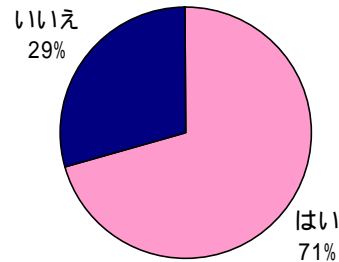
手話通訳者がどこにいてほしいかという、やはり講演者と同時に見られる(C)を希望が一番高いが、これは、手話通訳者だけに限らず、要約筆記等の情報保障についても同じことが言えそうである。



その他の意見

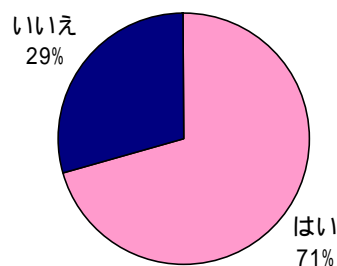
- 32 A - C の中間、B - C の中間
- 55 どちらでもよい
- 61 聴覚障害者が多い時は話が通じている。
- 210 PC 要約筆記次第
- 229 みやすければこだわらない
- 230 大型スクリーンがあるなら、どの位置でもかまわない。

5 - 3 手話通訳の席がある場合の積極的利用度



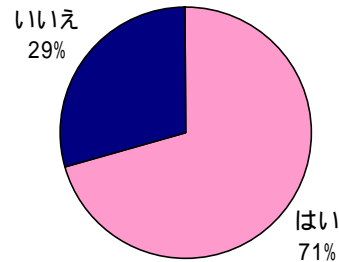
「はい」の理由(ろうの方)

- 5 通訳があれば内容が理解できるから
- 8 社会情報、教養が高められると思う。
- 14 内容が良く分かるから
- 22 やっぱり全体を自分の目で把握したいから
- 24 必要より聞かせる 大切
- 25 手話通訳が要ると、話の内容や情報がたくさん入るから。
- 26 内容がよく分かるから、自分の為になるし、たのしい。
- 32 視力がよくないので、通訳が見えないと困るから。
- 41 手話が見やすいところだから
- 47 手話の通じる人が隣に座るので
- 52 通じないとき・相手が筆談めんどいな時
- 61 手話を知っている。人口内耳[私]うるさいと役に立たないため。
- 63 不安が多いので
- 72 知りたくて情報に入る
- 93 便利だから
- 94 私達(聾者)のために用意してくれたから。
- 95 会場の雰囲気に合わせていいコミュニケーションが取れたらよい会になると思う。
- 96 確実にその情報を得る為にそこに行くと思います。
- 97 言っている事の内容を知りたいから。
- 100 話を理解できる。
- 201 ? 質問の意味が取れない。手話通訳利用の為の席(=通訳が見やすい場所)の場合。空いていて、手話通訳と会場の雰囲気を読み取りやすい場所だったら利用する。
- 204 確実に内容が把握出来る。
- 211 分かりやすいから
- 215 自分が興味がある内容だったら積極的に利用したい。100%まではいかなくてもそれなりの情報保障があると嬉しい。
- 216 手話がないよりは話の内容もわかるから
- 218 単純に言えば見易さ！ただし、通訳者をプロジェクターとかで拡大する場合はその限りではない
- 219 内容をすべて知りたいから
- 226 情報が得られるから
- 227 そこが一番見えやすいという保証がある席なので、ぜひ活用したい。
- 230 やはり見えやすいし話の内容がわかると思うので。
- 232 手話通訳が居てくれれば有り難い
- 233 見やすいように確保された席ならば、利用したいです。例えば、大ホールで、講演者と席が非常に離れてしまう場合には特に。
- 234 情報を把握できるように参加する
- 235 内容把握が優先
- 241 話がよく分かるので。
- 243 主催者側や講師の認識が深めてもらうには、役立つかもしれない。
- 245 情報が得られるから
- 249 近くて手話通訳者の通訳が見やすい。



「はい」の理由(難聴の方)

- 3 手話通訳を見るには極端に近づく必要はないですが、ある程度近いところがストレスが少なく良いと思います。
- 10 補聴器だけでは内容が理解できない。
- 20 理解するのに通訳者は必要
- 23 通訳者がいれば話が100%理解できるから。
- 31 手話が見やすい
- 33 手話の読み取り訓練をかねるため。
- 34 見やすい環境作りを配慮されているので、長時間でも目が疲れにくいから。
- 53 話がよくわからない
- 67 手話通訳はときとき、いろいろ病院、税理士
- 86 話がわかることで質疑応答ができる
- 92 どちらがいい
- 102 手話が見やすい席だからです。
- 104 せっかく用意されているから。知りたいから。
- 205 聞こえないから
- 207 お金払うからには、納得できるような内容でありたい。
- 223 空いていることが多い。
- 229 分かるから
- 236 見やすい位置に座りたいので。
- 248 利用できるものは利用した方がいいから



「いいえ」の理由(ろうの方)

- 1 手話が分かりません
- 4 内容によります。
- 15 手話通訳のスピードにまだ追いつけないため、手話通訳だけでは内容が理解できない
- 27 1才から補聴器をつけ、口話法で指導を受けており、手話はほんの少ししか理解できないため。
- 31 手話通訳者だけでなく、会場での発表etc発言者から聴覚活用、読話も必要だから。
手話通訳者だけだと視野が狭まる。周りの状況が読み取れない。
- 31 特別扱いされるのもいやだから
- 35 自分にとってよい位置とは限らないので、よい位置ならば利用します。
- 45 自由に座りたい
- 90 なし わかりません
- 99 一応話の内容が理解できる為
- 101 その席が見やすいかどうかはわからない。
- 206 専用の席が用意されていなくても、早めに行って見やすそうな席 に座れば良いと思う。
- 213 日本語対応手話がほとんど。眠くなる気持ちです。
- 214 逆差別になる
- 217 手話に堪能でない。
- 220 簡単な手話しか解らないから手話通訳は見ない。
- 231 座りづらい。
- 237 好きなところに座りたい。
- 239 周囲に注目されそうで、心苦しい。
- 240 友人といっしょに行くことも多く(途中で意見交換など)離れていると不便を感じるのでは。
- 247 運が悪く席が一番後ろだったら見えにくいんじゃないかな。

「いいえ」の理由(難聴の方)

- 6 まだ手話の読み取りが難しいから
- 57 必要なし
- 60 手話が理解不足
- 71 席が少ないので
- 208 内容による。演劇などは、手話通訳が付くよりも字幕電光掲示板の方が良い。
手話通訳は通訳者の手話表現技術によるのだから、難しいと思う。
規模の大きい講演会よりも20～30人程度の講演会なら、講演の内容の理解度が高いです。
- 221 手話通訳がろう者だったらいいな。健聴の通訳だとはずれが多い。
眠くなる手話通訳者が多いかなあと思う。
- 238 自由にどこでも座っていたいから
- 244 手話は必要としていない。
- 250 手話通訳士はあくまでも、講演会の情報保障のためにいるのであるから、講演会の内容で講師に質問や話したい事があるときのみ通訳をしてもらうに限り手話通訳士と個人的な話をするべきでないと思うから。

調査結果の詳細

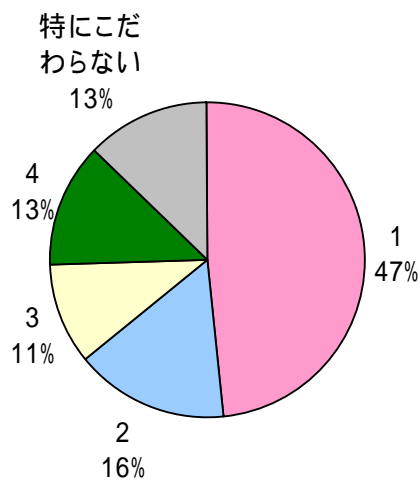
6 講演会での情報保障(文字保障)について

～講演会における電光掲示板の見やすい位置～

演劇やシンポジウム等、舞台のいろいろな位置かの情報保障が必要な場合、舞台全体と重ね合わせて文字情報を見られる(1)の位置の希望が高い。

聴者が参加する翻訳文字情報が出る場合、(2)(3)のの位置に電光掲示板が設置されているケースが多いが、それはどこから音声が発信されているかについては確認出来るからであると思われる。それと同じようにはいかない。

映画の字幕やテレビの文字情報についてはかなり保障方法について進んでいるが、シンポジウムや講演会等の同時情報保障についての質・方法については、今後、検討の必要がある。



調査結果の詳細

7 他施設の情報

7 - 1 被験者から見て良かったところ

| 場 所 | 理 由 |
|------------------------------------|--|
| 登山家 野口健氏の講演会 | |
| 聴覚障害者コンピューター協会が主催した「パソコン・ワード中級研修会」 | 講師が手話を使い、パソコンの要約筆記がつき、それに加えて2人に1人くらいの助手がついて、非常に判りやすい授業になりました。 |
| ろう者のイベント | ステージの中央後ろに字幕が出てみやすく、演者も一緒に見れた。 |
| 浜木綿子氏の舞台 | |
| 太鼓公演 | |
| ろう者の劇(演劇)[場所はクレオ大阪中央] | |
| 大阪の耳の日総会、ろう者主催のお笑い。 | |
| 手話とOHPの両方を使った講演会 | |
| 代々木 国立オリンピック記念青少年総合センター | |
| 赤坂 自動車会館隣総合法令 | 情報保証はレジメのみだが、波動を受けたり、講師・作家の先生と直接お話ができて素晴らしい思い出に |
| 二年前のレーナ・マリナコンサート(川崎市教育文化会館) | |
| シカゴオーケストラのコンサートホール(シカゴUSA) | バルトークの「Wooden Prince」の曲を演奏中、場面の説明を電光字幕で提示していました。また、コンダクターの挨拶も字幕で出していました。 |
| ろう者だけの劇(Rグループ) | |
| ふれあいバナスタ、文化祭 | |
| 皇居のそば 授賞式 | |
| 三田障害福祉会館での東京と主催の様々な講演会 | |
| たつのご学園の講演会、手話文化村 | |
| 手話文化村 | |
| 斎藤ゆきさんの講演会 | 手話もついていて、見やすい位置につけたから。 |
| 日本公演(手話通訳付)のもの。 | |
| 手話の出来る落語家の落語 | |
| ユナイテッドシネマとしまえん | 振動席も用意されており一般のヒトと一緒に楽しめる。プログラム注文するときもプリントされたリストがある。時々邦画に日本語字幕つき上演もある。 |
| パーズンTOHOシネマヒルズ | インターネットでいい席をゲットできる。一般のヒトと平等的 |
| 朝日テレビホール(有楽町) | |
| ユニバーサルデザインフォーラム | |
| 有楽町でのUDセミナー | |
| 川口リリア、東京都聴覚障害者自立支援センター | |
| 集い | 大型スクリーンに手話通訳や日本語字幕が大きく映し出されるので助かります。 |
| 国際福祉機器展 | 手話通訳がもともと配置されているのはいいと思います。 |
| Wild Zappersというアメリカろう者のダンスチームの公演 | |
| 聴覚障害者団体による「耳の日大会」の公演 | 手話通訳者・PC要約筆記者両方があって、かなりよかった。 |
| 幕張プリンスホテルで行われた盲ろう者の世界大会 | |
| 第3回バイリンガル・バイカルチュラルろう教育研究大会 | |

7 - 2 これから出かけたがたい又は出かけようと思っているイベント

- 25 ろう者の講演会
- 26 映画等。講演会は特に無し。
- 34 社会福祉学会
- 60 例会参加くらい
- 63 目黒区にあるパイオニア身体で聴く音楽会
- 80 ジョニー・デップ来日の講演会
- 93 トヨタカップ
- 95 ミュージカル
- 96 外国の人の講演会
- 98 演劇「十戒」
- 100 K - 1
- 101 展示会(美術館など)、企画展
- 102 愛・地球博、スターウォーズ先行上映、他試写会等
- 201 子育て関係のイベント(子供と一緒に楽しめるもの)
- 203 有名人の講演や株式などのセミナー
- 216 UDについて
- 217 欠格条項関係のシンポ
- 218 仕事柄、研究発表会や研修・講習会に出席したい。直近ではノーツ講習会(GBS主催:in箱崎)
- 221 ろう教育や海外援助関係の講演会
- 223 愛知万博
- 228 映画「ぼたるの星」上映会(地元の字幕サークルが投影)
- 230 東京都主催の国際アニメフェスタ2005
- 233 愛知の万博
- 239 市民向けの報告会(自身の報告)予定あり
- 240 ミュージカルや宝塚
- 243 エコライフ関連や人権問題・女性問題に関する講演会
- 244 劇団 新感線の公演
- 245 育児関係の講演会

8 アンケート自由記載

-
- 手話が分かりませんのでサークル等にも参加しません。出かける時は私を理解してくれている友人2人(同じ人ではありません)とです。
- 1 主人や娘達は私のわかる様に話してくれます。字幕の映画を見たり、美術館へ行ったり、デパートへ行ったり、家で本を読んだり、裁縫をしたり、聞こえないことは仕方の無いことで聞こえる範囲で毎日快適に過ごしています。
今の社会は以前に比べて優しくなったと思います。聴力障害の人々の交流はほとんどありません。
-
- 3 会社でユニバーサルデザインの講習会があり、時折「IAUD」の名前を聞きます。私は難聴団体(全難聴)のメンバーですが、全難聴はIAUDのメンバーになっていますか？
-
- 7 年齢が年寄りなので、あまり外出できませんが、自宅で文字つきテレビを見るだけです。
-
- 14 病院には手話のできる看護婦さんが殆どなくてまれにいても二言三言くらいでは困ること度々です。院内にサークルのようなものを作って積極的に手話を学んで欲しいと思います。
-
- 15 障害者連盟や協会のイベントに参加もしくは手伝いを経験して思うこととして・・・
主催する側の準備や段取りがうまく言っていないようにいつも思う。初めての開催なら仕方がない面もあるが、経験が生かされていないいつも思う。
例えば、サポートする方の人数など必要以上に多く無駄であり、私の場合それを見るだけでいやになります。売店など特に・・・
-
- 21 文字情報も手話通訳も本人に確実に伝わらなければ意味がない。いわゆる「聴覚障害者」のニーズは多様であり、その多様性に対応できる情報保障でなくてはならない。どの伝達手段ならよくわかるのか、本人に確かめた上で提供する必要がある。(本人は遠慮や我慢をしていることもある)
手話通訳は日本語と日本語対応手話のそれぞれの通訳士が必要になる場合もある。(講演会など)個別のニーズに合わせたサービス提供をお願いしたい。
-
- 22 イベントとはいっても、そういった情報が入ってこない為、参加しようと思わない。
-
- 23 通訳者がいても知らない手話が出てくることもあるから、要約筆記も付け加えてくれればありがたい。
-
- 26 世界共通で皆が手話を原語にしてくれたら嬉しいと思います。(無理な話かもしれないけど)でも、今少しずつ手話が広まってくれたので嬉しい。
-
- 31 もっと容易に手話通訳の依頼ができるようになってほしい。
手話通訳者の技術の向上
-
- 31 その地域での生活の情報が無料メールで配信してくれると生活していてとても便利。たとえば、1週間に1回とか1ヶ月に1回とか・・・
-
- 32 本来、主催者側が通訳を準備するのが筋であるが、予算がないことを理由に断られるのが結構あり、しっくり来ないことがたびたびあります。それでも、「通訳が目立ったら困る」「あの人は何？と変に思われるのではないか」といわれた10年前と比べたらだいぶ進んできたと思いますが、現状としてはまだまだです。
-
- 33 情報を得るためとはいえ、その都度通訳者にお願いするのはまどろっこいと思います。話の中身が本当に為になるか(情報の制度)たくさん考えさせられます。この点は、人間としてフットワークが軽くなるきっかけになると思いますが、そう割り切れない現実があります。
自分の目で確かめる現場感覚(レインボーブリッジに歩道はあるかなど。早朝散歩として見に行く価値はあります！)、本や人の話を基に動きます。
私の場合は、情報そのものに縛られたくありませんので、必要なときには聞き返す、ポイントだけ教えてもらいます。(大学の講義も1言1句ノートテイクしても自分の身についたとは思えませんでした。結局、自分が「これをやる」と決めるから、現実には動き出すのではないのでしょうか)
長くなりましたが、ありがとうございました。
講師の心が熱く、聴衆へ語りかける雰囲気(一方通行では×)には、その人がやっていることが現れてくる。言葉にできない何かが、表情が、背中が、歩き方が、全て現れる。聴衆は、日頃テーマを持って生きることで一方通行ではない、魂の化学反応が起きる。どこかで会うときもチャンスが生まれる。(これをベースに人と会います)
-

調査結果の詳細

- 講演会や公演等は座席で鑑賞するので、情報保障機器は常設で十分であると思われるが、博物館や美術館等は移動しながら作品を鑑賞することが多いので、できればPDA(遠隔離通信(ワイヤレス)で字幕を流す。あるいは手話の映像を流す)を活用したアナウンスがあれば大変便利。
- 34 PDAを使った情報保障機器があれば、講演会等に1人で参加しても情報から疎外される不安がないので大変助かるだろうと思う。
- 44 聴覚障害者に対する情報保障は社会的に見ても公的な催し内容 主催者が公共団体等の場合はすべて主催者団体が準備すべきです。
- 55 高齢者向けのイベントがあれば。
- 57 必要なし
- 61 TVの聴覚障害者のご案内(文字放送の)もっと皆に利用する(見るよう)知って欲しい。
- 63 地域等でよく行ってみたい講演会講習会があり、要約筆記の方を依頼したとき、2人の方が交代で書いてくださり、私のために2人もと申し訳なかった。わずか1時間半のお願いだけけれど恐縮しました。
- 70 手話はやはり日本手話のほうが分かりやすい。字幕もOKです。
- 85 聴覚障害者に対しての福祉制度とか配慮など具体的に知りたいので、あのような講演あればぜひ参加してみたいと思う。
- 86 パワーポイントを使うことによって、理解もできるきっかけになるから、どんどん活用してください。
- 93 大会やイベントなどの場内アナウンスを聴覚障害者にも分かるようにして欲しい。
- 100 何かのイベントの時、前座としての話がわからないのでその内容が書いてあるプリントを作って配るとか、字幕をつけて欲しい。
- 104 大きな会場だと通訳者の手話が見えづらいので、字幕があると助かります。
- 208 1. 30人程度の講演会
2. 日本語手話の通訳者(レベルの高い人)
3. 聾者に合わせた講演のスピード
4. パワーポイント、写真を添えたスライド
上記のような講演であれば、満足度も高いと思います。
- 213 手話通訳は健常者ではなく、ろう者手話通訳を用意して欲しいと思います。
日本語対応手話通訳と日本手話も両方で立って欲しい。
ろう者手話通訳士の制度を作る必要ではないか?と思います。
- 214 このアンケートで実現できればベストですね
- 215 女性企業家のサクセスストーリーやセミナーなどの一般教養講演にも、申込時に希望すれば聴覚障害者向けの情報保障が普通に付けられるようになってほしいと思います。
- 217 質問で手話が主体で、対応する要約筆記の場合の質問が抜けているのがある。聴覚障害者=手話ユーザではなく、手話を使いこなすのは聴覚障害者の半数もないといわれていることをご考慮してほしい。
「電光掲示板」の位置についての設問は、経験か希望か不明です。
- 218 スポーツ観戦などの場で解説を聞きたい
- 219 毎年1回歯科技工士学会やっています。(メンバー)日本技工士会が何回か講演会がやっていますが、生涯学習単位あり、何単位かは忘れたですがもらえたら日技認定が与えるのです。手話通訳制度がなく、ろう者の技工士が技術の情報なく、ワンマンまま技術を伸びない例が多く、ろう者の技工士が諦めて辞める人が何人かいます。
- 220 折角要約筆記がつくのに、つけられているという情報を聴覚障害者などにいきわたっていない。
ループを設置してあっても、スイッチが入ってなかったり、ループが設置してあることさえ、広報されていない場合がほとんどです。どちらももったいないと思います。

- 227 手話通訳にもそれぞれやり方があって相性の問題があると思うのですが、あまりにも無表情で表現が硬い人は避けてほしい。リラックスして情報を得るためには必要なことだと思う。
- 228 字幕スクリーンも手話通訳者も発言者の近くにある(居る)ことが一番です
- 230 アニメや声優関係のイベントにも手話通訳や日本語要約字幕を付けてほしいし、気軽に通訳を依頼できる環境作りをしてほしい。アニメや声優関係のイベントで、もし通訳を依頼したら「なんで聞こえない(もしくは聞こえにくい)のにアニメや声優関係のイベントに行きたいんだろ?」「大人のくせにアニメのイベントなんて。」と通訳者に思われたり、バカにされそうで通訳を頼みたくても頼めない人だっているのです。それでも私は軽度の難聴(ろう者)なので通訳団体に通訳を依頼できる資格がないのも悔しいです。軽度でも手帳持てない人にも依頼できるようにしてほしい。
- 232 日本手話とか日本語対応手話とかは、聴覚障害者を二分するような言い方は失礼だと思います。「手話」だけで表示すればよいです。日本手話の定義は何でしょうか? 常識的にみれば日本のいろいろな手話の総称ではないでしょうか? ろう者同士が心おきなく手話する(ホームサイン)は「ろう話」と使います。
- 233 講演会における手話通訳が、講演会には障害者への配慮をする、という当たり前としての力を持つようになればいいと思います。障害者がいるから手話通訳を手配する、というのではなく、中には、障害者を持っていることを隠している人もまだまだいます。自分から、手話通訳専用の席に座るのはどうも、、、と思っている人は、まだまだいると思います。その為にも、自然に通訳が用意されている制度。このような、行きたいときに行きたい場所に手話通訳が設置されている制度が、あれば、いいと思います。
- 234 どこへいっても通訳者が配置できるようにしてほしい。(病院など)
通訳者が不足であっても、ろうあ者が暮らしやすい街に一日も早く実現したい。(電子文字などつけてほしい等)
- 235 通訳費用の負担問題が一番大きい。最近、依頼者負担が多く、それがろう者の社会参加を妨げているように感じる。
- 236 最近、手話通訳は必ずつくようになりましたが、メモがとれません。
パソコン要約だと、メモもとやすいので、パソコン要約ももっと普及すると素晴らしいと思います。
手話通訳の人の技術をあげてほしい。手の動きが小さいと、読み取りにくい。また、口もきちんと動かして欲しいです。
- 237 私自身、情報保障をする側になったことがあります。この経験から「情報保障に携わる人の考えが甘い」と感じています。今回のアンケートはそういう部分を大切にしてくださるのかと思い期待していたので、回答を終えてみて、残念な気分です。
「このような形で情報保障をする」ということも大切ですが「どんな内容の情報を伝えていくか」ということのほうが私にとっては重要なことです。情報保障のことを考えるのでしたら、もっと、メンタル面にも目を向けて欲しいと思います。
- 239 問4の費用においては、こちらの負担は無料ではあるが、ボランティアではなく市や大学側が負担してくれている。
- 241 最低限手話通訳はつけて欲しい。口話ではやはり限界がある。
- 243 結局、ADA法のように、法的強制力のあるものでないと、情報保障が拡がらないのでは?
- 244 ホールには磁気ループを全会場に標準設置を義務付けてほしい。
- 247 主役が話している時に手話通訳者ってたまに手話を休む(?)時があるし・・・
- 248 聴力の質問は左右で分けるなり何なり方がいいと思います
私は右が100dB以下、左が100dB以上なので回答する時に困りました

(B)ストーリー調査

(B - 1)講演会参加のストーリー調査

1 概要

ストーリー

3月28日(月)に、IAUDの講演会に行く予定をたてる。
 当日、12:30に地下鉄銀座線「虎ノ門」の駅で、知人と待ち合わせる。
 霞が関ビル内でランチをとり、おしゃべりをする。
 講演会(パトリシア・ムーア氏講演「UD・世界の潮流と課題」)にいっしょに出かける。
 講演会終了後、知り合い何人かでお茶をして、帰路につく。

20052005年3月28日開催 IAUD特別公開セミナーのご案内



パトリシア・ムーア氏講演「UD・世界の潮流と課題」

今回は、世界的なUD研究者であり、自ら4年におよぶ老女の疑似体験から多くの示唆を得て執筆した「変装」の著者でも知られる工業デザイナー、パトリシア・ムーア氏をお招きし、UDの世界的な流れと今後の課題について、ご講演をいただきます。

スケジュール

| | | | | |
|---------------|-------|------------------|---------------------------------------|------------------------|
| 2005.03.28(月) | 12:00 | 霞が関ビル6階 | アルモ会議室にて、調査員・手話通訳者 集合 | |
| | 12:30 | | 地下鉄銀座線「虎ノ門」駅にて被験者と待ち合わせ | 待ち合わせ方法 |
| | 13:00 | アルモ会議室 | アルモ会議室にて、1チーム3人(被験者・手話通訳者・調査員)でランチをとる | ヒアリング(A) |
| | 14:15 | | アルモ出発 会場へ | 一人で行ってもらおう ヒアリング(B) |
| | 15:00 | 富士通24階大ホール | 講演開始 | |
| | 17:00 | 富士通コミュニケーションスペース | 講演終了後、ミーティング | ヒアリング(C) |
| | 18:00 | | 解散 | 謝礼等 |

調査結果の詳細

ヒアリング項目

ヒアリング(A)

ランチをとりながら、3人で打ち合わせ

- 1 講演会の情報収集の方法
- 2 当日出かける前に準備したこと
- 3 第一次アンケートについての詳細

ヒアリング(B)

移動しながら、雑談的に聞く

- 1 交通機関の情報保障について
- 2 今までイベント等に出かけたときの経験
- 3

ヒアリング(C)

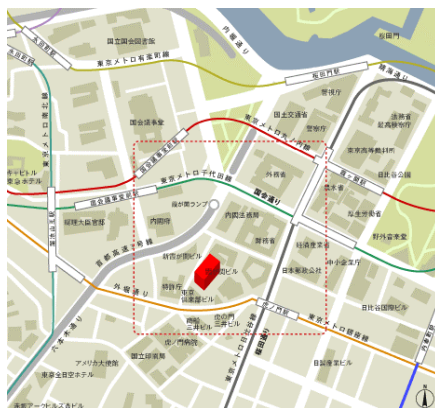
ミーティング形式でも良いかもしれない

- 1 講演会の感想
- 2 講演会の情報保障の感想
- 3 もっと良くするための工夫
- 4 運営側への質問

役割分担

スタッフ構成

| 事務局・スタンバイ | 被験者 | 調査員 | 手話通訳者 |
|-----------|-----|------|-------|
| 西本和彦 | A | K.K. | あ |
| 森本八月喜 | B | T.N. | い |
| Y.E. | C | Y.M. | う |
| T.M. | D | S.K. | え |



地下鉄によるアクセス by Metro

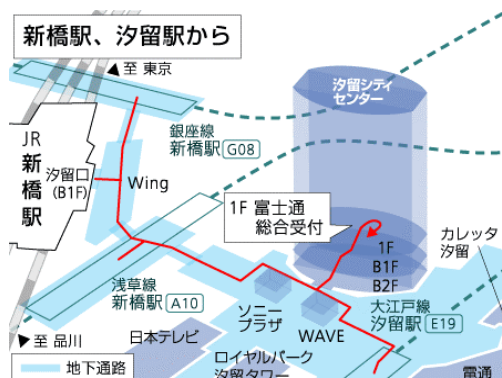
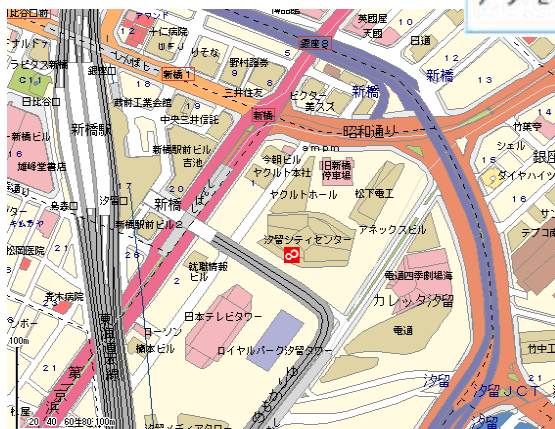
- 有楽町線 虎ノ門駅 (D) より徒歩3分
- 丸ノ内線 麹町駅 (A12) より徒歩9分
- 丸ノ内線 麹町駅 (A12) より徒歩7分
- 千代田線 麹町駅 (A12) より徒歩6分
- 丸の内線 麹町駅 (A12) より徒歩9分
- 丸の内線 麹町駅 (A12) より徒歩9分
- 丸の内線 麹町駅 (A12) より徒歩9分
- 丸の内線 麹町駅 (A12) より徒歩9分

自動車によるアクセス by Car

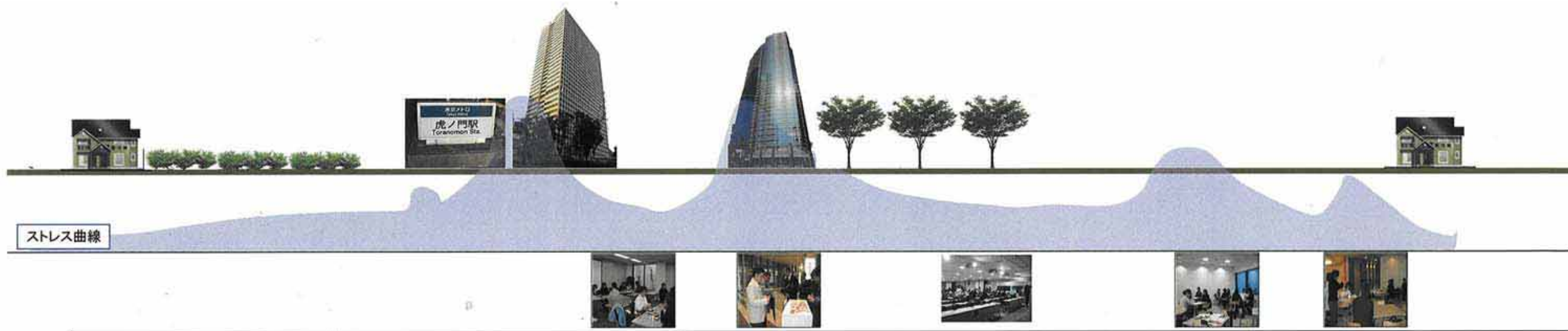
最寄り駐車場より3分。
周辺有料駐車場(300円/30分)もご利用頂けます。



住所 〒100-6006 東京都千代田区霞が関3-2-5 霞が関ビル6F
 アクセス 地下鉄銀座線虎ノ門駅A5出口 徒歩2分
 地下鉄日比谷線麹町駅A13出口 徒歩4分



1 キーワード



| 情報収集 | 待ち合わせまで | イベント | 話し合い | 帰路 |
|--|--|--|--|--|
| 入手方法 意思決定 準備 | 持ち物 交通機関 待ち合わせ 雑談 | 会場まで 会場入り口 会場環境 イベント内容 情報保障 会場外 | | 交通機関 |
| <p>人間関係と関係をつなぐメール等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ML ・ネット ・メール ・ファクス <p>インターネット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ <p>選別して紹介してくれる</p> <p>情報保障の関係なく</p> <p>情報保障はあとからつける 主催者への依頼 自分で依頼</p> <p>情報保障のあるものから</p> <p>行き先の地図 相手のメールアドレス</p> | <p>携帯電話 メモ用紙と筆記用具</p> <p>誰でも迷う。迷った時の対処方法</p> <p>呼び出しの事務所電話は使えない</p> <p>通訳者 ● 健聴者 ○ 障害</p> | <p>人とのやりとり</p> <ul style="list-style-type: none"> * 気軽に聞けない 聞かない ひとりで * よその人の注意が聞こえない <p>駅でのお知らせ</p> <ul style="list-style-type: none"> * 放送とビジュアルと <p>受付に手話通訳がない 対応可能なスタンス(筆談とか)</p> <p>新機駅</p> <p>出口表示が見やすくわかりやすい</p> <p>ビル内 分りにくい</p> <p>講師、手話、字幕の位置で自分のお気に入りがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・字幕がまっすぐ見える位置 ・手話の真前 ・字幕と手話が一緒に見える位置 ・講師に近い席 <p>字幕と通訳が重なって見えてしまう。</p> <p>手話の人の服もバックも黒で、見えにくい</p> <p>手話通訳者が暗がりになっている</p> <p>字幕とパワーポイントの位置が逆のほうが良かった。</p> <p>字幕は、見やすかった。字の大きさ、バックの背に白抜き文字。</p> <p>要約筆記の中に、会場の雰囲気わかる通訳がほしい。(笑)とか、聴衆のざわめきとか。札幌まで飛ばしていたので、雰囲気はわからない</p> <p>ロボット通訳なので、講演者が話すと、そのまま文字になる。「今マイクが切れました」とか</p> <p>ロボットが通訳しているのでイメージを持たず、メンタルな音の通訳が難しそう。</p> | <p>スクリーンの明るさと手話の暗さ やさしい話は手話。堅い話は字幕。 始まってから、字幕と手話見比べて、技術の良いほうに決める。 質問コーナーの時に、どこの場所の人が指していないのでわからない。</p> | |
| →情報バリアフリー | <p>情報保障情報の情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベントの情報 ・情報保障があるかないかの情報 <p>緊急時の案内</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音声情報を文字情報に | <p>受け付け対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やりとりするスタンス | <p>会場対応</p> | |
| →マインドバリアフリー | <p>情報保障打診・依頼についての対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の依頼に対応する姿勢 | | | |
| →環境整備 | <p>情報保障の充実</p> | <p>呼び出し機能</p> <ul style="list-style-type: none"> 窓口での呼び出し手段2つ以上 | <p>誘導機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・案内板 ・情報の文字化 | <p>会場設備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会場環境 <p>情報保障</p> <ul style="list-style-type: none"> ・字幕システム ・要約筆記 |

2 まとめ

| | 講演会の情報収集 | | | | 今日出かける前に準備したこと | | 交通機関の情報保障について | | |
|---|--|---|---|---|---|--|--|---|---|
| | 情報の入手方法 | 講演会に出かけようと思う決め手？ | 今回の講演会についての期待は？ | 本日待ち合わせまでの不都合 | 持ち物 | 調べたこと | 今日迷わないで来れた？ | 必要な情報保障がなされていたか？ | 不安に思うこと |
| <p>A 28歳男性 大学院生 先天感音性 100 - 130補聴器 60 - 100 アンケート番号:101</p> | <p>ML、ネット、メール 人間のつながり:研究室、友人等...この二つが主なソース</p> | <p>・講師が持っている価値観等、自分にとってプラスになりうるものが一番。</p> | <p>・おばあさんに変装したきっかけ。即ち、自らバリアを持つとするきっかけについて、話が聞けたら。</p> | <p>・前日に指定があったので大丈夫でした。</p> | <p>・ハンディタイプの地図帳 ・講師のプロフィール、実績</p>  | | | | |
| <p>B 30歳女性 フリーター・ネット関係 中途19歳 感音性0 - 60 アンケート番号:230</p> | <p>今回はデフユニオンのメルマガで入手。基本的には情報保障のあるものから選ぶ。</p> | <p>講演内容に興味もてるもの。手話通訳がついているほうが参加しやすい。個人で手話通訳をつけるのは障害者手帳を持っていないとつけられない(自分は持っていない)</p> | <p>海外のバリアフリーについて知りたい。前もっては特に調べていない。</p> | <p>緊急のメールアドレスなどを教えてもらえるとうかった。又、FAX番号もわかっていた方が安心。待ち合わせについては会うまで顔がわからないことが不安。今日は雨でもらった地図を見るのもぐちゃぐちゃになってみたく大変だった。</p> | <p>いろいろ持ち物はあるが、特に重要なものが、携帯電話。(家族などに連絡をとるため。)メモ用紙と筆記用具も必ず持つ。コンビニ、スーパーなどで聞く場合に使用することが多い。</p> | <p>今日は特になし。(外出はよくする方なので、3日前にも夕留に来たばかりのこと。)</p> | <p>内幸町から霞が関ビルに来るまでに迷った。(雨のため余計にわかりにくかったようだ。)</p> | <p>方向を示す表示なども雨のため見えづらかった。都心は住宅街にあるような住所表示も無くわかりにくい。</p> | <p>今日について言えば、雨でいろいろなのが余計にわかりにくく不安だった。</p> |
| <p>C 33歳男性 会社員。自動車の研究開発 先天 混合性100 - 130 アンケート番号:218</p> | <p>情報保障のあるものから選ぶ。 IAUDのホームページを見て前から知っていた。</p> | <p>会社側の都合もあり。仕事に大いに関係があるので、UDには会社でも関心が高いので、商品の差別化でも武器になっている。</p> | <p>とても期待している。会社も高齢者体験をし研究しているので、パトリアさんに興味がある。眼鏡をかけ視野を狭くしたり、サポーターやおもりで体を動かさなくして60,70才の体になり、大変さを感じ、仕事でもある車の取っ手のつかみ安さの体験をしている。</p> | <p>メールが良い。仕事の都合上、商品開発なので、カメラ付の携帯電話が持ち込めないのは緊急の時は困る。 このビルに入って下のフロントの人にメモを渡したが、6階に行ってくださいと言われただけ。6階のフロントは電話のみ。バイク便の人がいたので電話してもらおうと思った。言えない人は困る。たまたまドアが開いていたからわかったが...</p> | <p>朝からあめだとわかっていたが、傘は持たない。基本的に荷物だけ。いつもポケットに入る物だけ。メモはいつもは持たない。仕事の時だけ。携帯があれば、メールで人に見せる。</p> | <p>情報保障のために、準備したことは特別ない。</p> | <p>誰でも迷う。(ついてきて分かったでしよ)</p> | <p>東京は視覚情報が多すぎて、かえって分かりにくかった。</p> | <p>中途障害ではないので、不安より不便。</p> |
| <p>D 46歳男性 会社員 中途2歳 混合性100 - 130 アンケート番号:98</p> | <p>情報保障は余り考えないで、行きたいものがあれば積極的に参加する。情報保障は後からついてくる。どうしても手話通訳者が必要そうときは自分で頼んで出かける。</p> | <p>楽しみたいもの、興味がある内容のもの、一番多いのは勉強したいものに行くことが多い。</p> | <p>期待は少し。今回は前もっては何も調べなかった。</p> | <p>手紙で情報をもらい参加。今日は一人で電車 came。不都合はなし。会社関係もあり、こちらは初めてでないので何の問題もなく到着。もらった手紙の中に地図が入っていたので、集合場所や講演の場所は確認した。</p> | <p>メモ用紙とペン1本。(筆談のため)</p> | | <p>来たことがあるところなので迷わず来れた。</p> | <p>電車の中の扉の上で、次に停車する表示がでて、便利に思う。</p> | <p>人が混んで、左記の表示が見えないとき不安に思う。</p> |

| | 具体的事例 | | | |
|--|--|---|---|---|
| | 虎ノ門駅 | 電車の中 | 新橋の駅 | 会場まで |
| <p>A 28歳男性 大学院生 先天感音性 100 - 130補聴器 60 - 100 アンケート番号: 101</p> | <p>・エレベーターが来るサインの音が分からない。 (ビルの中で) ・雨の中では、傘をさす為、手話通訳者とも横に並んで歩けない。 ・途中、工事中の為に、両側にフェンスがあり普段と異なる風景。このような場合には、普段と標識や看板が違うため困ることがある。警備員にも気軽には聞けない。</p> | <p>・電光掲示板は見ない。覚えているから必要ない。 ・電車の中で眠ってしまうことはない。 ・事前に地図で行き先はチェックして出る。 ・後ろを通る人が「ちょっとすみません。」と言うが、気がつかない。</p> | <p>・3~4回途中の掲示を確認する。持参の地図を見る。 ・古本市のポスター等、視覚的な情報にはすぐに気づく。・雨に濡れないように2階からビルに向かったため、1階受付が見つからず、エスカレーターを上り下りする。人には尋ねないで、窓から外を見てビルの形を確かめビルが二つに分かれていることを確認し、ビルの案内板でマークを見て分かり、1階受付のある場所へ向かう</p>  | <p>1階受付で、何と書いていいか躊躇していると、係員が調査員に話しかけてやりとりし、ネームプレートを渡される。 ・エレベーターの中で傘が人のじゃまになっているのを注意されるが気づかず、手話通訳者が肩を叩いて伝えて気づく。 ・会場受付では、話しかけようとするが、係員がアルモの方から聞いていますと調査員に話しかけたため、話す機会無く入場。森本さんより受付でアルモの名前を出すかどうか聞いてなかったのが分らなかったとのこと。調査員がいなかったら、受付のおばさんに繰り返し聞いていたとのこと。 ・会場に入り、補聴器のボリューム調整をしたためかハウリング(ピー)が起こり、人に言われて気づく。</p> |
| <p>B 30歳女性 フリーター・ネット関係 中途19歳 感音性0 - 60 アンケート番号: 230</p> | <p>虎ノ門駅についてはとても慣れているので全く問題ないと思ったが、霞が関ビルから出る際どちらの出口に出れば虎ノ門にいけるのかわからなかった。(聴者でも知っているなければとても判断しづらい。)</p> | <p>慣れているので特に問題はなかった。</p> | <p>新橋駅からの出口には表示が見やすい所にあり、比較的わかりやすい。(目印の写真参照)</p>   | <p>会場のあるオフィス棟に行く表示が小さかったり、高い所にありすぎたりで、わかりにくかった。途中の案内図は小さすぎて見にくい。</p> |
| <p>C 33歳男性 会社員。自動車の研究開発 先天 混合性100 - 130 アンケート番号: 218</p> | <p>切符の販売機は使いやすいが、路線図は見にくい。ホームに入る車椅子の出入り口は広くていいが、ホームに下がる場所に階段があるので、つながりが、ない。ホームのサインはよい。 ホームで電車を待つときに「電車が着ます」のサインはよい。</p>  | <p>特にないが、乗ったらすぐどこに行くか確認する。東京の電車は、確認できるのでよい。</p> | <p>サインが途中で消える。分からなくなる時があった。自分が車椅子のデザインをされているので、車椅子の方の乗り降りの出入り口とラセン状に車椅子ごと運べる場所を発見。でも、サインは見にくかった。トイレの出入り口の段差と低い位置の電話も車椅子には使いにくい。地図が小さく見にくい。お年寄りには特に見にくい。</p>  | <p>ビルには比較的すんなり行ったが会場の24Fに行くまでのエスカレーターがなかなか見つからず、警備の人にメモで聞いた。あちらですと案内はしてくれなかった。エスカレーターの低い位置の鏡は良い。</p> |
| <p>D 46歳男性 会社員 中途2歳 混合性100 - 130 アンケート番号: 98</p> | <p>虎ノ門駅で切符を買うとき、障害者用の切符のボタンがなく通常の切符を買ったが、付き添いが一緒だと半額になるので駅員に申し出て変えてもらう。切符購入以外は順調に電車に乗る。</p>  | <p>扉の上に取り付けてある次に停まる駅の案内は、とても便利である。これを見て現在位置を確認し、降りる駅を確認する。今日はあまり混んでなく上記の表示がよくみえた。</p> | <p>新橋からゆりかもめに乗ることにしたが、乗り場までは何度も利用しているため問題なくたどり着いた。ゆりかもめの切符売場で障害者用のインターホンのボタンを押してきっぷを買おうとしたが、インターン越しで通じず(インターホンでしゃべれない)、投書をしたことがある。本日もまたインターホンのボタンを押したら上部にランプが設置してありそれが光り、係りの人が来てくれた。しかし、このサービスは日中のみで、またその人は手話ができなかった。中途半端なサービスだ。</p> | <p>ゆりかもめに乗り、汐留で下車。念のため、汐留の切符売場を確認してみると、無人で、インターホンがありカメラに障害者手帳をかざすように書いてあったが...、押したらどうなるのか...。手帳が無い人はどうするか、来てくれる人はいるのか...。会場は何度も行ったことがあるらしくスムーズにたどり着いた。</p> |

| | 講演会の感想 | | | 講演会の情報保障の感想 | | |
|---|--|---|--|--|---|--|
| | 会場の環境 | | | 講演会の内容 はどうだった | 情報保障は 的確でしたか？ | 不都合なこと |
| | 案内 | 席を決めた要因 | 他 | | | |
| <p>A 28歳男性 大学院生 先天感音性 100 - 130補聴器 60 - 100 アンケート番号:101</p> | | <p>席は、初め会場のほぼ中央に案内されたが、前から2列目、右から6番目に移る。講師、手話、字幕が同時に視覚に入りやすい角度から見える席が望ましい。 講師と近く良かった。</p> | <p>字幕と手話は、2つを見て、技術の良い方で決める。やる人の専門的な知識によって、異なるので。 手話が暗かった。舞台に向かって右側の窓際の方が明るかったので右側の方がよかったのでは。 イントロはパソコンは難しい パソコンと通訳は遅れるので、講師を見てそれぞれのタイミングをつかんで、その都度、講師、パソコン、手話を適時に見ることを繰り返す。 講師からは講師の雰囲気や表情からニュアンスを読む。 講師と通訳のずれがあり、通訳を見ていると講師はもう終わっているのでは、その講演会ごとに自分で確かめて選択する</p> | <p>アジア的な話をする人だった。自分と子供、年上の人との関係。皆が年を取っていくという話だった。東洋観、輪廻が感じられ、米人の感じがしなかった。</p> | <p>パソコンは分かり易かった。打ち間違いはあった。字の大きさも良かった。 バックが深い青で、文字が白抜きは見やすかった。 字幕とパワーポイントの位置関係は、脳の関係からいうと逆の方が良かった。映像は右脳で左目で処理し、文字は左脳で右目で処理する。 今日のは手話の方が少し早かった。字幕でも確かめながら聞いた 3つを見る配分は、講師がメインで、次にパソコン次に手話だった。しかし、手話を優先することもあった。講師とパソコンのタイミングが分かってきたので、講師の雰囲気を一番に見ていた 今日の話はメンタルな話だったので、手話の表現は難しかったと思うので、バックアップで見てた。 パソコンは他の人も見えていたので、特別なニーズではないと思ってい る。パソコンの通訳の中に、メールのように(笑)等のマークが入ると雰囲気が分かる。今日のは札幌まで飛ばしていたから会場の雰囲気は分からなかったで仕方ない 今日のパソコンはロボットが通訳していたので、イメージは持たず、ダイレクトにつながっていた。メンタルなものは言い換えると意味が変わってしまうので、今日のテーマの通訳は難しかった。</p> | <p>止まったのは仕方ない。機械だから。 トラブルの時は、講師は歌ってくださいと言った。おしゃべりするとか、機械が止まった時のマニュアルがないのだと思った</p> |
| <p>B 30歳女性 フリーター・ネット関係 中途19歳 感音性0 - 60 アンケート番号:230</p> | <p>調査員と着くタイミングが一緒になってしまい、受付には特に何もせず入れてしまった。</p> | <p>席は手話通訳も字幕も見やすい位置と思いましたが、字幕と通訳者が重なって見えにくかった。</p> | <p>字幕を見ていることが多かったが、今回機械の調子が悪く途切れてしまい、わかりにくかった。字幕と通訳者が重なって見えにくかったので、位置をもう少し考えてもらった方がよい。</p> | <p>少し難しい内容だった。(あまり興味を持てるような物ではなかったのかも)質問コーナーの内容はわかりやすくてよかった。</p> | <p>字幕・講演者・手話通訳者の位置が悪くなかったと思うが、他の点ではまあまあ。</p> | <p>字幕や音声途切れてしまっていて、聞きづらかった。今まで参加した物ではこんな風になった物は無かった。</p> |
| <p>C 33歳男性 会社員。自動車の研究開発 先天 混合性100 - 130 アンケート番号:218</p> | <p>会場の受付の人は、手話通訳がないので、あまりよくない。曖昧だ。対応するという名札みたいなをつけていると良いと思う。</p> | <p>席は、字幕をまっすぐに見ることが好き。くせか性格か全体が見えるところが好き。</p> | <p>会場はさっぱりしていて好きだが、さっぱりしすぎると情報がない。手話の方の服装が黒で後ろの壁とかぶってよく見えない。字幕のソフトは何を使っているのか。字幕も手話通訳が同じように見えるところで、真ん中が好き</p> | <p>すごくよかった。もともとこの仕事やっているので、大体知っていたが、哲学的なアプローチが今までにはなかった。とても大切な事だと思った。技術的に走りすぎていたような気がした。何も知識がなく分からない状態だったら寝ていたと思う。</p> | <p>微妙。手話、字幕が両方ありどっちを見ればよいか判断がつかない所があった。今回は、手話。講演の内容による。硬い話は、字幕の方がいい。やわらかい感情的な話は、手話。</p> | <p>言葉のイントネーション、抑揚が手話のほうに分かる。不都合は、つかみが甘い。手話の立ち位置。後ろの壁が黒く、手話の人の服が黒でコントラストが悪い。</p> |
| <p>D 46歳男性 会社員 中途2歳 混合性100 - 130 アンケート番号:98</p> | <p>受付はわかりやすかった。しかし手話のできる人がいないように、係りの人と筆談した。</p> | <p>席は手話通訳の人の前にいつもすわるようにしている。今日はライトがあたって見やすい斜め前にすわった。</p> | <p>スクリーンが明るく、手話通訳の方は暗く、目が疲れた。スクリーンと手話通訳が近すぎた。文字は遅れて出てくるので手話を中心に見てしまう。</p> | <p>大変素晴らしかった。大変感動した。例えば、人間愛。心が伝わってうれしかった。</p> | <p>機械的な技術面では、問題あり。盛り上がったと思ったら中断・講師の方の立場で考えてもそうではないか。一人の手話通訳の人に内容の漏れが多少あったが、スクリーンがあったので理解できた。機械的なハプニングについては、みんなのざわめきはわからなかったが、顔の様子や、通訳の方が「マイクが切れました。」と言っていたのでわかった。</p> | <p>質問をしている人の場所を指してくれなかったのかわからなかった。上記のようにスクリーンの明るさと手話通訳の暗さが一番気になった。これも上記したように、受付には障害者が来るのがわかっているのだから、手話のできる人がいてもいいと思った。</p> |

| | その他の質問事項 | | | | |
|--|---|---|---|---|-----|
| | これまで出かけた公共機関 (良かったところ・悪かったところなど) | イベント等に出かけた時の経験 | 講演会をもっとよくするための意見・要望 | 講演会運営側への意見 | その他 |
| A 28歳男性 大学院生 先天感音性 100 - 130補聴器 60 - 100 アンケート番号:101 | | | | 講師と通訳も逆の方がよかったのではないか。(そのほうが通訳者が窓側になり、明るくなるから) パトリシアさんの画面(右)とパソコンの字幕(左)が並んでいたのにびっくりした。人間の右脳・左脳の考え方からいっても逆のほうがよかったのでは。 | |
| B 30歳女性 フリーター・ネット関係 中途19歳 感音性0 - 60 アンケート番号:230 | 電車の中でも次の駅がどこなのか分る電光表示のものがあるものは安心(たとえば都営線)だが、無い物は次の駅がどこなのかわかりにくく不安。 アナウンスが聞こえないのでホームに上がらないとどの電車が入ってくるかわからないと上ってみてあっ、違った、あっちだ!というようにあたふたしてしまうので次に何番ホームにどこ行くの電車が入ってくるのかなど出ているものはとても助かる。 | アニメのイベントに行った時に、手話通訳の人がアニメの専門用語がわからなかった。何にしても専門的なことだとそれに精通している通訳の方がいると助かる。 手話通訳のつかないイベントに行った時にはなんとなく雰囲気だけ味わう程度になったりする。自分で手話通訳をつけるには障害者手帳が必要だが持っていないため手話通訳を利用できない。 | 内容によってその専門の手話通訳者が必要。専門用語などがあるとそれを知らない人だとうまく通訳できない。 | 手話通訳者と字幕の位置はどうして今日のような形に決めたのか。重なる部分があり、見えない。(字幕は中央が良かった。) | |
| C 33歳男性 会社員。自動車の研究開発 先天 混合性100 - 130 アンケート番号:218 | 新幹線。電光掲示板が見やすく安心。 バスが一番悪い。地方は特に分からない。乗る前までも目的地までの途中が省かれていたり、全体の路線図がない。紙で書かないとだめ。聞けばよいと思う人がいるからでは。 | 最近行ったノーツ講習会は、NG。何の配慮もなされてなかった。やはり、費用がネックか? | 手話通訳者は講演者の隣にいてほしい。離れすぎ。暗くて見にくい。目が疲れる。スクリーンのフォトと字幕が反対の方が良いという意見がでたが、それはこだわらない。が、全てをよく検討したほうがいい。 | 手話通訳の事前打ち合わせはしたか?字幕ソフトは何を使っているのか?トラブルの説明をしてほしい。 | |
| D 46歳男性 会社員 中途2歳 混合性100 - 130 アンケート番号:98 | 駅名を認識するのに、アナウンスが聞こえないので、ホームに表示してある駅名を見るようにするのだが、それが見えないときのために駅の壁の色や絵を覚えておく。 大江戸線は駅ごとにデザインが違うのでとてもよくわかる。千代田線もわかりやすい。 情報保障の無い所、悪い所が多くていいきれないが、逆によい所はダイエー系のレストラン。テロップがでる。 | 電車が急に止まったことがある。その時人が電車から皆降りたりして、何が起きたかわからず(アナウンスが聞こえない)駅員さんに筆談で聞いた。 電車の中やホームに電光掲示板があるが、すぐには情報が流れない。また、右から左へ流れる掲示板は聾話者にはわかりにくい。 | 手話通訳者とスクリーンの位置関係を考える。 手話通訳者の立つ位置を前もって良く検討しておく。 手話通訳者とスクリーンの明るさを考える。 機械の技術的なこともスムーズに行くようにしてほしい。 | 手話通訳者の立つ位置を前もって良く検討していたか。 手話通訳の席が暗くて見えにくかった。スクリーンのほうが明るくてバランスが悪く、目が疲れた。手話通訳者をもう少し明るいほうがよかった。 | |

(B - 2) 映画鑑賞のストーリー調査

1 概要

ストーリー

4月9日(土)に映画「ローレライ」に行く予定を立てる。
 4月9日(土)当日、14:30に有楽町千疋屋フルーツ
 パーラーで、知人と待ち合わせる。
 ひとしきりおしゃべりをする。マリオンの日劇2に一緒
 に出かける。観劇後、知り合い何人かでお茶をして、
 帰路につく。



スケジュール

| | 時間 | 行動 | 場所 | 内容 |
|--------------|-------|-------------------------------------|-------------|----------|
| 2005.04.9(土) | 14:30 | 有楽町で待ち合わせ | 千疋屋フルーツパーラー | |
| | | 1チーム3人(被験者・手 話通訳者・調査員)でお茶 タイム | 千疋屋フルーツパーラー | ヒアリング(A) |
| | 15:30 | 出発 | | ヒアリング(B) |
| | 15:50 | 映画開始 | 有楽町マリオン 日劇2 | |
| | 18:30 | 講演終了後、ミーティング | 日劇ホール | ヒアリング(C) |
| | 19:30 | 解散 | | 謝礼等 |

ヒアリング項目

ヒアリング(A)

ランチをとりながら、3人で打ち合わせ

- 1 講演会の情報収集の方法
- 2 当日出かける前に準備したこと
- 3 第一次アンケートについての詳細

ヒアリング(B)

移動しながら、雑談的に聞く

- 1 交通機関の情報保障について
- 2 今までイベント等に出かけたときの経験
- 3

ヒアリング(C)

ミーティング形式でも良いかもしれない

- 1 講演会の感想
- 2 講演会の情報保障の感想
- 3 もっと良くするための工夫

役割分担

| | 事務局・スタンバイ | 被験者 | 調査員 | 手話通訳者 |
|--------|---------------|--------------------------------------|--|--------------------------------|
| スタッフ構成 | 西本和彦 森本八月喜 | A D E F G H I J | S.Y. I.R. T.N. B.F. T.M. M.M. | お か 要約筆記者 き く け |



有楽町西武 有楽町マリオン

〒100-0006 東京都千代田区有楽町2-5-1
03-3286-0111(大代表)

交通

JR線有楽町駅 中央口または銀座口

地下鉄(丸ノ内線・銀座線・日比谷線)銀座駅 C-4出口

地下鉄(有楽町線)有楽町駅 A-6、A-7出口
(いずれも徒歩1~2分)

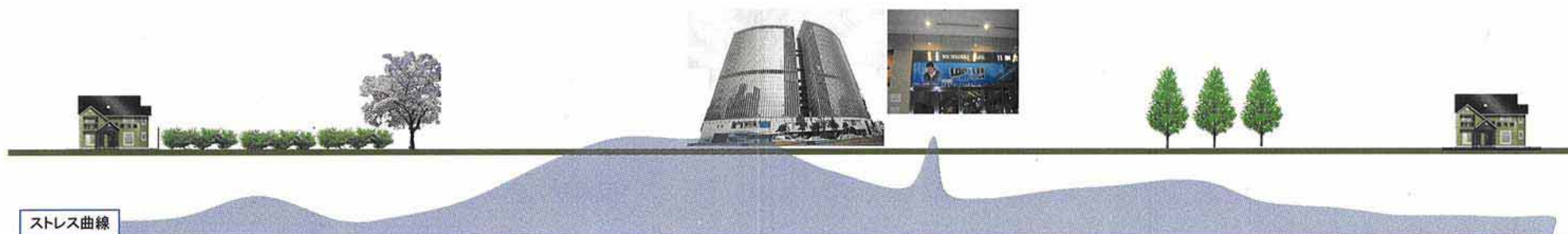
レストラン&カフェ

千疋屋フルーツパーラー

有楽町西武 A館6階 03-3286-5439



1 キーワード



ストレス曲線

| 情報収集 入手方法 | 意思決定 | 準備 | 待ち合わせまで 持ち物 | 交通機関 | 待ち合わせ | イベント 会場まで | 座席 | イベント内容 | 情報保障 | 会場外 | 話し合い | 帰路 交通機関 |
|----------------------------------|------|---|------------------------------|------|---|--|----|---------------------------|------|-----|------|------------|
| ネット利用 見たい、行きたいもの優先 知人からの紹介 | | 見たい、行きたいもの優先 内容の詳細は、他のメディアで (シナリオ・DVD)など ネットであらずじ 原作を読む | 携帯電話 障害者手帳 本 メモと筆記具 | | 駅までは迷わない ビルに入ってから迷う 地下鉄・阪急・西武・etc融合しているので 案内が共通化していな | ・EVから降りるとき意思表示の声を出す。 ・案内板はわかりやすかった ・パーラーから映画館までが、同じビルなのにわかりにくい ・EVの位置を人に聞かない。 わからなくてエスカレーターにした | | チケット売場は、指差し出来るようになっていて便利。 | | | | |
| | | | | | | 真正面 端(斜めからのほうが、字幕が見やすい) 画面から離れて、全体が見えるところ 指定席は安心感がある 座席NOが床にプリントされていて良かった | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

→情報バリアフリー

情報保障情報の情報
 ・インターネットでの情報公開
 ・情報保障イベントの充実 → 個別に対応できる情報保障システム

イベント内容の情報

・キャスト、あらずじの文字情報

→マインドバリアフリー

情報保障打診・依頼についての対応
 ・電話対応
 ・窓口の対応

→環境整備


情報保障の充実
 ・情報保障イベントの充実 → 個別に対応できる情報保障システム
 窓口
 字幕
 要約筆記



・字幕が読み取りやすいフォントだった。
 ・字幕が、白っぽい背景の時は見づらい。白背景の時だけ、ねずみ色の文字にして欲しい。
 ・上映前の案内が音声だった。スクリーンに注意事項を映し出して欲しい。

うたの雰囲気わからない
 知らないことが判ってしまっ; 音楽や音に対する文字情報の出し方に工夫がほしい

2 まとめ

| | 映画の情報収集 | | | 今日出かける前に準備したこと | | |
|--|--|---|--|---|---|--|
| | 情報の入手方法 | 映画に出かけようと思う決め手？ | 今回の映画についての期待は？ | 本日待ち合わせまでの不都合 | 持ち物 | 調べたこと |
| E 22歳女性 会社員・技術職 先天 感音性130 補聴器 60-100 アンケート番号:227 | ネットを利用。見たい・行きたいものを優先する。その後、情報保障があるかどうかを確認する。 | 見たい・行きたいものを優先する。通訳者の有無を確認する。 邦画はわかりにくいので洋画を主に見ている。(月1回程度) | 楽しみにして来た。ネットにてあらすじを確認した。 | メールでのやりとり。待ち合わせの場所は問題なかった。ストーリーを理解していると、映像に集中出来る。 | 携帯、障害者手帳、本(電車の中で読む) | ネットにて映画の内容を調べた。ストーリーが分かっていると映像に集中しやすい。 |
| F 29歳女性 人事事務 先天 感音性100 補聴器なし アンケート番号:221 | 字幕があるから参加した | 字幕があるから | 以前友達と「踊る大捜査線」を観に行った。これが邦画で初めての字幕入り映画を観た体験でとても楽しかったので今日も楽しみ。 | 昨日になって郵便が届いた。三日前くらいに届いてくれないうと予定も立てにくい。本当に待ち合わせできるのか心配だった。 | 障害者手帳、常にメモと筆記具を持っている。 | 携帯で交通手段を・便利・安い・簡単なもの。今パソコンが壊れている事もあるが、電車については保存できるので携帯で調べる。映画については、友達から面白い映画らしいという話を聞いた。 |
| A 28歳男性 大学院生 先天 感音性100-130 補聴器 60-100 アンケート番号:101 | | | | | | |
| G 33歳男性 会社員UD関係 中途0歳 感音性100-130 アンケート番号:210 | (今回) ネットでたまたまアンケートを見つけて、映画のイベントがあることを知り応募した。 (通常) 聴覚障害者向けの新聞やインターネットで、(日本映画の場合)字幕付きの映画がどこでやっているかを調べていく。 | 自分が見たい映画で、(日本映画の場合)字幕つきで上映されている場合。大きい映画館が多い。字幕のつかない映画は行かない。 | 特に調べていない。映画が好き。 | パソコンのメールを使ってやり取りしていたが、不都合はない。 | 今日はメモと筆記具を持っているが、いつもほとんど持ち歩かない。 | ない。遠方に出かけるときや、始めていくところの場合は、インターネットで場所などを調べ、地図をプリントアウトして早めに行くなどしている。仕事柄このあたりには頻繁に訪れる機会があり調べることや迷うことはなかった。 |
| H 36歳女性 データ入力 先天 感音性60-100 アンケート番号:102 | 前回に見た映画のチラシなどをまたはインターネットで。インターネットで調べた際には情報保障がついているか一応調べるが、付いていなくても見たいものなら見に行く。邦画でも、字幕がなくても見に行く事がある。(もっと内容が知りたかった場合には、市販しているシナリオ本や、DVDを買っても一回確認する事もある。最近字幕なしの邦画をみた) | 基本的に映画の内容を見て決めるので、建物の情報や、情報保障の事は気にしない事が多い。(邦画の場合は別)しかし、また邦画でせっかく字幕付きがあっても映画館の場所が遠く、放映の回数が限られていたり、急になって放映場所の変更が会ったりと、不自由な事が多かった。(「千と千尋の神隠し」では予定されていた映画館が急遽変更、狭い映画館に字幕付きが追いやられてしまって残念であった。) | 予告でこの映画の事は知っており、新旧美形俳優の共演という事で楽しみにしている。しかしストーリーはあまり期待していません。今日も慣れた場所だったので、すぐに問題なくられました。いつも待ち合わせの時は、人気がある映画だと先に並んで待っていたり、入り口で待っていることが多いです。中に入ると地下だと圏外になってしまう事があり、連絡がとれなくなってしまった事もあった。(西武CLUB ONの会員になっているので、前売りも買ったり、休憩場所を利用したりしています。) | いつも携帯メールを使って、場所、時間などを決め連絡を取り合うので特に問題はありせん。 | 障害者手帳、携帯、紙のメモ。(忘れた時は窓口に借りて書いてりする。) | |
| D 46歳男性 会社員 中途2歳 混合性100-130 アンケート番号:98 | | | | |  | |
| I 61歳男性 元国会図書館職員 中途 8歳 感音性100-130 アンケート番号:217 | ・映画はあまり行かないが、見るのであれば情報保障のあるものを見る。 ・情報の入手方法・・・映画館にメールで問い合わせる。 ・古典の映画は著作権の関係から字幕をつけてくれないので残念。 | ・友人や女性に誘われた時。 ・情報保障のないものは見たくない | ・事前に内容のある程度調べた 原作が本であるものを映画化した、潜水艦ものetc・・・。 ・役所浩司が好き、関連の漫画も読んだ。 | ・メールと郵便で不都合は特になかったが、送られてくるはずの地図がおくられてこなかった。 | 酸素ボンベ、雨具、ボンベと管の電池2個、お金、携帯電話 | 聴覚障害よりも肺活量が少ないのでそちらのほうが心配、階段の上り下りがきついので、インターネットで駅のエスカレーターやエレベーターの位置を調べる。 |

| | 交通機関の情報保障について | | | 具体的事例 | | |
|--|--|--|--|--|---|---|
| | 今日迷わないで来れた？ | 必要な情報保障がなされていたか？ | 不安に思うこと | 有楽町駅 | マリオンの中 | 会場まで |
| E 22歳女性 会社員・技術職 先天 感音性130 補聴器 60-100 アンケート番号:227 | 問題なく来れた。 | 気にならずに来れた。(問題なし) | 電車が事故等で遅れた場合、何分遅れなどの詳細情報が無いと不安である。(放送等で流される情報が分からない。) | 問題無し。 | 問題無し。 看板・表示等に注意して、映画館へ行った。 | 問題無し。 EVの中で、人が多く当階で降りるのが困難であったが、声を出して(あー)降りる意思表示をしていた。 |
| F 29歳女性 人事事務 先天 感音性100 補聴器なし アンケート番号:221 | 駅までは慣れてはいるし迷わなかったが、店の場所がわからなくて建物の中でも迷った。阪急の方にも行ってしまった。本当はエレベーターを使いたかったが場所がわからなくて、エスカレーターで来た。 | 普段利用している中央線は掲示板があるが、ない電車もある。次の駅はどこという掲示板が全駅にほしい。 | 仕事で名古屋に行った時、乗る予定の電車に乗り遅れ次の電車に乗ったら、途中から行き先が二つに分かれ目的地と違う場所に行ってしまった。この時何の説明も無かったが絶対に必要。通勤時信号故障で電車が突然止まった。みんな移動するが何故かわからない。降りて状況を知り他の電車に乗り換えしたが結局じきに動き出し、元の電車に乗ったままなら間に合ったのに会社に遅刻してしまった。見てわかるように電車内、ホームに掲示板表示、乗り換えの指示、的確な情報がほしい。 | 駅構内は迷わなかった。C-4出口を目当てに来たのでわかりやすかった。A-1~の表示は建物前とかよりわかりやすくていい。 | 映画館に行く時エレベーターを使いたかったが場所がわからなくて、結局エスカレーターで来た。 | |
| A 28歳男性 大学院生 先天 感音性100-130 補聴器 60-100 アンケート番号:101 | | | | | | |
| G 33歳男性 会社員UD関係 中途0歳 感音性100-130 アンケート番号:210 | はい。 | はい。 | 緊急停車したとかなにか事故があったときに、すぐ情報をキャッチできない。JR線のように電子掲示板が全ての公共機関についていてわかるようにしてほしい。 | なし | なし | なし 待ち合わせ場所から映画館のなかまでの移動について(調査員側からのコメント)傍目から見ていても、健常者と同様に館内案内図や映画の看板を確かめスムーズに移動。間違えることなく、着席。待ち合わせ場所のフロアが女性モノの服飾売り場だったので恥ずかしい |
| H 36歳女性 データ入力 先天 感音性60-100 アンケート番号:102 | 知っている場所なので、迷わずにこられた。 | 特に問題はない。(よく来る場所なので) | | 駅が長細すぎる。(出入り口が左右遠すぎる)地下道を分かりやすいのでよく利用するが、西銀座の出口から地下道が止まってしまう地上に一回でて、また地下に潜らなくてはならず、不便である。(日比谷のところから地下道が繋がらず地上へでてしまう) | 夜の遅い時間に上映が終了し、エレベーターが混んでいるときは8Fまではエスカレーターが動いているが、百貨店の方が営業終了のため、それから下は外階段を歩いて1階まで降りなくてはならない。(外は暗く、また一斉に皆が降りていくため危険である)その際には、エレベーターは途中階を通過してしまうので、何かあった時に連絡がとれない。 | 1階入り口には映画館が何階にあるのか書いていないので、紛らわしい。入り口に予告編の宣伝が大きく掲げられており、紛らわしい。(おおきすぎる)ピカデリーの方は1、2の数字が柱の影に隠れていて、分かりにくい。またピカデリーのスクリーンの比率は異様に横が長く字幕が目一杯に表示されるので、それを追ううちに映像が見られなくなってしまふ。また、ここでは2階席が全席指定席なので利用しにくい。 |
| D 46歳男性 会社員 中途2歳 混合性100-130 アンケート番号:98 | | | | | | |
| I 61歳男性 元国会図書館職員 中途 8歳 感音性100-130 アンケート番号:217 | 迷わない、この辺はよく来る。 | ・マリオンは、階ごとに何があるかわからなかった。サインがわかりにくい。 | ・呼吸が苦しくなるので階段よりもエスカレーターやエレベーターが有難い。 ・一般的に駅にはエスカレーターが少ない。エスカレーターやエレベーターがあってもホームや駅が広いので場所がわかりにくい。サインを大きく見やすくしてほしい。 | 特になし。 | ・エレベーターの場所がわかりにくい。待ち合わせをした6Fにはエレベーターまでのサインがない。 ・人には尋ねにくい、自分で探したほうがよい。 ・デパートの人に映画館への行き方を聞くとしたら、落ち着いた対応と口調でゆっくり説明してほしい。 | マリオンの1Fまで降りてからは、会場までスムーズに行けたようです。 |

| | 映画の感想 | | | 映画の情報保障の感想 | | |
|--|--|---|---|---|--|---|
| | 会場の環境 | | 映画の内容 はどうだった | 情報保障は 的確でしたか | 不都合なこと | |
| | 案内 | 席を決めた要因 | | | | 他 |
| E 22歳女性 会社員・技術職 先天 感音性130 補聴器 60-100 アンケート番号:227 | 問題無し。 (券を切る人の対応がもっと表情豊か、あるいは手話が出来ると良いと感じた。河内さんが声を発して3人分と告げてくれた。) | 今回は決まっていた。希望としては、首が曲がらず、真正面に見える席が良い。 | | 面白かった。生まれが広島の為(短大から神奈川へ上京している。現在は神奈川にて就職。一人暮らし中。)、内容がとても良く理解出来た。(祖母が17歳の時に広島にて被爆。祖父は満州に居たので話を聞いているし学校でも良く学んでいるので、映画の当時の事を理解出来る。) パウラの歌の説明が欲しい。(何語で歌っているか等)。 | 上映前の案内が音声だった。スクリーンに注意事項を映し出して欲しい。 | 字幕が、白っぽい背景の時は見づらい。白背景の時だけ、ねずみ色の文字にして欲しい。 (黒背景に白字が良く見やすい。) |
| F 29歳女性 人事事務 先天 感音性100 補聴器なし アンケート番号:221 | 案内は見やすかったのですがすぐに場所がわかった。たまたま歩いていた目の前に看板があったから。 | 席は端が見やすい。真ん中だと前の人が邪魔で字幕が読み取れないときがあるから。 | メモを持ってきたが暗い所では役に立たない。携帯が役に立った。周りの人も暗くて見えない時がある。 | すごく面白いし、泣けた。字幕が読み取りやすいフォントだった。でもよそ見をした時に見失ったりして、もったいない場面もあった。 | 邦画にも字幕があるのは当たり前前の状況であってほしい。CM(映画本編前)が流れていたけど、ここの字幕つきのほうが楽しめるし、字幕があって当たり前のいうものがない。 | ・チケット購入時の作品名を受付の人にわかってもらうのが大変。うまく伝わるような表示がほしい。 ・背が低いので字幕の見やすい席に限られる ・障害者用の席を確保してもらえると嬉しいかも。 |
| A 28歳男性 大学院生 先天 感音性100 - 130 補聴器 60 - 100 アンケート番号:101 | 会場より、パーラーからどうやって行くのか分からず、結局、ショップの人に聞いて9F上がる。 | 席は、真ん中前方を指定。今回の会場は、行ったことがないので、座席マップを見ても勾配がわからず。 |  | 字幕は分かりやすく良いのだが、女性名(パウラ)が本人が名乗る前に、すでに字幕でパウラと表示してしまうのは、ムードがない。(この件について、塩野谷さんは、「それは、当初の歌い手が一致するのが分かるようにだよ」と説明してくださったが、やはり僕としては、名前が先にでるのはどうか？女性は何者であるかというミステリアスさが字幕でなくなってしまうのではないかなと思う。 | 座席No. ここは背もたれの上ではなく、肘かけの所に貼られている。なので、人が座ってしまうとNoがよく見えず、床にNoがプリントされているのはよかった。 | |
| G 33歳男性 会社員UD関係 中途0歳 感音性100 - 130 アンケート番号:210 | | いつも画面から離れた座席に座っている。今回は座席を選ぶ段階でここしかなかったの... (座った席は画面に向かって左側ブロックの前から通路側N-11) | それなりに部屋の広さも、混んでなかったのが良かった。 | パウラの歌が、リズムや雰囲気などどんな歌なのか全然わからない。不明な点はなかったが、全体的に物足りない。ストーリー的には普通。印象に残ったのは、若者の男女2人が生きるといわれたところ。 | はい | ない |
| H 36歳女性 データ入力 先天 感音性60 - 100 アンケート番号:102 | 始めチケットを買う時に見た地図を覚えていたので、入ってからスムーズに席につく事ができた。 | 席全体はそれぞれずれて配置されていた方前の人の頭を気にしなくて良い。 | | ストーリーは不満。字幕はきちんと付けられていたと思う。日本語字幕の方の字形が読みやすかったが、英語字幕の方は字形が細長い形をしていて見にくかった。 | 特に問題はなかった。だいたい、会場の認識する際には、看板や、道の矢印を参考にする。この劇場は床に番号もふってあり分かりやすい方だと思う。 | |
| D 46歳男性 会社員 中途2歳 混合性100 - 130 アンケート番号:98 | 特に問題なし | 指定席なので、安心して座れる | | 期待はずれ 日本語字幕があったので、よく理解できた。パウラの歌って、クラシック風かなあ。 | 完璧でした | 特になかった |
| I 61歳男性 元国会図書館職員 中途 8歳 感音性100 - 130 アンケート番号:217 | | ・席を決めた理由 字幕スーパーがどの位置に出るかわからないのでどこに出てもよいように真ん中に近い席を選んだ。 ・会場内で席を探るとき場内が暗すぎた。フットライトのようなものがあったほうが良い。大きな声で人に尋ねにくいので人よりも明るさが必要。(人それぞれだと思うが) ・ホールにある椅子の数が少ない | ・面白かった。 ・理解できた ・字幕スーパーが思ったよりよかった。色は白より黄色がわかりやすい。 ・テレビの場合の字幕はクロードキャプション、オープンキャプションがある。 ・ドラマなどは役ごとの台詞の字の色を変える ・字幕は著作権が関係して邦画にはつかない | 字幕スーパーに関してよかった。どこの会社がやったのか？褒めていいと思う。 | ・パウラが歌うローレライの歌がどんな歌かは字幕ではわからない。字幕に歌の最初のフレーズだけ入れてもいいかもしれない。(ドイツ語だったのか？日本語だったのか？) ・字幕の位置はいろいろあって下になったが下でよかった(前の人の頭が邪魔になるか心配だった) | |

| | その他の質問事項 | | |
|--|---|---|--|
| | これまで出かけた公共機関 (良かったところ・悪かったところなど) | イベント等に出かけた時の経験 | 映画鑑賞をもっとよくなるための意見・要望 |
| E 22歳女性 会社員・技術職 先天 感音性130 補聴器 60-100 アンケート番号:227 | 緑の窓口等、金額表示の無い所は大変困る。 | 通訳者は、表情・表現などコミュニケーションを積極的にとりたがっている人が良い。表情等が硬い人は見ていると疲れる。電車の遅れで、発車するかどうかの詳細情報が分からなかったが、手話ができる友人に助けもらった。(友人が教えてくれた)一人だったら、あまり人に聞かない。イベントではないが、初めての美容室に行くときには、実家にメールにて美容室の電話番号を教えて、実家から予約等の連絡をしてもらっている。このような経験から、FAX等の設置は必須にして欲しいと思っている。 | 券券受付のところに、上映するプログラムを置いて欲しい。プログラムを指して、目的のチケットを買う為に。上映前の注意事項はスクリーンに記載して欲しい。席は真正面にスクリーンが見える位置が良い。座席位置も情報保障の中に確立して欲しい。座席はスクリーンが見やすいように、傾斜が有る方が良い。字幕は下が良い。 |
| F 29歳女性 人事事務 先天 感音性100 補聴器なし アンケート番号:221 | ジブリの森美術館-手話通訳の人もいて、全ての展示物の説明が文字でされている。 ×横浜の子供科学館-声での説明だけで全くわからなかった。子供達と一緒に行き質問されたが答えられなかった。 ×広島原爆記念館-ボタンを押して音声で説明してくれるものばかりだった。詳しい説明を知りたいのに・・・ | 手話通訳のうまい下手で決まる。好きに通訳者を選べればいい。いやだったのは野口健さんの講演会。通訳が下手で読み取れなかった。友達も同じでみんな2時間寝ていた。大学の時クルートから奨学金をもらっていて、その学生を集めたイベントがあった。楽しんでいたのに通訳が下手で通じず自分だけ交流ができなく次の回は参加しなかった。 | 席が決められたけど、字幕を見る角度によって見難い見易い部分もあるので、障害者用指定席があったほうがいいかなと思った。始まる時に何らかの合図がほしい。(電子板とか・・・) |
| A 28歳男性 大学院生 先天 感音性100 - 130 補聴器 60 - 100 アンケート番号:101 | | | 当初、誰もパウラの名前を誰も知らない。この映画に場合、固有名詞は重要だと思うので、最初から出すのはどうか??? (パウラ) (女性が歌っている) パウラの名前が判明したら (パウラの歌)に切り替える? ことができれば・・・ 建物のサインに8F以上の表示なし ステッカーをつける? 勾配を知りたかった訳は、字幕と全席の人物の頭部が重なるくらいの勾配なのかどうかを知りたかった。なので、チケット売り場でどの席にしますかと言われて少々迷った。 |
| G 33歳男性 会社員UD関係 中途0歳 感音性100 - 130 アンケート番号:210 | | | 歌声のところをどんな歌なのかわかりやすく説明的な字幕をつけて欲しい。パウラの歌っている歌詞が何語かわからなかった。 |
| H 36歳女性 データ入力 先天 感音性60 - 100 アンケート番号:102 | 地下鉄は出口がどこにあるかわからなく迷う事もある。上記サインがある際にはそれに沿って進み、出口へでる。(JR線は人も多く分りにくい)この辺り東京フォーラムは、観光客も多いせいか、案内図があり、どのくらいの距離かも書いてあり分かりやすいが、その他の場所はまだまだ分りにくい場所が多いので、前もって場所を確認してからくるようにしている。(工事も多く、また駅員さんも忙しそうにしているの、あまり道を聞いたりできない)インターネットで調べても入り口がどっちか書いてなかったりして、距離や方角が降りてから分からず駅周辺を一周する事もあった。 | | 高齢者に対する配慮がもっとあるとよい。無意味に階段や上り降りもなくしてほしい。後ろが平らだと思えば歩いていたら、予想しないところに地階がありびっくりする。待合室の上からの照明を増やしてほしい。今回上映の最中に入場して来た人は係の人に明かりをつけてもらい入って来たが、席までは誘導されず列途中で案内が止まってしまう事もあるので、それは気をつけてほしい。 |
| D 46歳男性 会社員 中途2歳 混合性100 - 130 アンケート番号:98 | | | |
| I 61歳男性 元国会図書館職員 中途 8歳 感音性100 - 130 アンケート番号:217 | ・大阪はサインが親切で目的地まで途切れないであるが、東京はサインが途中で途切れてしまう。 ・新幹線の中からホームの名がわかりにくい。普通の鉄道は柱ごとに駅の名前をつけてる場合もある。 ・点字ブロックは黄色が基本。デザインのために色を変えている場合があるが、建築家の人には色を守ってもらいたい。 | | |

| | その他の質問事項 映画運営側への意見 | その他の質問事項 その他 |
|--|--|--|
| E 22歳女性 会社員・技術職 先天 感音性130 補聴器 60-100 アンケート番号:227 | ・劇中のうたについて・・・何語で歌っているのか知りたかった。 ・音の説明について・・・擬音語(ガシャン、ハハハなど)で描かれると、ムードが壊されることがある為、説明書きが良い。 ・通訳者及び字幕電光掲示板の位置について・・・通訳者:ものを書いているときは、邪魔になるので(右利き)左に居て欲しい。字幕電光掲示板:向かって左側に有って欲しい。文字は左から右へ流れて欲しい。文字と画が流れに沿って見る事が出来るから。 | |
| F 29歳女性 人事事務 先天 感音性100 補聴器なし アンケート番号:221 | | |
| A 28歳男性 大学院生 先天 感音性100 - 130 補聴器 60 - 100 アンケート番号:101 | | |
| G 33歳男性 会社員UD関係 中途0歳 感音性100 - 130 アンケート番号:210 | 火事などの緊急事体が起こったときにどう対応してくれるのか聞きたい。希望としては、映画を止めて何があったのか字幕で出して欲しい。チケットを購入するとき、見たい映画の写真を示しながら購入するが、それが上にあると不便。窓口に上映映画の描かれたシートがあると指を刺せばいいのですく伝わる。上映中の注意がスクリーンに出てこなかった。背景が白で字幕も白だと見にくい。そのときだけ色を変えて欲しい。字幕の字は黒ぶちをつけて欲しい。古い映画館なので座席の傾斜がゆるく、人の頭で字幕が見えない。新しいワーナーマイカル系や川崎や六本木にある主な映画館では、字幕も十分見える角度になっている。座席の位置も情報保障に関係がある。座席指定ではなく始めから自分で選びたい。字幕が出ることによって映画のムードが壊されることがあるので、全て訳すのではなく状況に応じて音は説明的な訳にして欲しい。字幕と映画の流れがあっていないことがある。そういうときは流れに合わせて要約して欲しい。 | 身長によっては下に出る字幕が見えないことがある。アメリカでは、それぞれの席で字幕の位置をコントロールできるようになっている映画館もある。 |
| H 36歳女性 データ入力 先天 感音性60 - 100 アンケート番号:102 | 窓口で見たい映画を指差している途中に画面が変わってしまい不便なので、窓口シート上の映画表などを用意してくれると便利である。(六本木、豊島園、品川などでは窓口にも見られるように情報が書かれていてとても便利だった) 窓口で戸惑ってしまうと、せっかく取りたかった席が違う人に取られてしまい悔しい思いをする | |
| D 46歳男性 会社員 中途2歳 混合性100 - 130 アンケート番号:98 | | |
| I 61歳男性 元国会図書館職員 中途 8歳 感音性100 - 130 アンケート番号:217 | 携帯メールの使用:既にチケットの予約は携帯でできるのですが、携帯メールではどうなのでしょう。もしまだであれば、これが出ると聴覚障害者には大きな福音になります。交通機関やホテル等の予約にも広がれば最高です。チケットの予約の他、時間の問い合わせ、場所の問い合わせにも使えるようにしてくれるといいですね。この場合、健常者の利用が殺到するとかの危惧が必ず出てきますが、聴覚障害者用に一定の番号(アドレス)を確保し、聴覚障害・言語障害で身体障害者手帳を持っているものに限り、その番号(アドレス)を利用できるというソフトを提供するという方法など、現段階の技術で可能でしょう。早い話が、劇場の前からでも携帯メールできればスムーズなわけです。近頃の人ならメールもそう面倒がらないでしょう。映画館の中で通じるかは別問題ですが。なお、災害時は携帯の音声は制限されることがありますが、メールはそうでないそうです。してみると、この一部の者に利用できる携帯メールの適用範囲は、障害者や高齢者に広げるべきかもしれません。 | チケットを買うとき「ローレイ1枚」と書いて窓口で見せればよい。 東京近郊の駅のバリアフリー状況を検索するのは次のサイトで可能です。http://www.ecomo-rakuraku.jp/rakuraku/index/ 「らくらくおでかけネット」ただし視覚・聴覚の障害には対応していません。これは始点と終点を入れれば、どういう線を利用できるかの検索も出来ます。都市に限られるでしょうが、公共建築(私営でも不特定多数の者を対象とするものも含む)の道順を検索できるサイトがあるといいですね。これなどまさにUDでしょう。今度の調査に参加している企業が、協力すれば出来るのではないのでしょうか。ただしカーナビがあるので、私など知らない手段が既にあるのかもしれませんが、それが携帯でアクセス可能になっている可能性もあります。有料かもしれませんが(「らくらく」は無料)。 |

調査結果の詳細

(C) 講演会の実施

1 概要

開催日：2005年4月6日（水）18：30～

場 所：株式会社アルモ設計 セミナールーム

講 師：塩野谷富彦（鹿島建設株式会社）

演 題：『聴覚障害者とは何か』 - 海外から見た日本観 -

先天性のろう者である、塩野谷富彦さんの講演を、教室型セミナー形式で開催した。講師がろう者、参加者に聴覚障害者と視覚障害者を含む40人という形態においての、出来るだけ負担のない情報保障を考える実験をした。

情報保障は、手話通訳者2名、パワーポイント を準備。セッティングは、講演者と相談上決定した。



調査結果の詳細



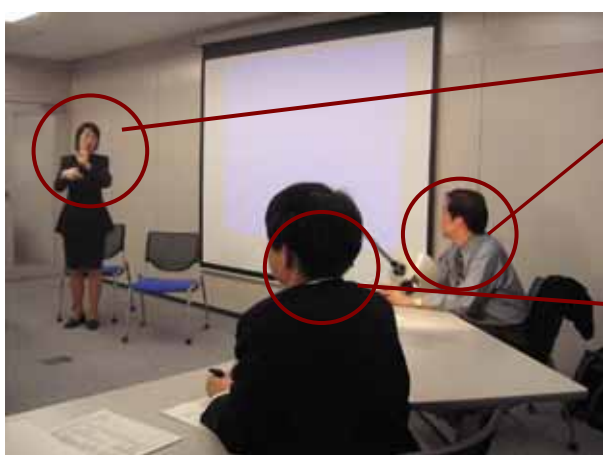
- ・ パワーポイントを写すために部屋を暗くする必要がある。
- ・ 演者の手話が見えるために明るくする必要がある。

そのためにスポットライトをあてたが顔がお化けのようになってしまった。

適切なスポットライトの方向と照度を考える必要がある。

講演者の手話を参加者に通訳する

音声だけだったが、背中向きで通訳を聞くのはこのくらいの規模の場合聞き取りにくい。



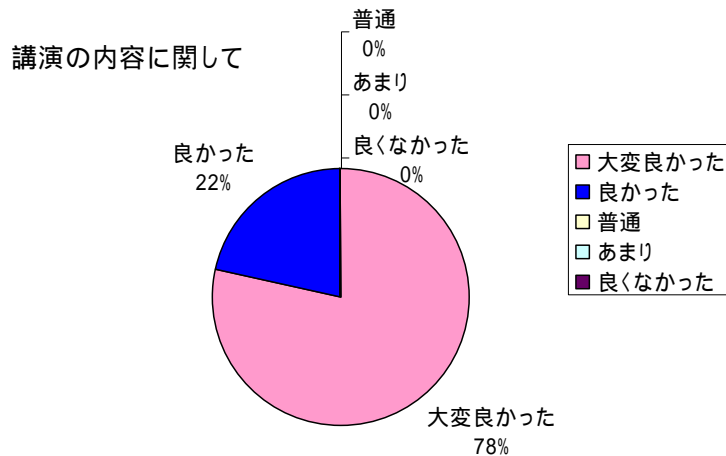
講演者の手話を参加者に通訳する。

講演者の手話を参加者に通訳する。

正面でなかったため手話が見えづらい。

調査結果の詳細

2 アンケート集計



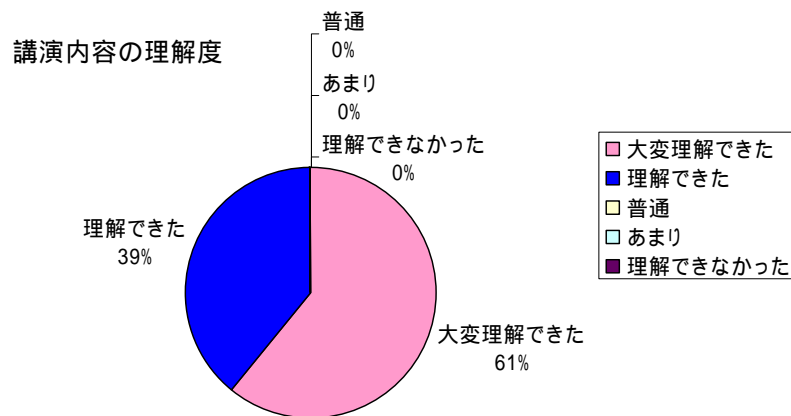
講演の内容に関して自由記載

・塩野谷さんが海外旅行をされた時の、現地の人たちとの塩野谷さんへ知らせ、教えてあげたいという熱心さ、優しい心遣いに心を打たれました。それに比べて日本は...という想いです。行政の仕組みが日本は人に優しくないなと思いました。

・手話を身近に感ずることが出来た。

・何度参加しても毎回「へえ～」と思ういくつものポイントがあり、興味深いです。

・海外と日本の違いについての話が非常に具体的でウケたが、こころのバリアフリーについてもう少し煮詰めて議論が必要だったかな、と。



講演の理解度に関して自由記載

・理解できなかったというより、色々始めて聞く内容ばかりで、まだ自分の中で消化しきれていない部分があると思います。本日のお話をもとに少し時間をかけて考えをまとめてみたいと思います。とにかく、インスパイアされたという印象でした。

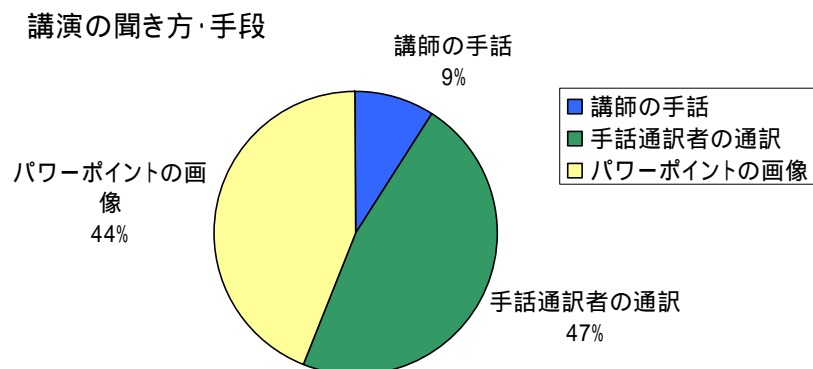
・パワーポイントの内容やお話されたことをノートに必死で書き写しました。聞くことと話された内容のメモに集中したいので、あとでパワーポイントを受け取れたら(または印刷を配布)嬉しいと思いました。(準備は大変になってしまいますので無理にお願いは出来ません。お疲れ様です。)

・聴覚障害者の障害については理解できましたが、空間・都市環境(サイン、インフラ等)に最も必要な課題は見出せませんでした。

・一人の方のお話を3人に伝えるという”肉体的な”負担をシンプルに大変だと思いました。

・「アッシャー」という状況についてはじめて聞きました。障害は本当に千差万別で、全てに対して「ユニバーサル」の難しさ感じます。

調査結果の詳細



講演の聞き方・手段に関して自由記載

a.主に講師の手話

- ・私も聾者なので、よく理解できます。生で伝えるととても気楽でした。
- ・感情的な側面を補完する意味合いで利用しました。
- ・塩野谷さんの手話は全く文句無し。横を向いて手話をするともなく、講演になれているニュアンス。

b.主に手話通訳者の通訳

- ・手話と通訳がほとんど同時でしたので、外国語の同時通訳よりも早く理解が出来た。
- ・素晴らしい手話通訳でとても分かりやすかったです。
- ・通訳者の通訳を聞いた時に自分も通訳(手話)が出来ようになりたいと思います。
- ・通訳の方、とても少ないとのこと。都合の合う方をお願いするのは大変ですね。費用などはどうなっているのでしょうか？

c.主にパワーポイントの画像

- ・通訳と共に目で画像を見ることが出来、理解が深まった。
- ・絵、要点、写真などを加えると、さらに分かりやすい。身体障害者に対する見方についても一目で分かります。
- ・写真なども入り見やすかった。
- ・書き込みながらメモできると良いです。
- ・暗バックに明るい文字...はロービジョンへのユニバーサル化の配慮でしょうか？
- ・黒バック、黄文字ゴシックは見やすかった。原さんがいたから？いなくても彼(塩野谷さん)はやったと思うが...
- ・スピーカーのパワーポイントがたいへん分かり易く作られており、スピーカーの見振り画像でかなりの情報が伝わった。

調査結果の詳細

～あなたが聴覚障害者の方とコミュニケーションを取る場合、どのような手段をとっていますか？また、今後どのような手段が良いと思いますか？～

・ゆっくりしゃべる, 文字

・自社には障害者がいないため、手段はありません。でも、少しの気遣いで(たとえば体調不良の人に対するような)コミュニケーションは可能なのではと、今回改めて感じました。

・筆談。今後は手話も覚えたい。

・主にe-mail。非常にうまくいっていると思う。便利。

・筆談(メモによる会話)

・メール。

[今後]雑談の場でなかなかコミュニケーションが取りにくいので、音声 テキスト装置ができるとよいなあとします。キーボード入力困難者を考えるともっともっと熱心に開発されていくと良いと思います。

・今まではあまり一緒に仕事をしたことはありません。

・お互いとも分かりやすいコミュニケーションの方法を考えようと思います。

・ITの活用。目と目のコミュニケーション

・筆談がすべてでしたが、万全の方法ではないことを知りました。子供の頃に友人のお母さんがろう者で遊びに行った時に初めて暮らす環境がどんなものか(玄関のブザーがランプであるとか)を知りました。

ITかハード環境かと問われれば双方の場で技術が向上すれば良いと思いますが、文化という視点で見れば子供のいる環境をまずバリアフリーにしていきたい。そこからゆっくりと改善できれば...

・同席の経験が無いので、そのような機会がありましたら積極的に参加したいです。

・現在、そのような状況にありません。今後、インターネット、PCによる筆談等、IT活用への期待がかなり高いと思う。

・実際あまりそのような機会が少ないので、というかほとんどないので具体的な手段は特に思い浮かばなくて申し訳ありません。

・今まで経験がありません。たぶん筆談に頼るだろうと思います。

・音声入力、キーボード入力が文字映像に変わる装置が安価に開発されると良いと思います。

・優しい環境、思いやりの設計が、結局は全ての人間に良いと思われました。

・筆談をすることになると思う。

・昔、今は亡きおじいちゃんが老人性の難聴+ボケでした。でも一生懸命話しかけ、笑いかけっていると、だんだん聞こえ、話せるようになりました。どんな方法でも「コミュニケーションしよう」という気持ちが大事だと思います。

・対面では筆談

・メールで連絡・打合せ

調査結果の詳細

(D) 調査のまとめ

アンケート調査から

(1) 今回アンケートの被験者プロフィールは

20～40歳代・・・全体の70%

先天性・感音性・ろう者・・・50%

職業に就いている人・・・60%

手話が第一言語の人・・・32% (手話のわかる人 半数以上)

(2) 日常的なコミュニケーション手段は手話だけでなく、残存聴力を活かした補聴器利用、読話(口話)、筆談など複合的に使っており、聴覚障害者ということでひとくくりにすることは難しい。

(3) 日常生活でのコミュニケーションは、家族・仕事関係(学校)・その他の個人的関係に分類出来る。家族は、理解度においてコミュニケーション手段に関係ないが、仕事関係、その他の個人的関係は、手話によるコミュニケーションできる相手が非常に理解度が高い結果が出ている。

(4) イベントへの参加は、少人数ミーティング・教室セミナー・講演会・娯楽性の高いイベントの中で、教室型セミナーへの参加傾向が低い。

(5) 少人数ミーティングについては、2～8人くらいまでは、手話と筆談でスムーズなコミュニケーションがとれる。IP-TALKを利用するケースもある。

(6) 教室型セミナーについては、講師とのやり取りが頻繁に生じるため、手話通訳の即時性が非常に有効である。しかし、少人数への対応ということで、費用のかかる情報保障がされていない場合が多いため、必然的に参加率も低くなっている。

(7) 講演会については、現状では規模が大きいものは手話通訳がつく場合が増えてきている。そういった講演会の情報を得た上で参加している傾向がある。要約筆記による情報保障での参加率も他のイベントに比べて一番高い。

(8) 娯楽性の高いホールイベントについては、日本語字幕のついた洋画を観劇するケースが多い。障害者への情報保障として字幕をつけているイベントもあるが、好きな

調査結果の詳細

人は、情報保障のある・なしに関わらず参加している。

- (9) 手話通訳や要約筆記の情報保障については、主催者が保障するのが当然だという意見が高い。
- (10) 手話通訳の位置は、講演者と同じ視線の中に入っているのが望ましい。こうしたレイアウトが保障されていると、当事者が自分の好みで席を選択することが出来る。
- (11) 字幕の位置は、舞台や画面全体が見渡せる画面の下か上にあるのが望ましい。
情報の出し方については、
 - ・音の発信地(者)
 - ・情報の表現方法 に工夫が必要である。

ストーリー調査から

- (1) 情報収集については、あらかじめ情報保障のついているイベントの中から選ぶケースと、イベント全体の中から参加したいものを探し、その後、情報保障がない場合にはどうするかを考えるケースがある。限定された情報の中から選ぶというストレス、情報保障の確保をどうするかというストレスが生じるが、知り合いとのやりとり(メール等)・インターネットでの情報検索の段階では、不便さやストレスをそれ程は感じていない。
- (2) 当日、現地に到着するまでの交通機関については、日常的には問題ない。車内でもホームでも文字保障がなされているが、緊急時の車内放送は文字情報になっていない。不安のストレスを時々感じるようである。
- (3) 駅から会場までは、前もって準備した地図等で問題なく到着できるが、建物の中に入ってから非常に迷う。建物内の地図が解らない、人に聞けない(聞かない)、相手に会えない、の不安がある。
- (4) 会場でのチケット購入や受付など、窓口での担当者とのやりとりは、一番の正確さ要求されるの最大の不安となる。イベント自体に情報保障をつけてある場合であるなら、通訳者が必ずいるというのではなくても、特に会場入り口においては、それに対応できるというスタッフのモチベーションが必要かもしれない。

調査結果の詳細

- (5) 講演会での情報保障については、その目的によって情報を受け取っている。
- ・ 講師の話 講師のスピードに一番近い手話通訳者の話を見る。
 - ・ 講義の正確な内容 要約筆記によって、確認する。
 - ・ 講師や話のリアル感 講師自身の表情や姿を見る。
 - ・ 講師の伝えたいこと スライドや映像、PPなどの画像で膨らませる。

以上のことから、講演会の目的によって、情報保障の優先順位が異なる。

手話通訳者は手元がはっきり見えるように、照明や背景の工夫が必要である。

要約筆記は、分かりやすい文字の大きさ・色・位置・スピードが必要である。

また、同じ視界の中で以上の情報が一度に見られる工夫がほしい。

- (6) 邦画字幕の情報保障については、音声の情報と字幕の情報で違いが出てくる。
- ・ 人の話のなかでわかる事 あらかじめ字幕で分かるのは過度な情報保障。
 - ・ 擬態音、擬声音の表現 音そのままの文字（あまりにもリアルすぎる）ではなく、説明的なものでも良い。
 - ・ 誰が話しているか 位置、文字の色やフォントで区別されていると良い。
 - ・ 歌やBGM 流れている曲の雰囲気や曲名情報がほしい。

白抜き字幕は、画面の中であまり邪魔はしないが、画面の色によっては、非常に見にくい。文字が単調に出てくるだけでなく、抑揚をイメージ出来ると良い。

- (7) それぞれのイベントや、駅構内での情報保障はある程度進んでいるが、人の継続した一連の行動の中で、情報保障がとぎれてしまうつなぎ目が存在する。当事者は、そこにつまずいてしまう為にストレスが生じたり、積極的に活動できない現状がある。この問題をやさしくつないでいく環境整備や社会のあり方が問われている。

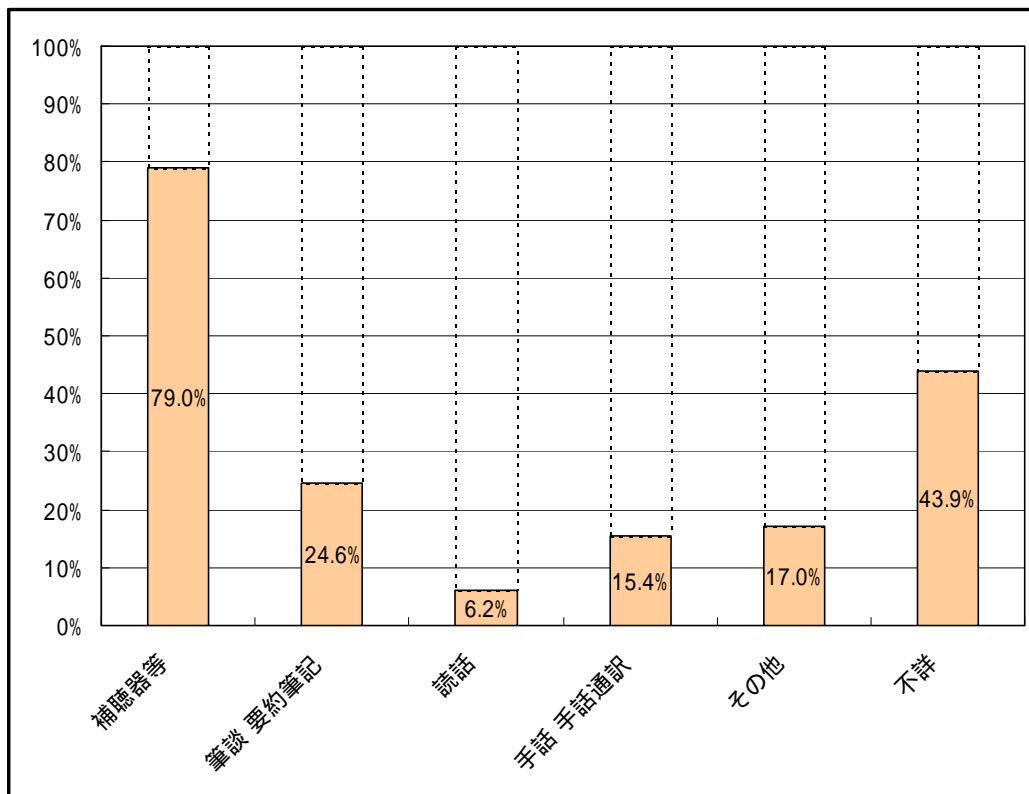
これからの方向性

これからの方向性

1 コミュニケーション手段の現状

| 総数 | 補聴器等 | 筆談 要約筆記 | 読話 | 手話 手話通訳 | その他 | 不詳 |
|----------------|---------------|--------------|-------------|--------------|--------------|---------------|
| 305 (100.0) | 241 (79.0) | 75 (24.6) | 19 (6.2) | 47 (15.4) | 52 (17.0) | 134 (43.9) |

* 平成13年度身体障害児・者実態調査 (複数回答)



障害者が使うコミュニケーション手段は多種に及び限定することが難しい。

聴覚障害者は手話と思いがちであるが、手話を利用する障害者は15.4%に過ぎず、残存聴力を使った上での補聴器利用や読話（口話）や筆談等の利用者もいる。

これからの方向性

コミュニケーション手段の特徴とメリット・デメリット

| 分類 | 手段 | 特徴 | メリット | デメリット |
|------|---------------------|--|---|--|
| 音声言語 | 口話 聴覚活用 読話・発話 | <ul style="list-style-type: none"> ・聴覚を活用することで、音声言語によるコミュニケーションが可能。 ・環境音などの聞き取りにより情緒的な安定や生活の中での危険防止などに役立つ。 ・複数同時音に対して反応できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・誰とでも会話できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・すべてを読みとり聞き分け、理解することは困難である。 ・発音の不明瞭さで、正確に伝えられない。 ・口形、話すスピード、話す場面に左右される。 ・距離が離れていたり、暗かったり、背中向きだと、不可能になる。 ・続けられる緊張限度が数分程度。 |
| 視覚言語 | ジェスチャー 指文字 手話 | <ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障害者にとって必要な言語である。 ・親子のつながりや、豊かな感情表現精神的な面での安定などが得られる。 ・手話通訳(国家試験)(*1)派遣制度がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・精神的緊張なく、リラックスした気持ちで会話ができる。 ・相手の話を即時的に理解できる。 ・感情のやりとりが非常にうまくできる。 ・集団の話し合い、講演会等にも通訳者がいれば、話すため、聴くために参加できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・手話を知っている人としか通じない。 ・音声言語に比べて語彙数が少ない。 ・表現の個人差、地域差がある。 ・距離が離れていたり、暗かったり、背中向きだと、不可能になる。 |
| 文字言語 | 筆談 | <ul style="list-style-type: none"> ・確実に伝えることができる。 ・記録として残る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・特別な技術習得の必要がない。 ・確実に伝えることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・メモ帳や筆記用具などの準備が必要である。 ・文章を書く能力・理解する能力が必要。 ・通常の会話の速度についていけない。 |
| | 要約筆記 字幕 | <ul style="list-style-type: none"> ・確実に伝えることができる。 ・記録として残る。 ・要約筆記(*2)派遣制度がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・通信技術が進歩してきている。 ・遠隔地からの利用が可能である。 ・文字放送(*3)、字幕(*4)が増えてきている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・文章を理解する能力が必要。 ・通常の話の速度についていけない。 |

聴覚障害者のコミュニケーション手段を分類し、その特徴とメリット・デメリットを一般情報やアンケートの回答の中から拾い上げた。障害者自身が使うコミュニケーション手段の多様性とイベントによって適切なコミュニケーション手段があることをふまえて、場に合った情報保障をコーディネートすることが必要であると思われる。

*1) 手話通訳士

手話通訳者は最近までは市町村による手話奉仕員養成事業によって認定されてきた。そのため、各地域の手話通訳者の技能格差が問題となっていたが、平成元年、厚生省はその

これからの方向性

ような格差をなくし、手話通訳の専門的知識と技能を社会的に公認するために厚生大臣公認の公的資格として「手話通訳士」試験を制度化した。

手話通訳士は、平成17年 4月 4日現在 全国で1,328名

* 2) 要約筆記者

要約筆記は、手話を使わない聴覚障害者（多くは中途失聴者・難聴者）に対する情報保障の手段として始まり、広がった。現時点では公的な資格制度はないが、公的な派遣制度がある地域や、公的派遣制度では対応していなくても手話サークルが中心となって手話通訳に付随する形で、聞こえの保障実現のために、実質的に要約筆記の派遣に込んでいる地域もある。

100%そのまま通訳することは不可能なため、ポイントをはずさずに的確に要約する技術が必要である。

| | |
|--------------|-------------------|
| 人がしゃべるスピード | 300~350ワード/分 程度 |
| 手話伝達率 | 話の内容全体の1/3 程度 |
| 手書きで書くスピード | 70ワード/分(要約率:25%) |
| PC入力スピード | 200ワード/分(要約率:40%) |
| 読むスピード | 個人差 |
| 読んだ文章を理解する能力 | 個人差 |

* 3) 文字放送

米国における字幕放送

米国において字幕は、1973年に開始された。最初は外付けのデコーダを購入する方式であったが、1990年にテレビデコーダ回路法制定された後、字幕は急激に普及した。これは、米国内で販売される13インチ以上のテレビにはすべてデコーダチップを内蔵することを義務付けるものである。外からは障害者向けとは見えずリモコン上のCC(Closed Caption / 字幕放送)のボタンを押すことで字幕が表示されるこの方式は、極めてユニバーサルデザインに近いと思われる。コンテンツとしても、現在ゴールデンタイムはすべて字幕が付いているが、2006年までにはすべての番組への字幕付加が放送局に義務付けられている。

英国における字幕放送

公共放送であるBBCの約50%の番組に字幕付与されており、民間放送では、1990年の放送法により一定時間以上の字幕放送が義務付けられている。

これからの方向性

日本における字幕放送

郵政省は 17 日、聴覚障害者や難聴者向けの字幕放送を普及させるため、2007 年までにニュースやスポーツ中継などの生番組を除くすべてのテレビ番組に、字幕放送を付けることを目指すガイドラインを策定した。これにより、午前 7 時から午前 0 時までの全放送時間の約 4 割は字幕付きで利用できるようになる。生番組の字幕化技術は 1999 年度までの 5 カ年計画で約 10 億円を投資して開発中で、成功すれば字幕付き放送の割合はさらに高まる予定だ。しかし現状は、NHK が 30%、民放の東京キー局が 7% しか実施していない。

字幕放送の放送時間の推移

| 年 度 | 平成9年度 | 10年度 | 11年度 | 12年度 | 13年度 | 14年度 |
|-------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 放 送 時 間 数 | 30:53 | 34:32 | 45:24 | 60:43 | 90:09 | 142:3 |
| N H K | 21:57 | 21:03 | 27:03 | 33:12 | 38:24 | 45:3 |
| 民 放 | 8:56 | 13:29 | 18:21 | 27:31 | 51:45 | 97:00 |
| 実施事業者数 (民放) | 73 | 114 | 115 | 115 | 115 | 115 |

これからの方向性

* 4) 映画字幕

インターネットに公開された塩野谷氏レポート

RWC (Rear Window Captioning) 報告

28-05-1999

塩野谷富彦

耳の不自由な人のための映画視聴の新システムを実際に見てレポートをまとめてみた。

(28日の夕方、出発してハリウッドのホリディンエクスプレスホテル
2泊し、30日ロスアンゼルスを出、31日の夕方成田に到着)

5月28日、カリフォルニアのシャーマンオークスという市(ハリウッドより車で20分位のところ)にある、「ゼネラル・シネマ・シャーマン・オークス映画館」で、「スター・ウォーズ:エピソードI」を鑑賞した。



ゼネラル・シネマ・シャーマン・オークス映画館の前で

切符売り場に、「CC」(RWC)のマークが貼っていた。

ルーカス社、二十世紀フォックスとゼネラル・シネマ配給が、映画館で聴覚障害者のため、リール・ウィンドウ・キャプション(RWC)というシステムが導入された。

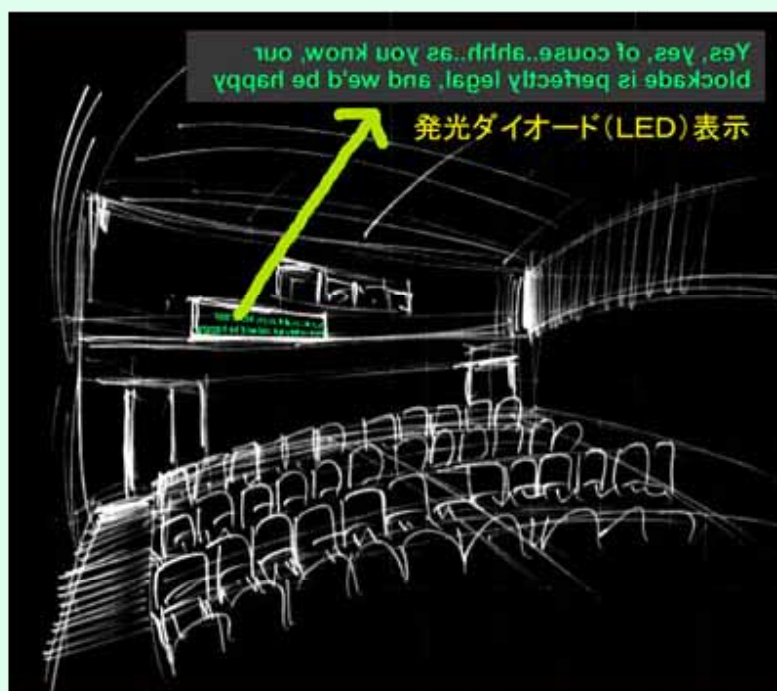
耳の不自由な人のための、次の3ヶ所の劇場において5月19日公開!

- ・カリフォルニア州のゼネラル・シネマ・シャーマン・オークス映画館
- ・アトランタのゼネラル・シネマ映画館
- ・ワシントン州のシアトル・シネマ映画館

RWC (Rear Window Captioning) について

劇場背面に写し出される字幕を、椅子のカップ・ホルダーに備え付けた半透明なアクリル製の機器に反射させ表示する。

※以下のイラストは、映画館内での撮影厳禁で、撮影できなかったためです。



劇場背面に写し出される字幕（ミラーになっている）

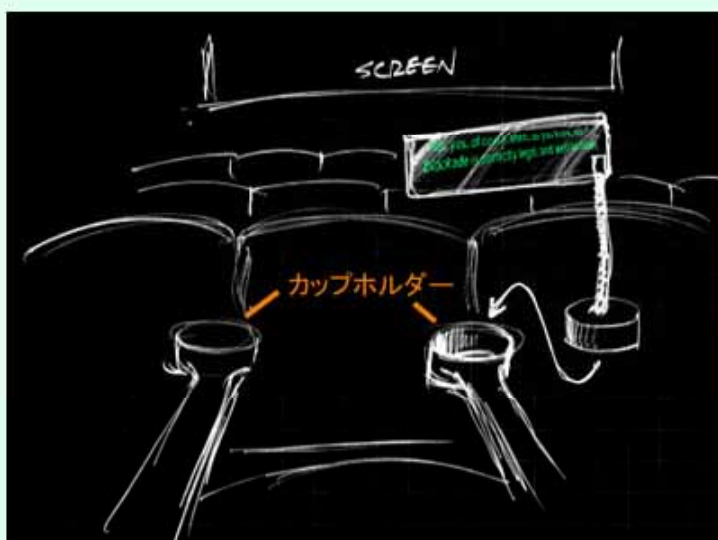


椅子にカップ・ホルダーがついていた。

これからの方向性

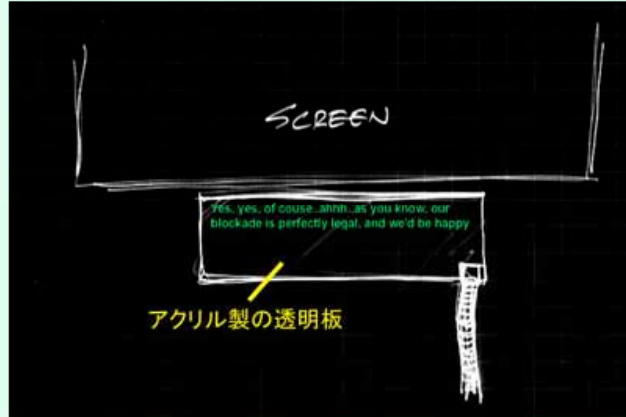


半透明アクリル製機器

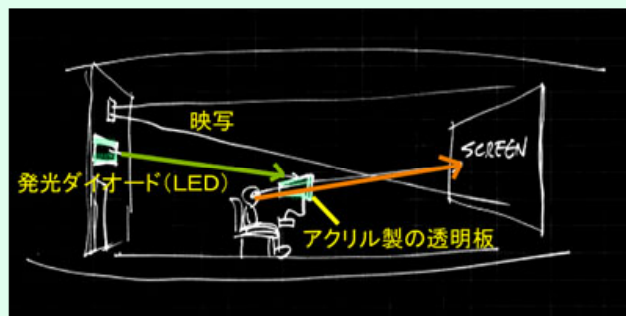


半透明アクリル機器を椅子のカップ・ホルダーに備え付けセットする。
スクリーンに合わせて字幕が見えるように、アクリル板を調整する。

これからの方向性



(A) セットされた位置



横から見たイメージ

感想：透明アクリルとスクリーンいっばい合わせて観ましたところ、半透明アクリル板がサングラスみたいなもので、薄暗くて映像が観にくかったが、英語字幕がはっきり見えてよかった。でも、映像が薄暗くてみづらく、目が疲れたので、アクリル板をスクリーンの下に下げて上図（A）のようにセットしてみたら、快適に鑑賞できた。

「スターウォーズエピソードI」を観て・・・

「スターウォーズエピソードI」は「ベンハー」と「メトロポリス」、「エンペラー」を混合したような映像ですごく素晴らしかったでした。他に、「2001年宇宙の旅」のデザインもいくつかそっくりなものがあって、デザインも文句なし。衣装デザインも美しい。

4回も繰り返し鑑賞しちゃいました。まず、上記のシェーマン・オーク・シネマ映画館で、英語字幕キャプション付き映画を2回鑑賞。そして翌日（29日）、有名なマンズチャイニーズシアター（英語字幕なし）で2回鑑賞。

3DCGの場面が多く見られたが、3DCGの場面が見分けができなくなるほど、本物に見えて今までにない、すごい映像でした。特にジャー・ジャー・ピンクス表現とか。。ジェダイの惑星の未来都市など・・・。

映像のミス発見！最後のシーンに、影の方向がばらばらになっていた。それは、3DCGの合成による作業のせいかな。

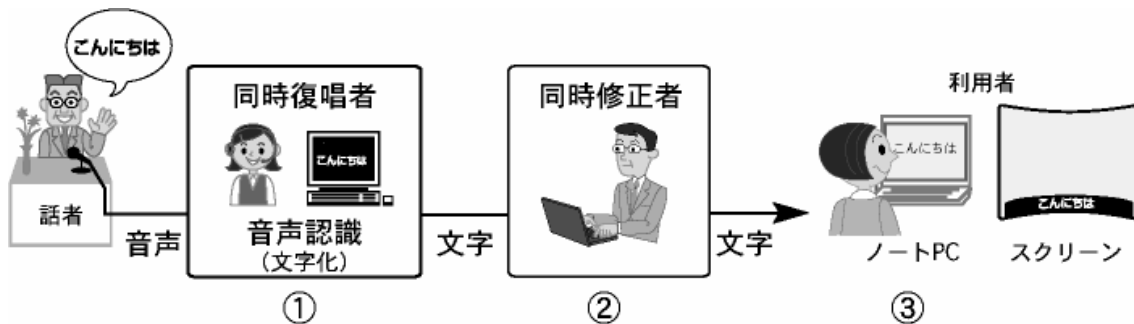
グッズや資料など、たくさん買ってきました (^_^) ; ;

これからの方向性

*4) 音声同時字幕

比較的新しい手段として、リアルタイム音声同時字幕システムがある。これは、あらかじめ用意される字幕ではなく、リアルタイムで話者の言葉をコンピュータを使って音声認識して文字化し、利用者の手元の画面やスクリーンなどに文字を表示するシステムである。

現在の音声認識技術では、あらかじめソフトウェアに声の特徴などを登録しておくことによって認識率を高める方法がとられており、このシステムでは、音声認識ソフトの特性を活かして、話者の声を直接認識させるのではなく、特定の訓練された人が復唱して認識させることで字幕精度を上げている。また、誤変換を修正する作業を入れ、精度の高い字幕を提供することができる。ネットワーク経由で運用されるため、講演会場がどこであっても字幕を提供することが可能となっている。



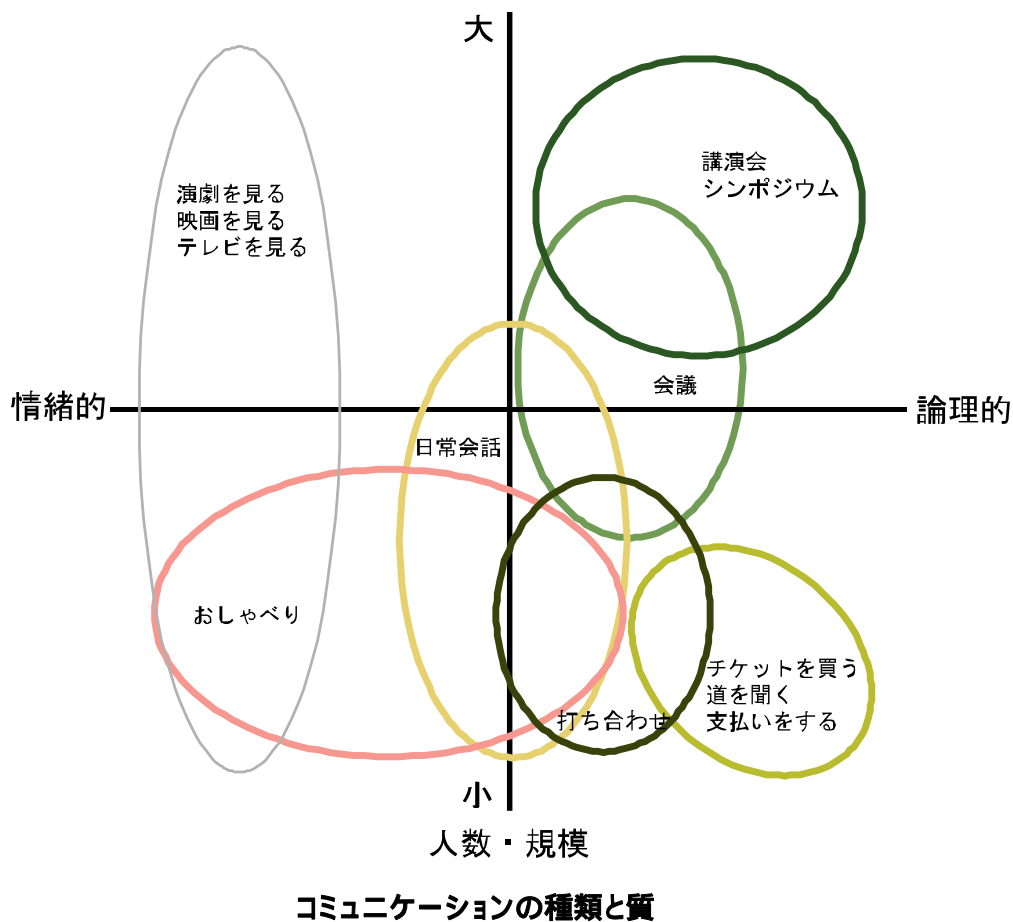
話してから表示されるまで平均 11 秒のリアルタイム性と 97% の高い字幕精度を確立しているが、導入コスト面、利用のしやすさについて課題が残っている。

IAUD が主催する講演会の一部でも実験的に導入されている。

これからの方向性

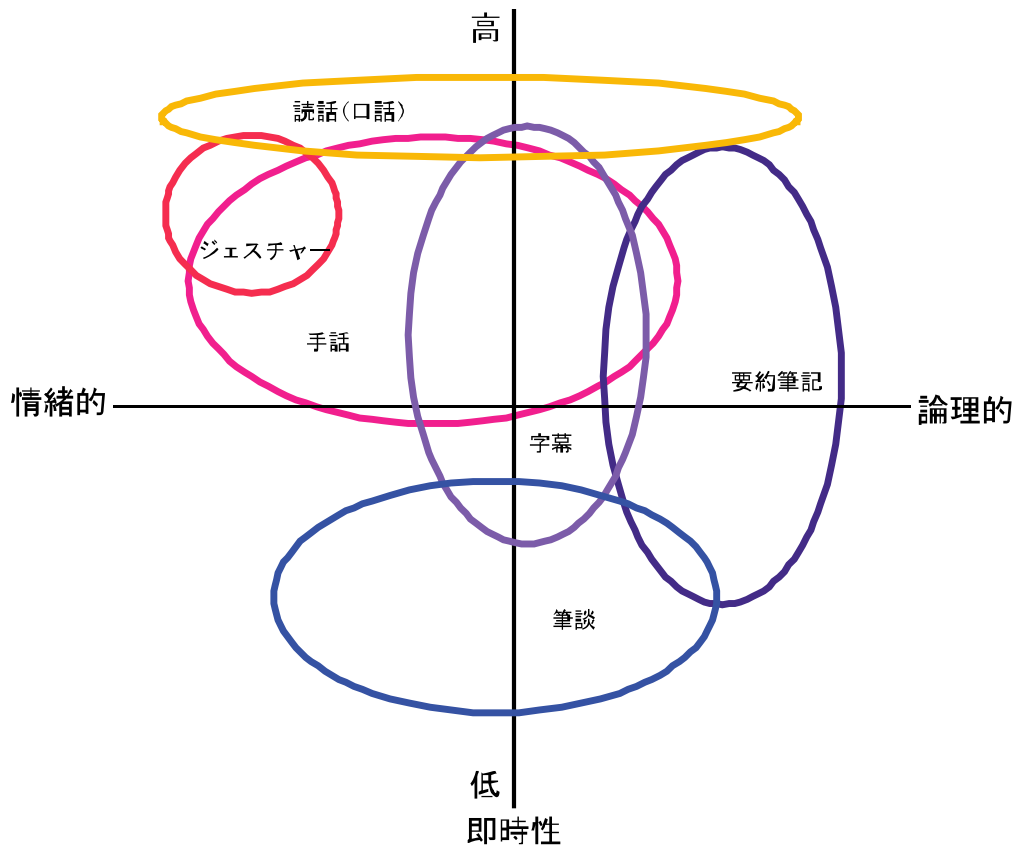
2 情報保障の方向性

コミュニケーションの種類(内容)と質を、人数や規模の大きさと情緒性・論理性を軸にして分布してみた。情緒性が高いほどコミュニケーションの規模が小さくなり、規模が大きいほど建設的で客観性が高くなる傾向がある。



また、コミュニケーション手段と質を、即時性と情緒性・論理性を軸に分布してみた。音声言語(残存聴力・読話)は即時性も高く、コミュニケーション度も高くなるが、聴覚障害者にとってデメリットも多い。視覚言語である、手話は、即時性が高く、情緒的なコミュニケーションには非常に良いが、専門的になり高度な論理性を求められるときにはその表現に限度がある。文字言語の場合、字幕など事前に準備できる手段から即時性を求められる会話や講演などでは異なり、また、手書きかパソコン入力か、人による要約かロボットによる文字変換か、で異なる。

これからの方向性

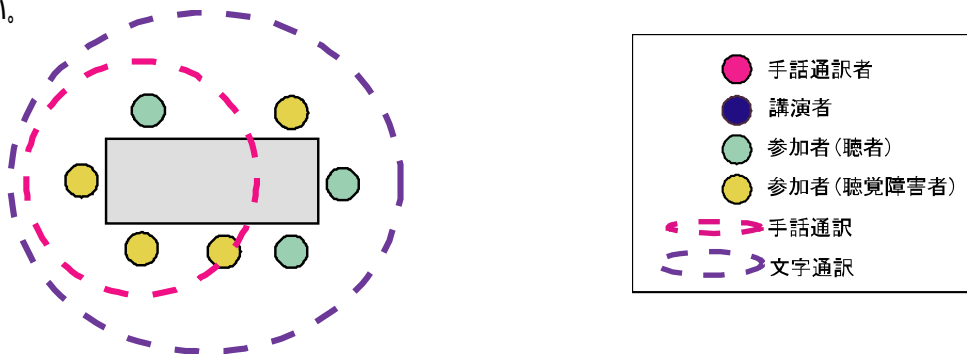


コミュニケーションの手段と質

これらの結果から、それぞれの場に適切な情報保障が考えられる。

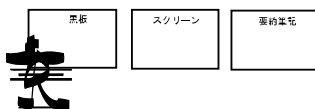
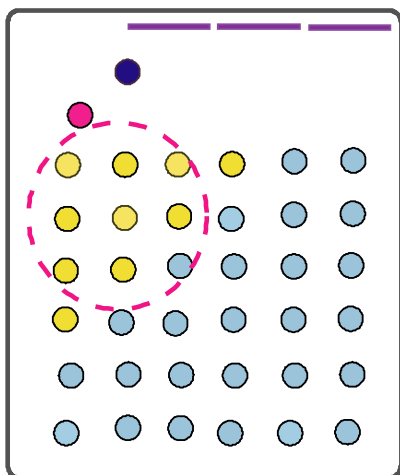
少人数ミーティングにおける情報保障

少人数のミーティングの場合、全員が向かい合う形で着席することが多いので、全員手話ができる場合は何の問題もない。しかし、手話が出来ない人は参加することが出来ない。その場合、別の通訳手段が必要になる。筆談の場合、2～8人くらいまでならコミュニケーションのスピードを妨げることはない。



これからの方向性

教室型セミナーにおける情報保障



教室型セミナーの場合、講師の話に対して、手話通訳と要約筆記の情報保障があるのがよい。加えて、講師は講義の中で補足として重要項目を黒板筆記する手段が必要である。

* 手話通訳では伝えきれないキーワードを伝える為

* 要約筆記のタイムラグを埋める即時性対応の為

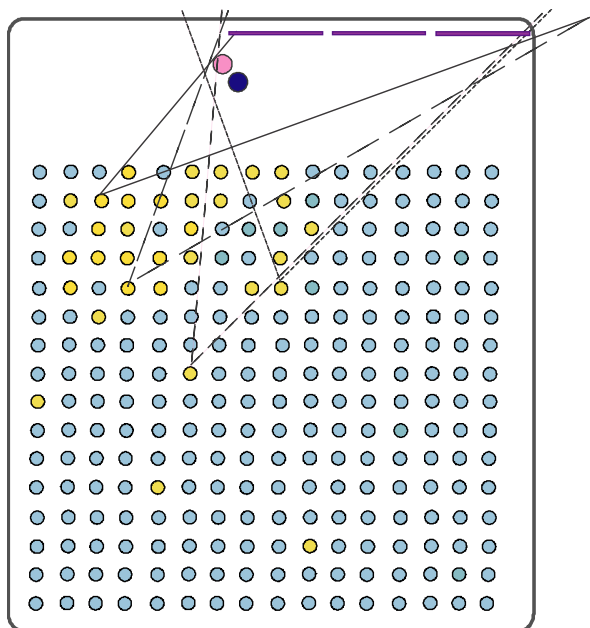
また、講義の時点では要約筆記、質疑応答の時点では手話通訳といった保障も考えられる。現在、大学の講義などでノートテイクというボランティアが行われているが、文字情報は記録として残るといったメリットがあり、手話通訳を聞いている障害者には、同時にノートをとるといったことが不可能なため、文字情報保障の優位性がある。

講演会における情報保障

講演会の場合、講演者の話を出来るだけ正確に同時に伝える情報保障が求められる。手話は、そのスピードには非常に対応しているが内容の伝達率は講演の内容が高度、専門性が高くなるに従い低くなる傾向がある。しかし、質疑応答の場合、緊急性がある場合には、極めて有効である。

要約筆記は、内容の伝達率では非常に高い。しかし、読話や手話と併用して話を聞く場合、タイムラグがあるため、重要なキーワードや専門用語などを理解するためには不都合である。講演者が、キーワードを同時に伝達するための手段（黒板筆記・パワーポイント等）を併用すると、非常に情報保障の質が高くなる。

また、視覚範囲の延長線上に、講演者も含め、情報保障が並ぶという必要性もある。



これからの方向性

3 今後の課題

聴覚障害者への情報保障を考えると、そのコミュニケーション内容と質によって、伝達内容や重要度が違うため、その手段や方法論が変わる。

日常会話や少人数のミーティングにおいては、会話内容の難易度が高くなく即時性重視のため、手話が非常に有効である。それは、近いところに聴覚障害者がいる聴者の手話習得率が高かったり、手話ができる聴覚障害者自身も手話ができる聴者と親しくなる傾向からもわかる。

しかし、参加する人数や規模が大きくなるにしたがって、情報保障の整備が問われる。情報保障の必要な内容の種類によって整備されるべき情報保障が異なるが、内容が専門的で高度になるほど、文字言語による情報保障のほうが正確に伝わる。

要約筆記の場合、手書きとパソコン入力があるが、今後はパソコン入力のほうが主流になると思われる。そのときに、自動要約機なのか人の入力なのかによってまた異なる。自動要約機の即時性は高いが、音声情報全てを自動的に文字情報にするときの煩雑さがある。即時性への対応ということについては、通訳者のスキルUPや情報技術の発達によって今後改善されていくであろう。

同時に、音声情報全てを文字情報に置き換えた場合、今度は情報の受け手側の情報取得スキル(理解度)に問題が見えてくる。読む力、理解する力の程度によって、参加者にあった文字情報を送るということの必要性がある。これは、要約技術によるところが多い。

また、娯楽的なイベントにおいては、その芸術性をこわさない情報保障を考える必要がある。会場全体に情報保障を整備するよりも、障害者個別に対応できる情報保障システム(たとえば、RWC)がより良いといえる。

今後、情報保障を考える場合、情報のバリアフリーとしての情報保障、マインドバリアフリー(ソフト)としての情報保障、環境の整備(ハード)としての情報保障を軸に、やさしくつながれた情報保障を考えていくべきであろう。